

金沢工業大学 御中

平成21年度 授業調査 報告書

---

2010.09.21

有限会社 アイ・ポイント

## INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	39
<6>同一学生群の分析	46
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	52
<8>全体のまとめ	56

## <1>本調査の全体像

## 1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度から質問項目を変更しており、今回が5年目となるため、5年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

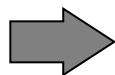
## 2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生	36,196件				
	2年次生	28,539件				
	3年次生	21,439件	※クラス未記入の回答(2件)、科目名などの基本項目が全て未記入の回答(2件)は集計から除いた。			
	4年次生	234件				
	合計有効回答数	86,408件				
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。今回から前後期制となっている。					
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
年度	前期	後期	全回答数	調査票		
平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票		
対象科目	445科目					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。</li> <li>・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。</li> <li>・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。</li> </ul>					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

## 3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



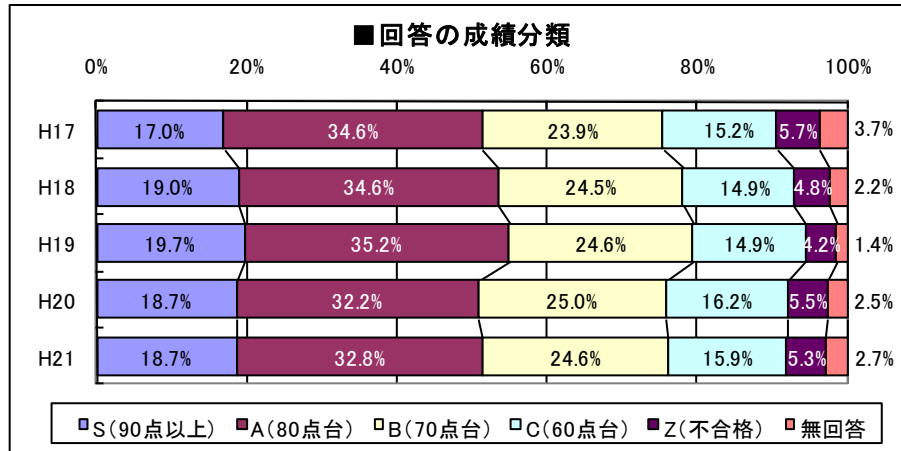
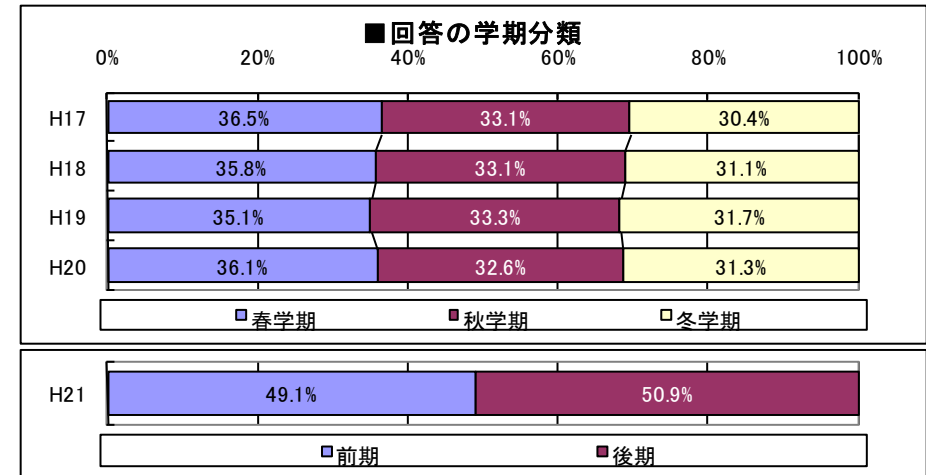
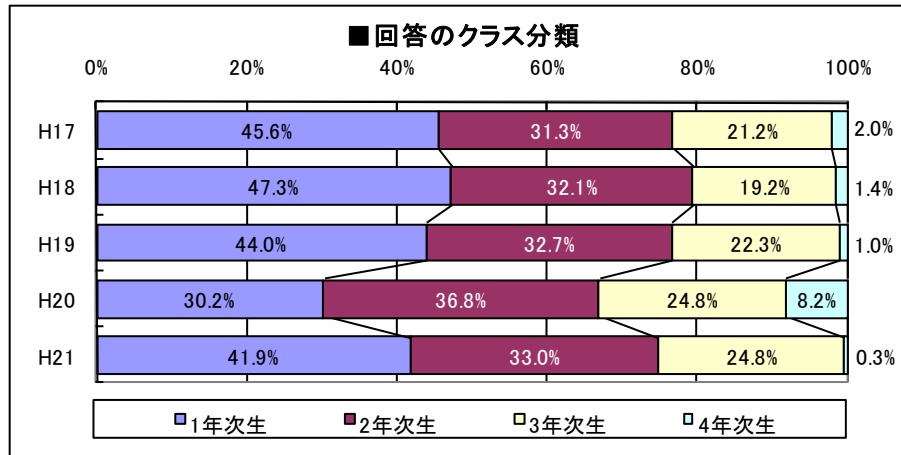
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることはできましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

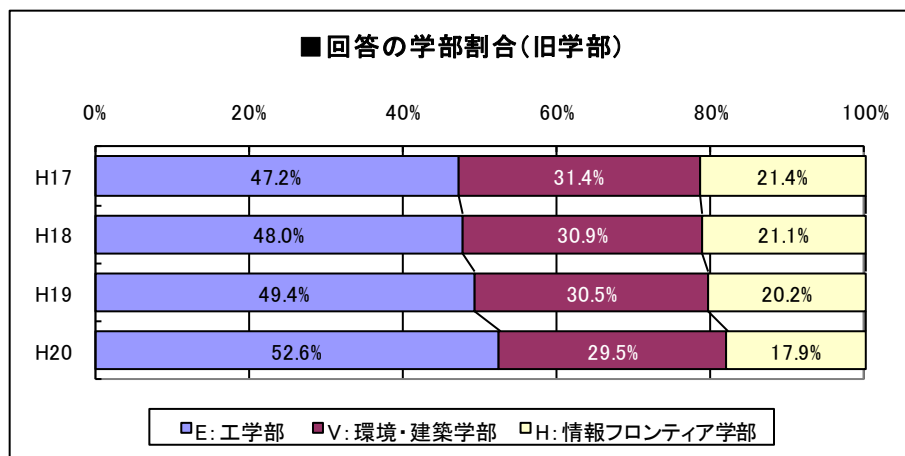
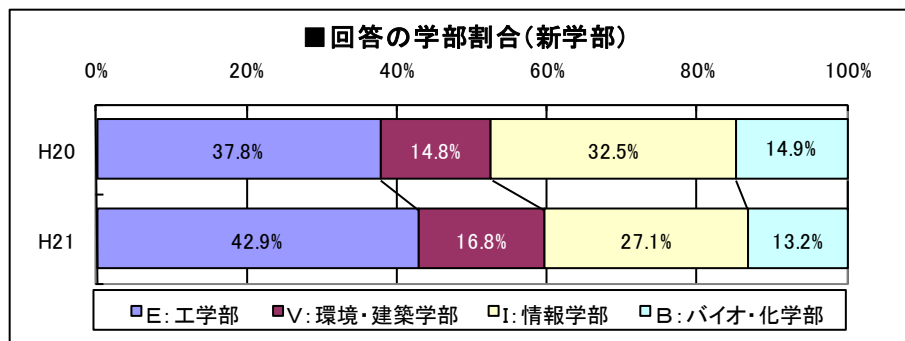
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

# <1-2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- クラス分類では「1年次生」が41.9%、「2年次生」が33.0%、「3年次生」が24.8%、「4年次生」は0.3%であり、H17～H19とほぼ同じであった。
- 今回の調査より学期が前期と後期の2期制となっており、前期が49.1%、後期が50.9%であり、ほぼ半々という結果となっていた。
- 成績別の割合では「S」が18.7%、「A」が32.8%、「B」が24.6%、「C」が15.9%、「Z」が5.3%であり、これまでの調査とそれほど大きな差は見られなかった。



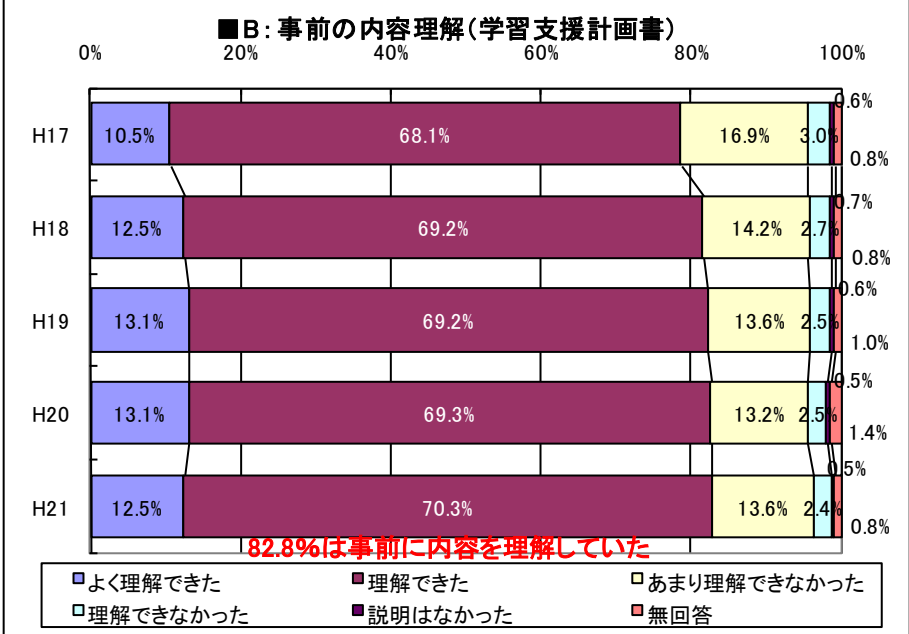
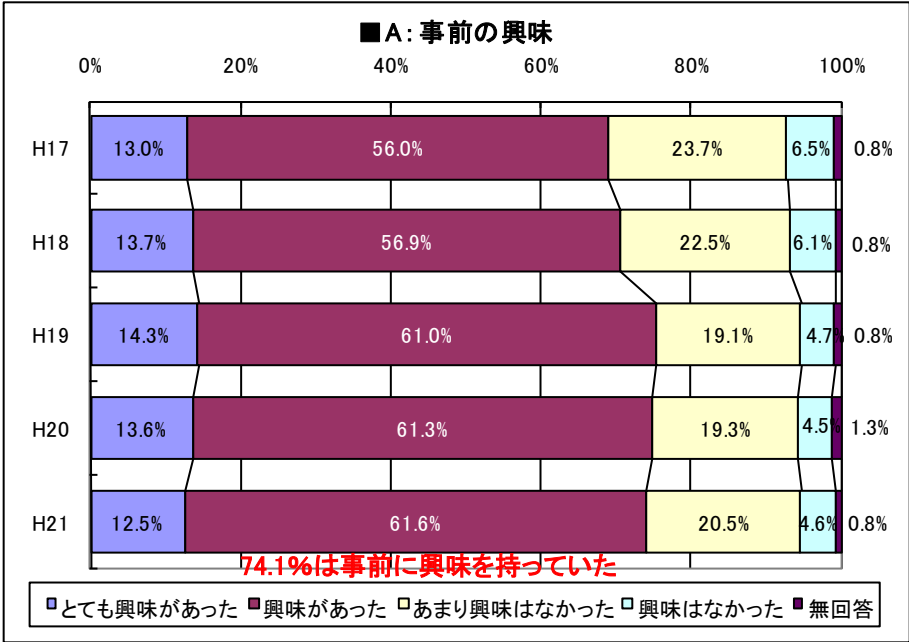
- 今回の調査では「1年次生」～「2年次生」が新学部体制、「3年次生」～「4年次生」が旧学部体制となっているため、学部毎の割合も新旧の2つの体制で確認した。
- 4学部の新学部体制では「E:工学部」が42.9%と最も多く、次いで「I:情報学部」が27.1%、「V:環境・建築学部」が16.8%、「B:バイオ・化学部」が13.2%という割合であり、H20と比べると「E:工学部」の増加と「I:情報学部」の減少が目立っていた。
- 3学部の旧学部体制では「E:工学部」が52.6%と最も多く、「V:環境・建築学部」が29.5%、「H:情報フロンティア学部」が17.9%という割合であった。H17より継続的に「E:工学部」が増加する傾向が続いており、今回もH20を3.2ポイント上回り、「V:環境・建築学部」「H:情報フロンティア学部」はわずかに減少していた。



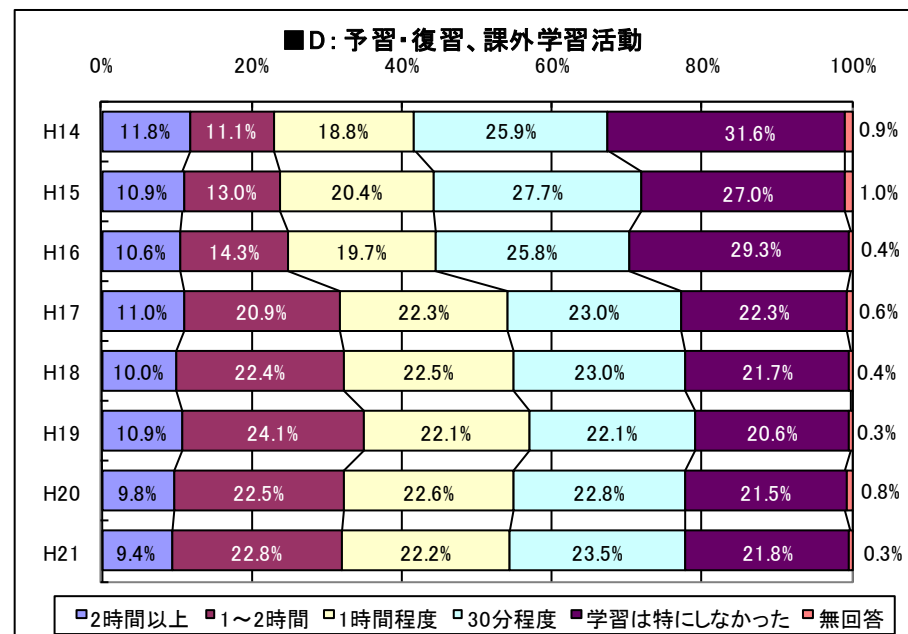
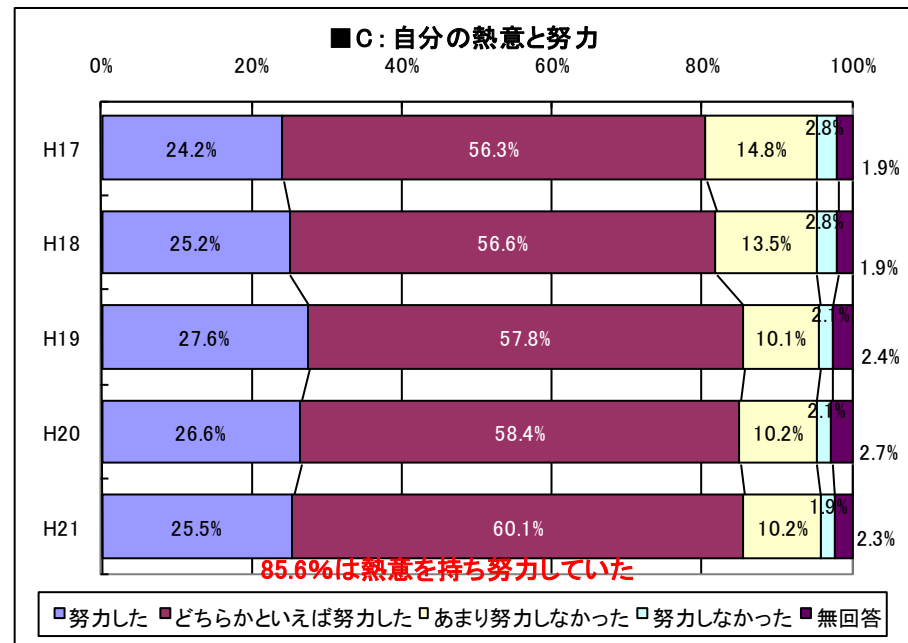
## <2> 基本的な分析



- 「A:事前の興味」に関しては、「とても興味があった」が12.5%、「興味があった」が61.6%であり、合わせると74.1%の学生が事前に授業に興味を持って受講していたということであった。
- 以前と比較すると、H19より興味を持っている学生がわずかに減少する傾向が続いており、今回もH20より0.8ポイント減少していた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」は、最初の授業の際に授業の進め方や授業によって身につく能力などを理解していたかどうかを聞いているが、「よく理解できた」が12.5%、「理解できた」が70.3%であり、合わせると82.8%は内容を理解した上で授業を受けていることが分かった。
- 事前に理解していた学生の割合は、以前と比較してもあまり大きな変化はないものの、H17よりわずかず増加する傾向が続いており、事前の説明が徹底されている様子がうかがえた。

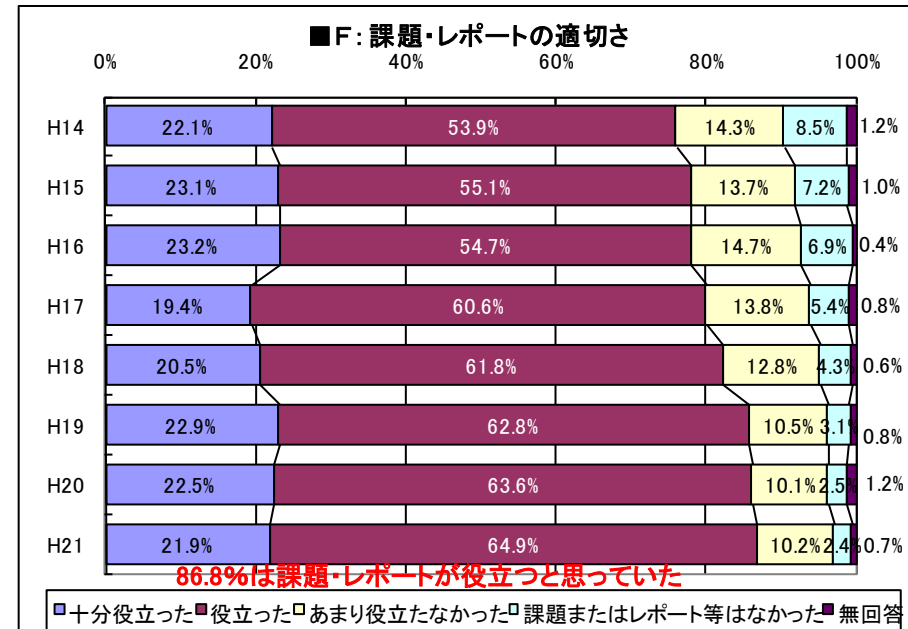
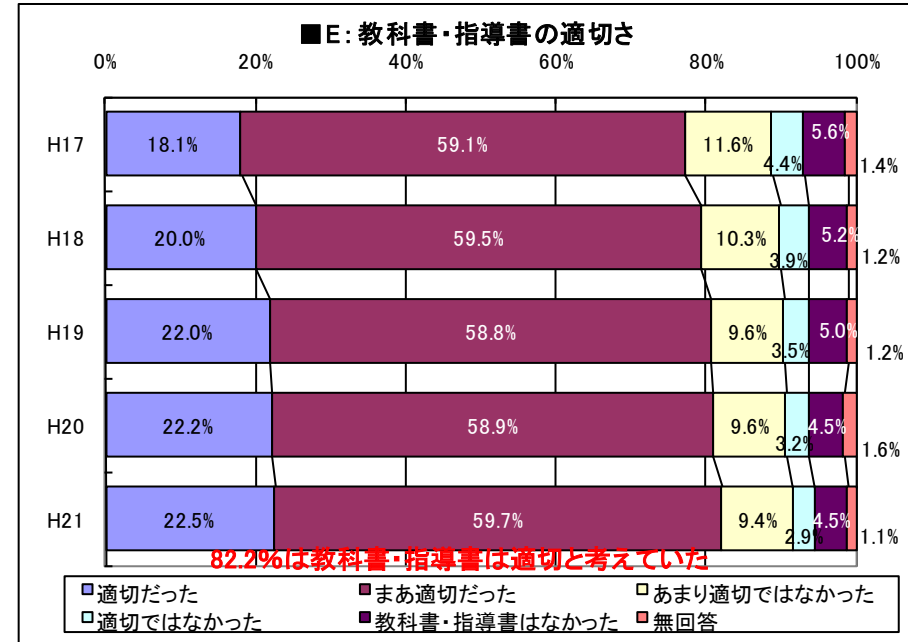


- 「C:自分の熱意と努力」では「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」と聞いているが、「努力した」は25.5%、「どちらかといえば努力した」は60.1%であり、合わせると85.6%が熱意を持って努力したと答えており、学生の積極性がうかがえた。
- 以前と比較すると、それほど大きな変化ではないが、「努力した」がH19よりわずかずつ少なくなってきており、「努力した」と「どちらかといえば努力した」の合計は、H19からほとんど変わっていない。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか?」と聞いているが、最も多かったのは「30分程度」の23.5%であった。そして、「2時間以上」が9.4%、「1~2時間」が22.8%、「1時間程度」が22.2%であった。
- 「学習は特にしなかった」は21.8%であり、8割の学生は何らかの学習をしていることが分かった。
- 以前と比較すると、H17以降はそれほど大きな変化は見られなかったが、「2時間以上」はわずかずつ減ってきており、「30分程度」は前回よりもやや増加していた。

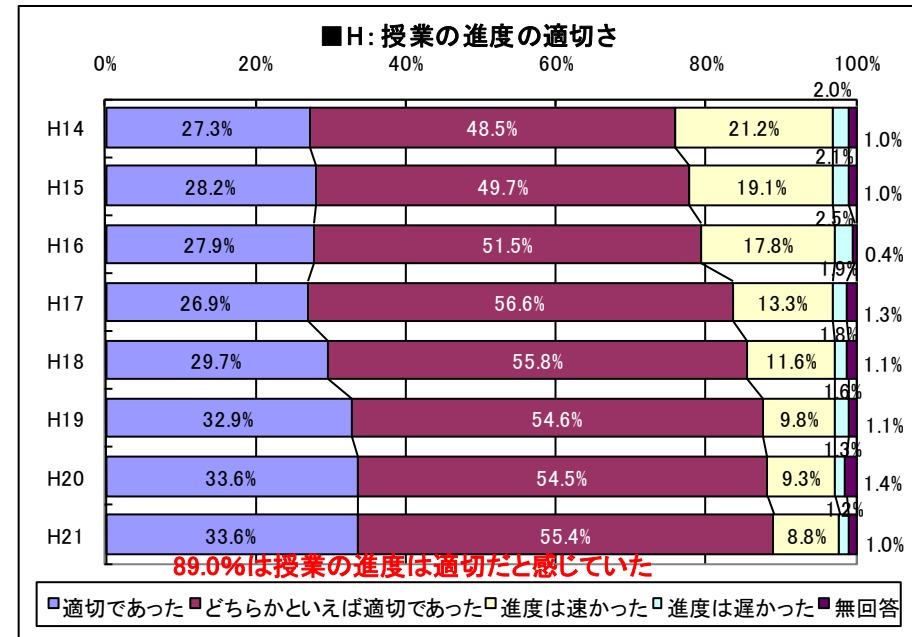
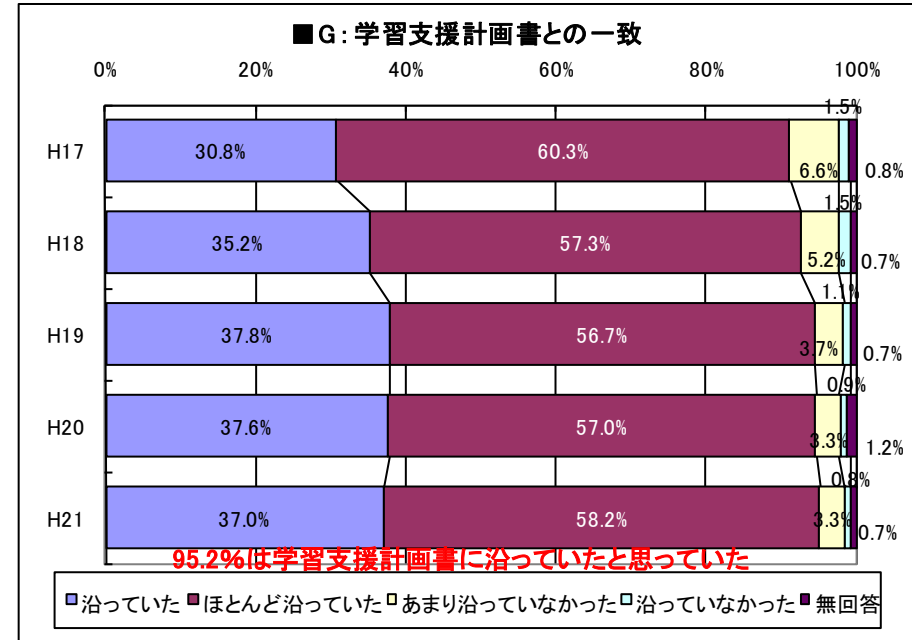


※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

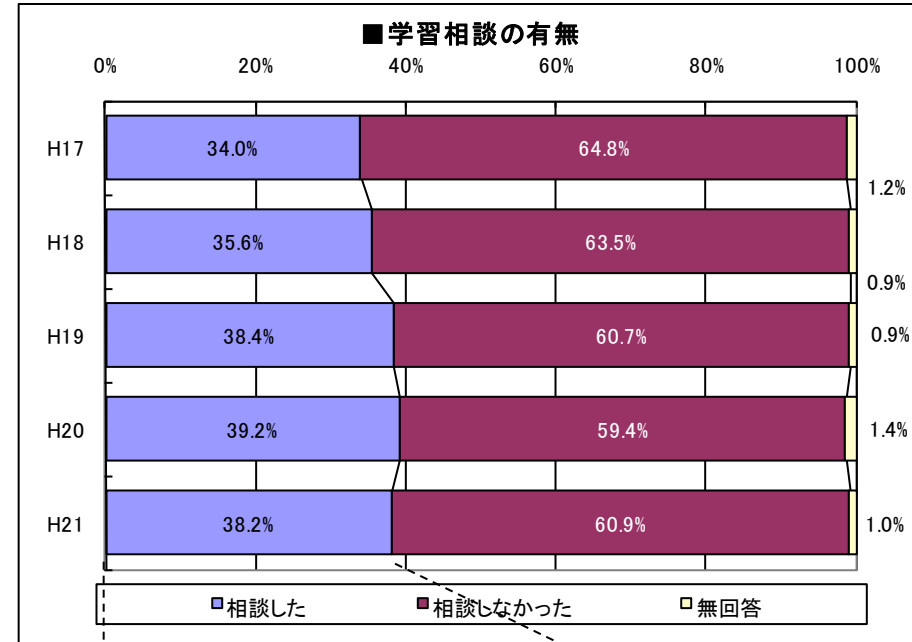
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が22.5%、「まあ適切だった」が59.7%であり、合わせると82.2%は教科書・指導書が適切だと感じており、適切でなかったと感じていたのは12.3%であった。
- 「適切だった」の割合はH17より継続的に増加しており、H17とH21の差は4.4ポイントであった。そして、「適切だった」と「まあ適切だった」の合計も継続的に増加しており、教科書・指導書はわずかずつではあるが改善が進んでいると言える。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか」という質問であるが、「十分役立った」が21.9%、「役に立った」が64.9%であり、課題・レポートの評価も高かった。
- 「十分役立った」の割合はH14からそれほど変わっていないが、「役に立った」は増加傾向にあり、合計の割合を見ると評価はH14から継続的に良くなってきており、ここでも改善が進んでいることがうかがえた。



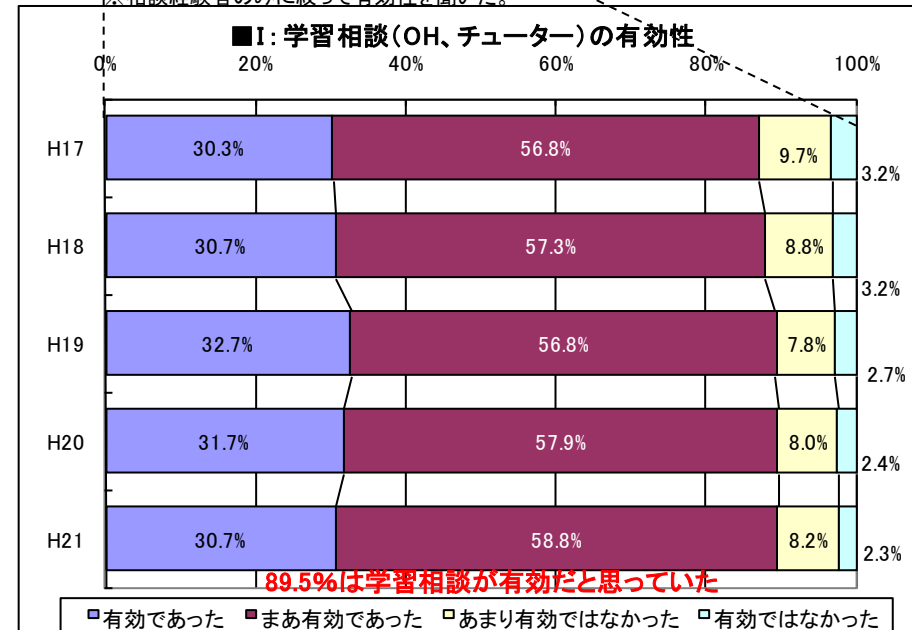
- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が37.0%、「ほとんど沿っていた」が58.2%であり、95.2%は問題ないと考えているようであった。
- 「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」の合計を見ると、わずかずつではあるがH17から継続的に増加しており、改善が見られる。ただし、「沿っていた」だけを見ると、H19からわずかに減少傾向にあった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が33.6%、「どちらかといえば適切であった」が55.4%であり、89.0%が授業の進度に問題を感じていなかった。
- 授業の進度が適切と感じている学生の割合はH14から継続的に増加しており、改善が進んでいると言え、今回もH20よりも改善されていた。



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」と聞いているが、まず、「相談の有無」を確認すると、「相談した」は38.2%、「相談しなかった」は60.9%であり、学習相談をしない学生が6割いることが分かった。
- 「相談した」の割合はH17からH20までは増加する傾向にあったが、今回は前回より1ポイントとわずかではあるが減っていた。
- 相談の経験がある学生だけに絞って「相談の有効性」を見たところ、「有効であった」が30.7%、「まあ有効であった」が58.8%であり、合わせると89.5%は学習相談の有効性を感じていた。
- 以前との比較では、それほど大きな変化はないものの有効性を感じている学生の割合がH17から増加傾向にあった。ただし、「有効であった」だけを見ると、H19をピークとして、H20、H21では前年度を下回っていた。



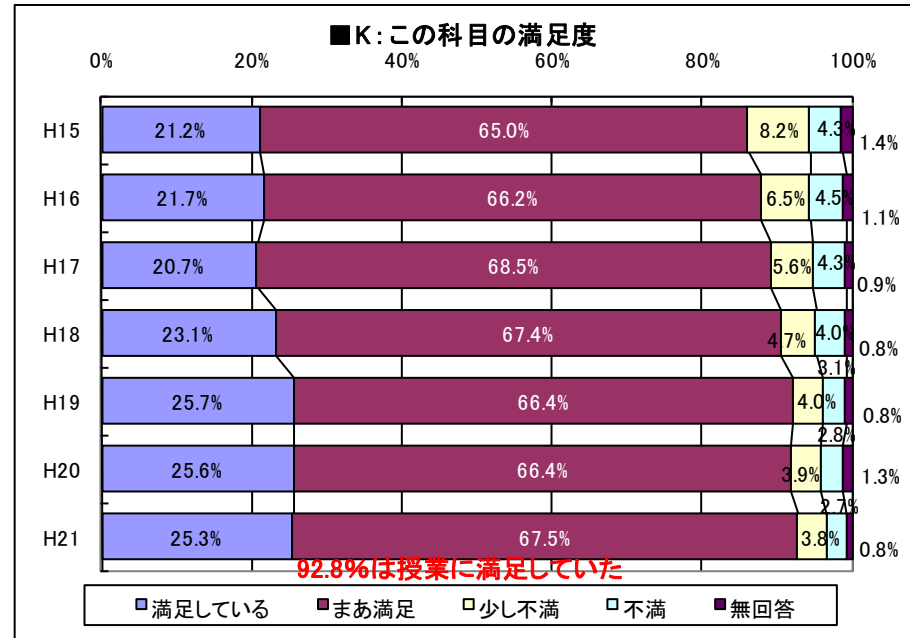
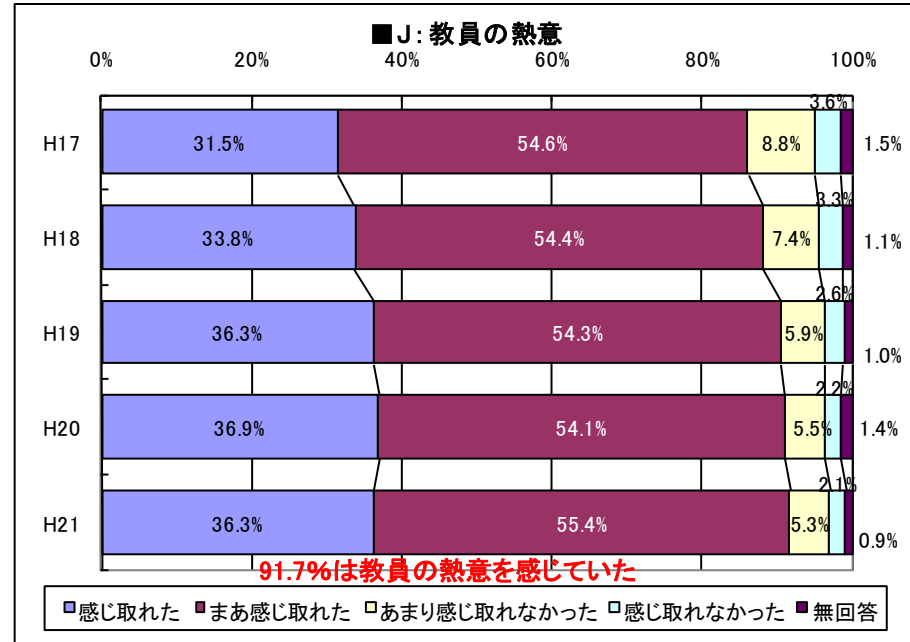
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が36.3%、「まあ感じ取れた」が55.4%であり、9割以上の学生は教員の熱意を感じているようであった。
- 教員の熱意を感じているという学生はH17から継続的に増加しており、H17とH21を比べると5.6ポイント増加していた。教員が熱意を持って学生を指導するようになってきている様子がうかがえた。
- 「K:この科目の満足度」は最も重要な指標であるが、「満足している」が25.3%、「まあ満足」が67.5%であり、合わせると92.8%は各授業に満足していると答えており、高い満足度であることが分かった。
- 「満足している」だけを見るとH19からほとんど変わっていないが、「まあ満足」を加えるとH15から継続的に増加しており、わずかながら満足度が上がり続けていることが分かる。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8

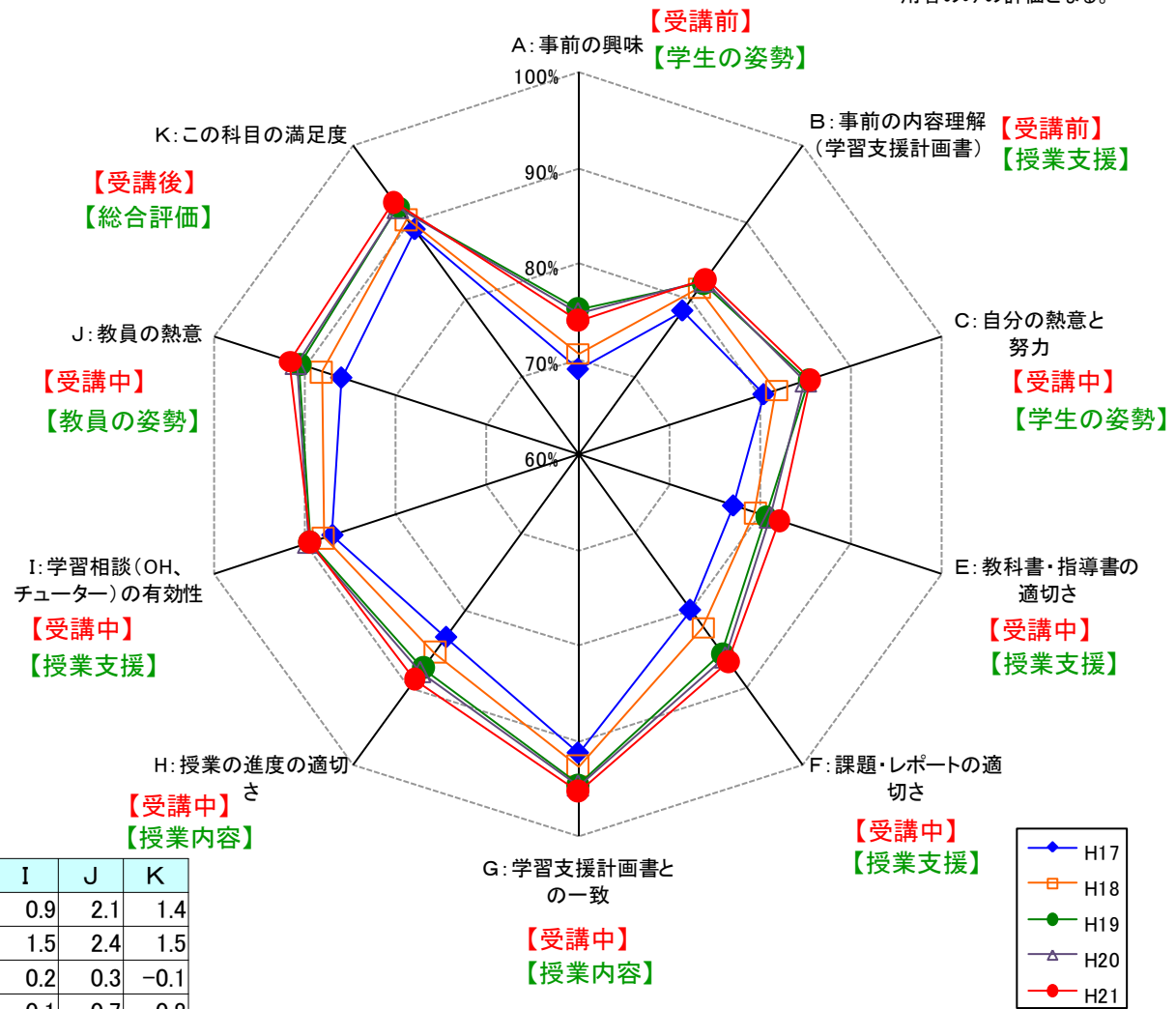


# <2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 全体的な傾向を確認するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにまとめた。肯定的な意見として集計できない「D:予習・復習、課外活動」は加えておらず、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の意見のみを集計している。
- 単純に肯定的な意見の比較をできるものではないが、全体の傾向を見ると、「K:この科目の満足度」「J:教員の熱意」といった項目で肯定的な意見が多く、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」「G:学習支援計画書との一致」といった授業をサポートする機能の評価も高めであった。
- 肯定的な意見が少なかったのは「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」であった。
- 以前と比較すると、H21は全体的に肯定的な意見が増加しており、「E:教科書・指導書の適切さ」「H:授業の進度の適切さ」「K:この科目の満足度」「J:教員の熱意」などは前回は0.7~1.1ポイントほど上回っていた。
- 一方、「A:事前の興味」は前回より0.8ポイント低下しており、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」も0.1ポイントと、わずかであるが低下していた。

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



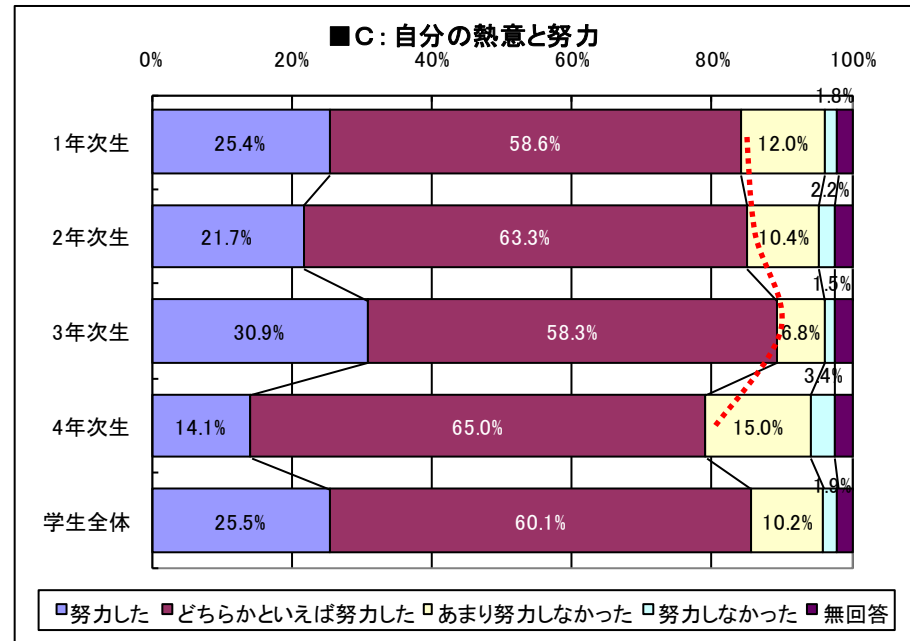
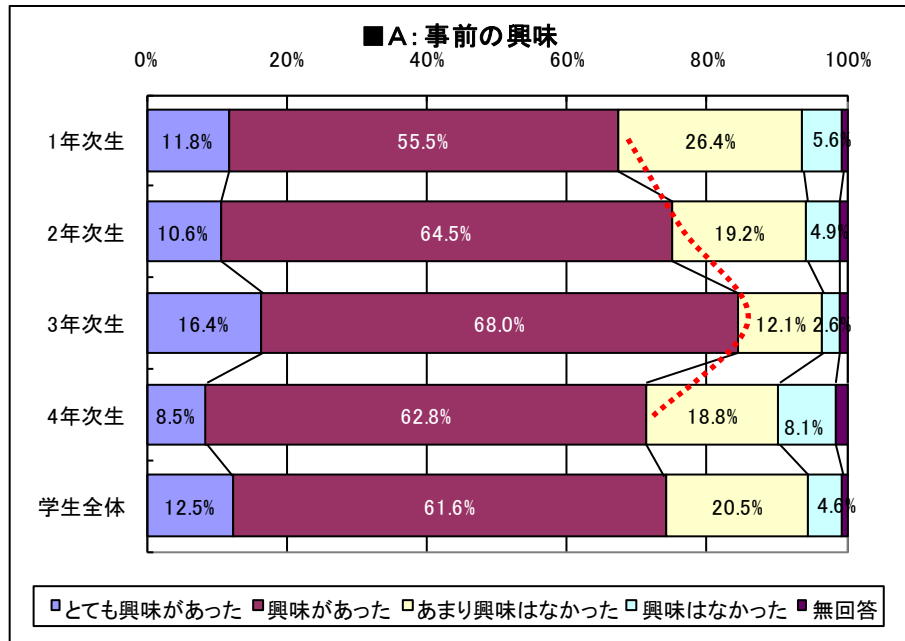
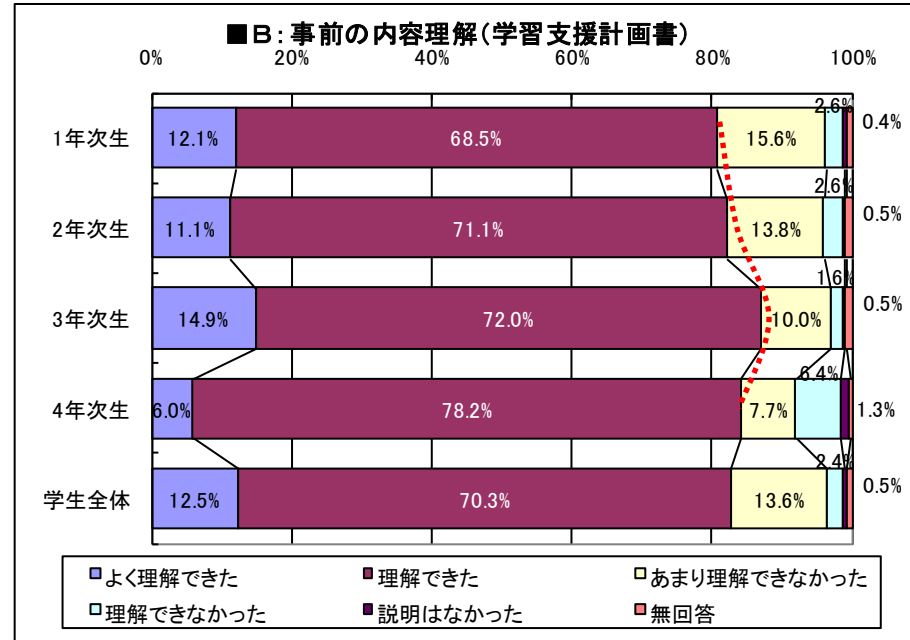
■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8

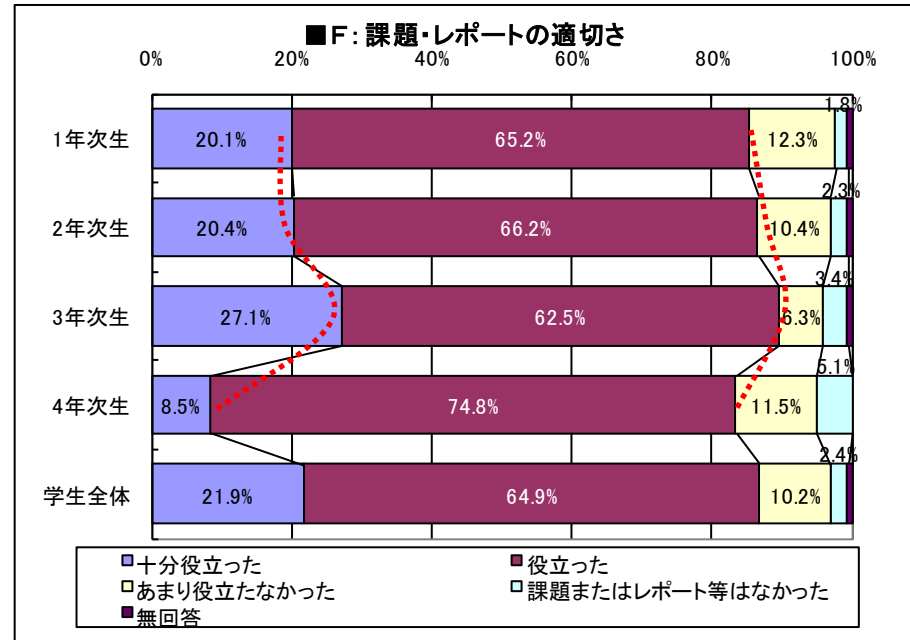
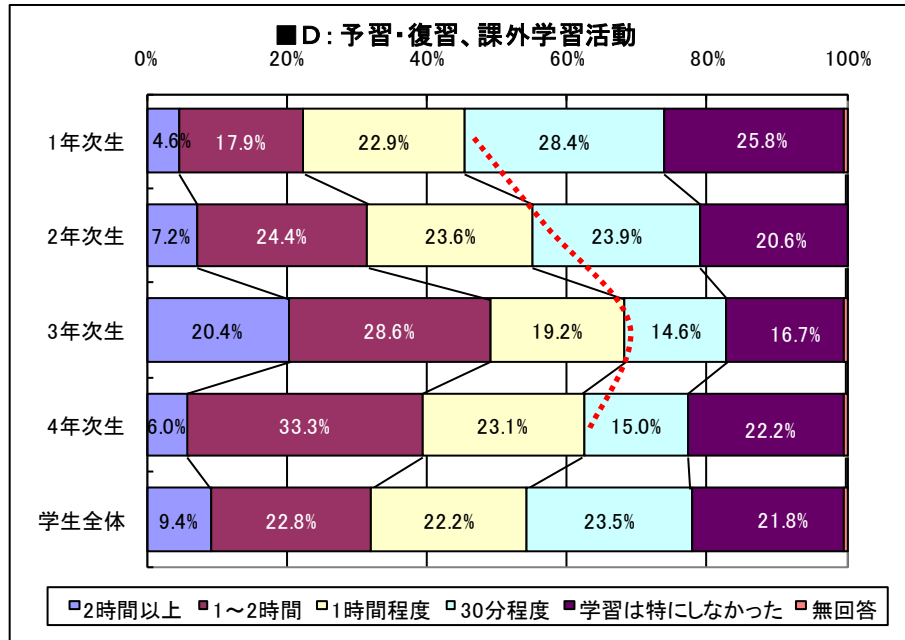
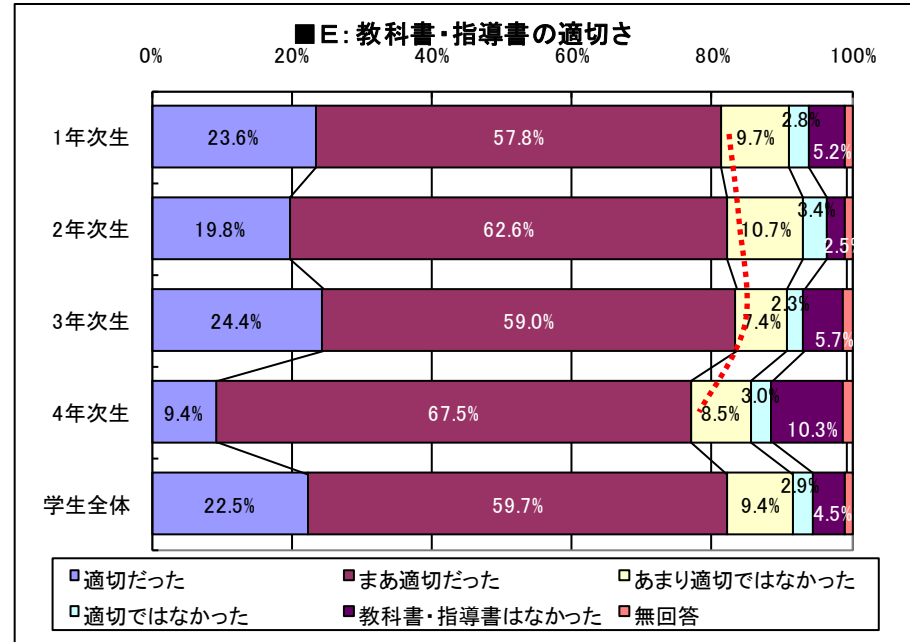
### <3> 学年別の分析



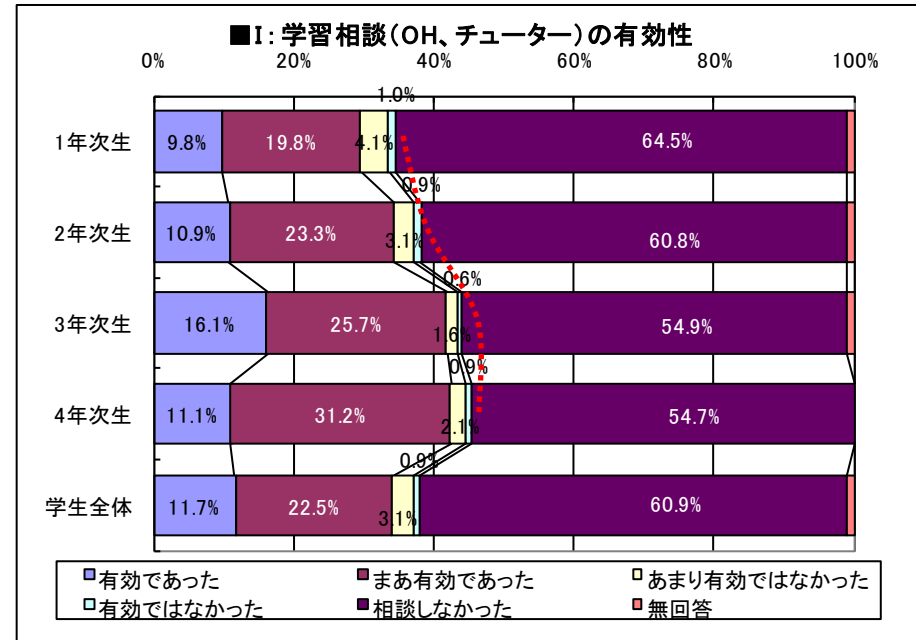
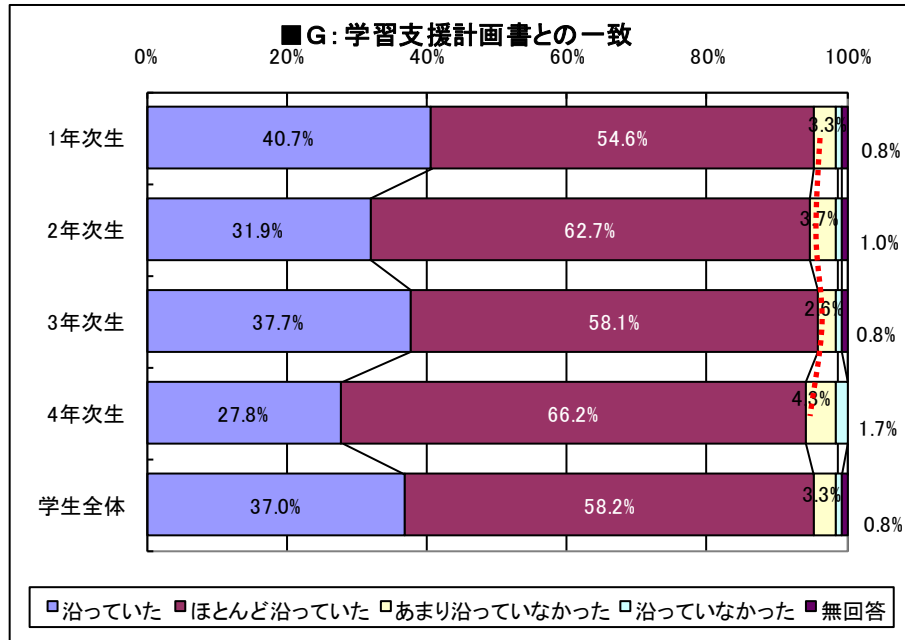
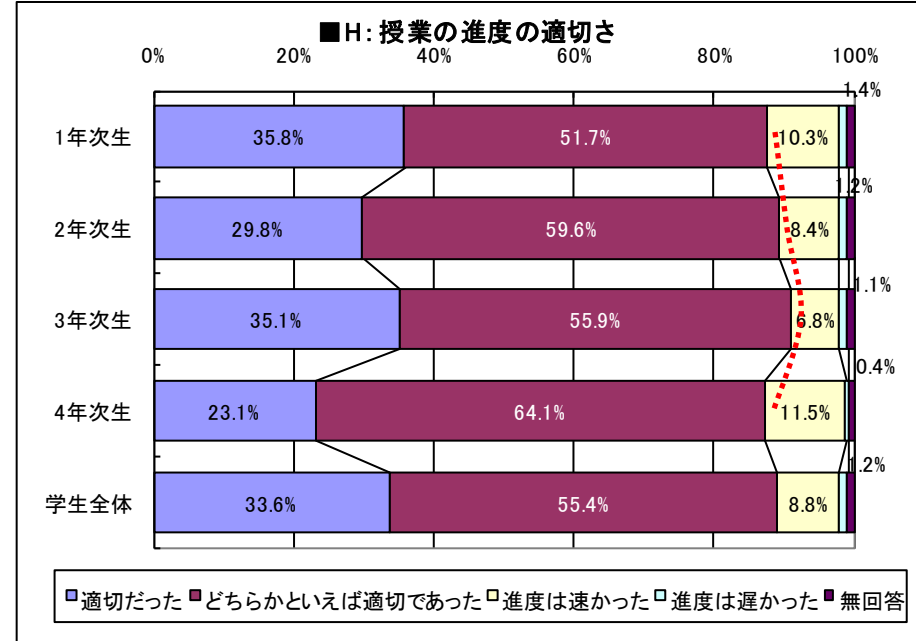
- 学年別の比較を見たところ「A:事前の興味」では「3年次生」の興味が最も強く、「1年次生」と「4年次生」の低さが目立っていた。「1年次生」で興味を持っているという回答は67.3%と低く、これを高めることが大きなポイントになると思われる。
- 「B:事前の内容理解」は学年による差がそれほど大きくないが、「3年次生」で肯定的な意見がやや多く、「1年次生」が低めであり、1年次生では事前の理解が足りていない様子うかがえた。ただし、「よく理解できた」だけで比較すると「4年次生」の低さが目立っていた。
- 「C:自分の熱意と努力」は「4年次生」が非常に低いという特徴が見られた。そして、それほど差はないが「3年次生」が努力している傾向うかがえ、「1年次生」と「2年次生」にはそれほど差が見られなかった。



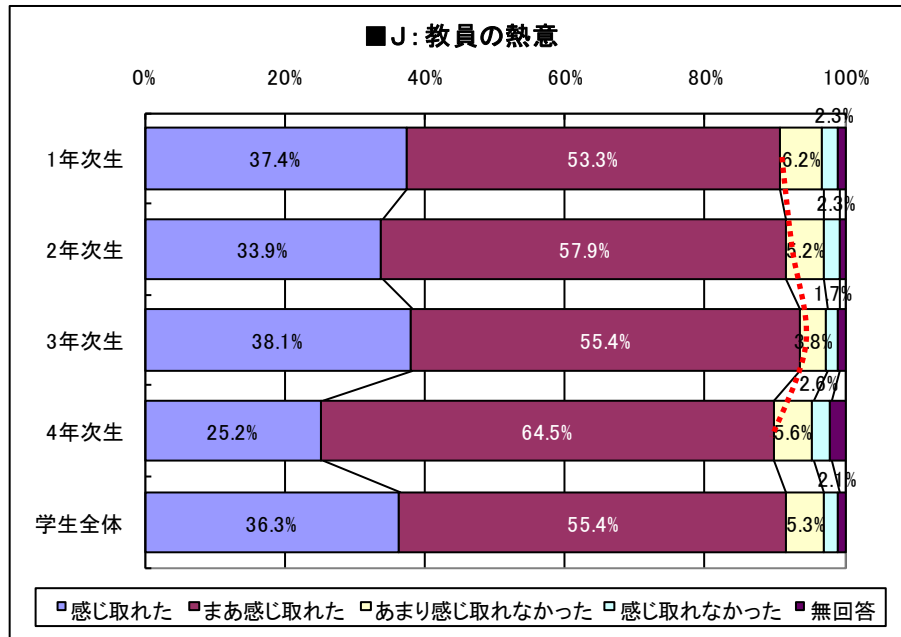
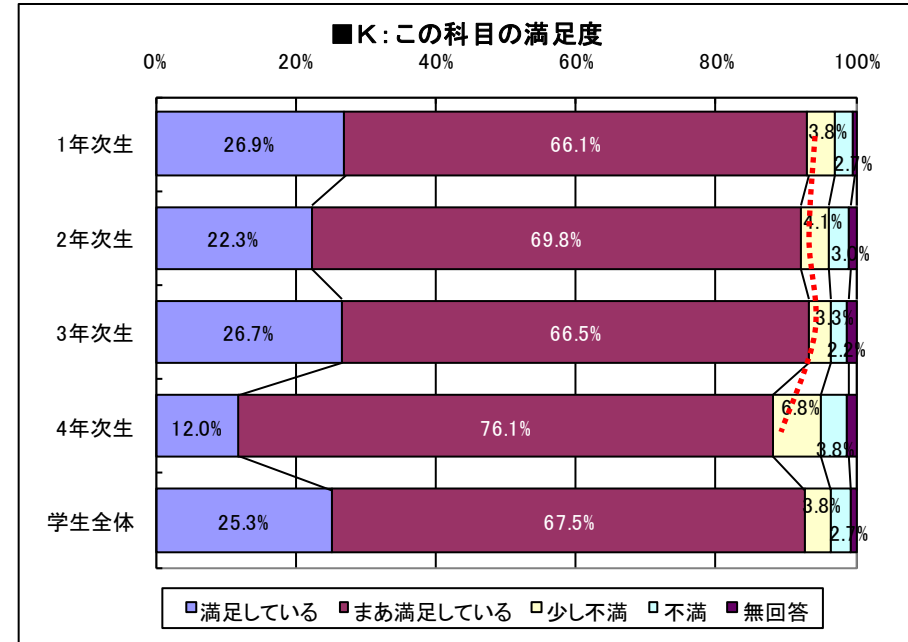
- 「D:予習・復習、課外学習活動」では「3年次生」の学習時間の長さが目立っており、「2時間以上」が20.4%と非常に多く、「学習は特にしなかった」は16.7%であった。一方、最も時間が少なかったのは「1年次生」であり、「学習は特にしなかった」が25.8%であった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学年による差が少なかったが、「4年次生」で「適切だった」という意見が少なく、「教科書・指導書はなかった」の多い点が特徴的であった。他の学年の差は少なかったが、「3年次生」で肯定的な意見がやや多かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」では、「3年次生」で「十分役立った」が多く、課題・レポートを高く評価しているようであった。一方、「4年次生」では役立つという意見が少なく、「十分役立った」は8.5%に留まっていた。



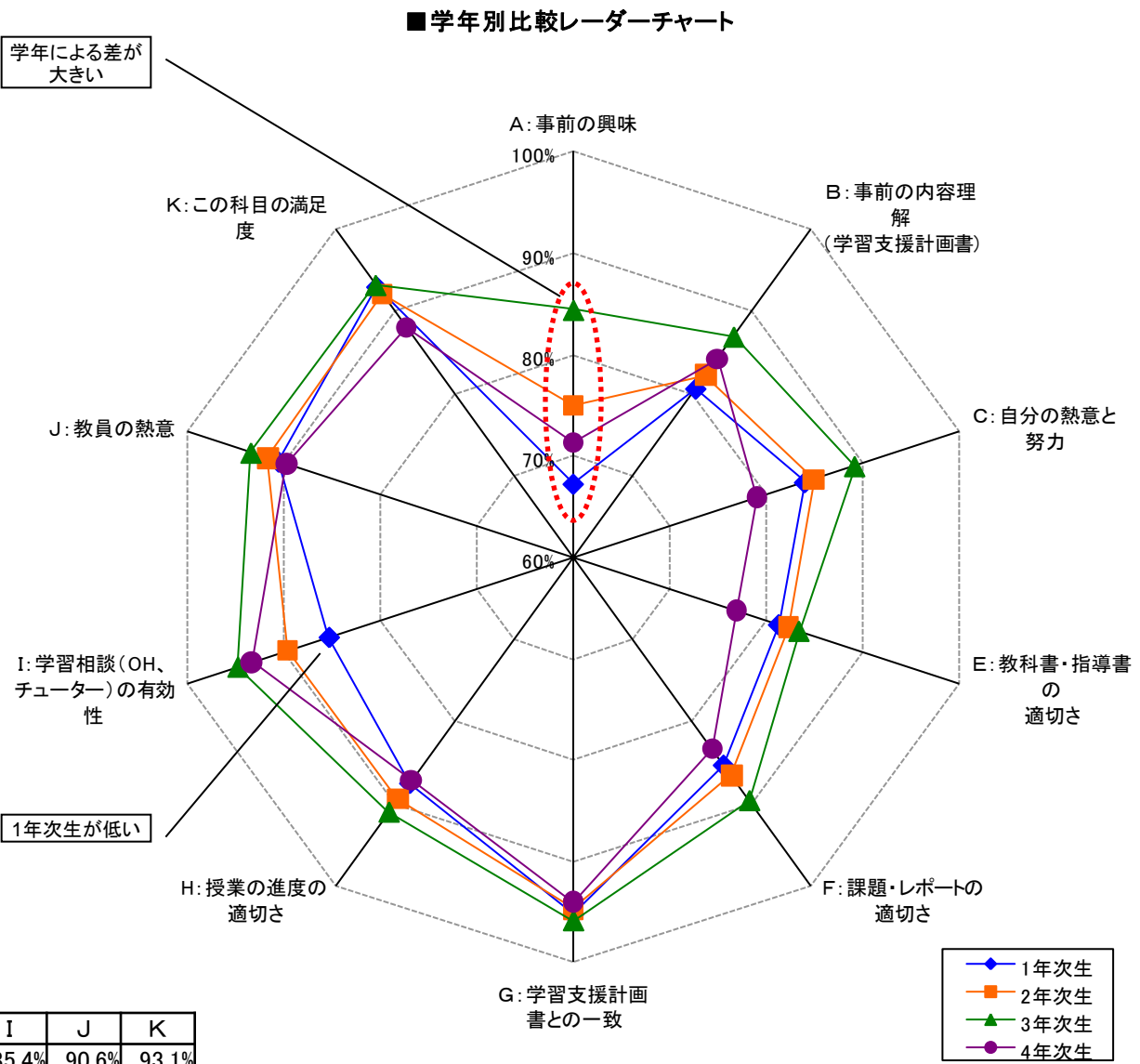
- 「G:学習支援計画書との一致」は全ての学年で高い評価となっていたが、「沿っていた」だけを見ると「1年次生」と「3年次生」で評価が高く、「2年次生」と「4年次生」でやや低めであった。実質的に「4年次生」では通常授業が終わっているため、問題は「2年次生」の評価のみになると思われる。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「3年次生」の評価がやや高いものの学年による差は小さかった。ただし、「適切だった」だけを比較すると「1年次生」と「3年次生」の評価が高く、「2年次生」と「4年次生」の評価が低めであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を比較すると学年が上がるほど相談している学生の割合が増加しており、低学年は十分に活用できていないという状況がありそうであった。また、内容の評価を見ると「3年次生」で「有効であった」が多く、3年次生は学習相談を高く評価している傾向がうかがえた。



- 「J:教員の熱意」も全学年で高い評価であったが、「3年次生」がやや高い傾向が見られた。ただし、「感じ取れた」だけを見ると「1年次生」も高く、教員の熱意を感じているようであった。一方で「4年次生」は、教員の熱意を感じている学生が少ないようであった。
- 「K:この科目の満足度」では「4年次生」の満足度が低めであったが、他の学年では高めであった。「満足している」だけを見るとここでも「1年次生」と「3年次生」の評価が高く、「2年次生」が低い傾向が見られた。
- 前項でも見たように、実質的に一般科目が終了している「4年次生」を除くと、「2年次生」の満足度が低い点が課題であり、要因を探っていく必要があると言える。



- 学年別に比較するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにプロットした。
- 全体的に見て目立っていたのは「3年次生」であり、全ての項目で最も肯定的な意見が多く、授業や教員を高く評価し、自分自身もしっかりと努力しており、満足度も高いようであった。
- 一方、「4年次生」は全般的に肯定的な意見が少なく、授業に関しては充実していないようであった。ただし、「学習相談」の利用度は高く、内容も高く評価していた。
- 「1年次生」は「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」が低い点が目立っており、しっかりと事前準備を行わせる必要があると思われる。また、「学習相談」の利用促進も課題になると思われる。
- 「2年次生」は全体的に「3年次生」に次いで肯定的な意見が多かった。ただし、「K:この科目の満足度」などの回答を見ると「まあ満足している」が多いなど、強く肯定している意見は少なく、中庸な意見が多いという特徴が見られた。

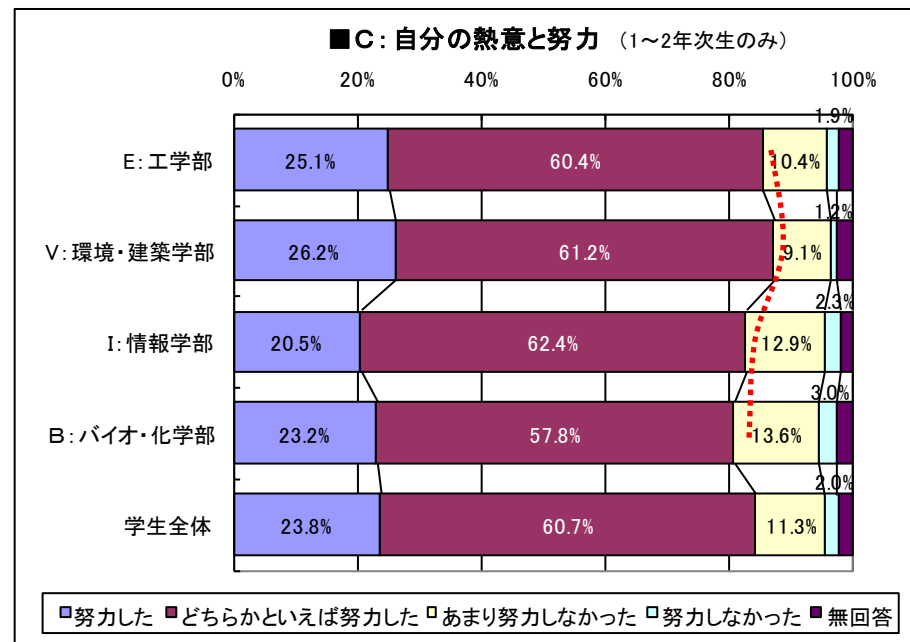
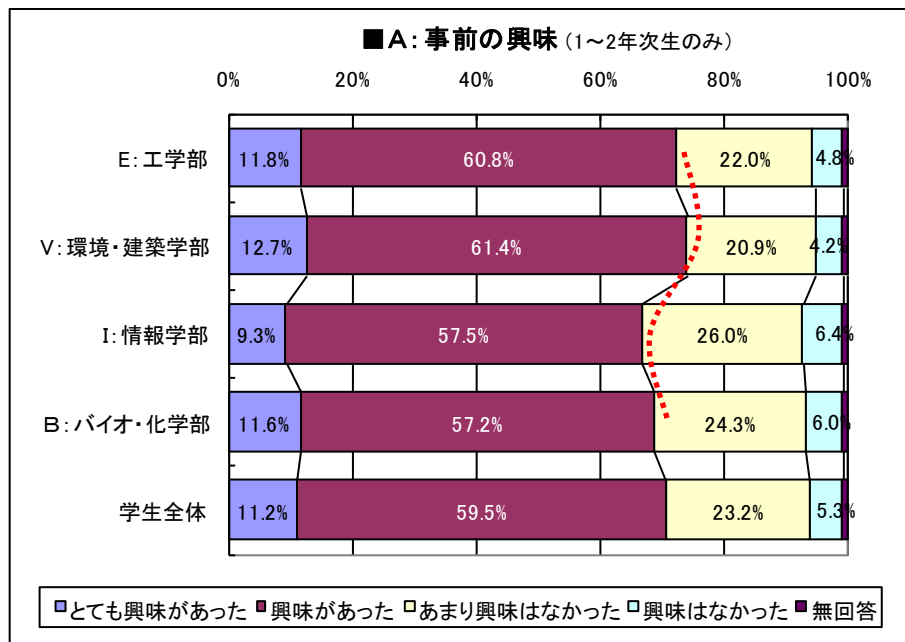
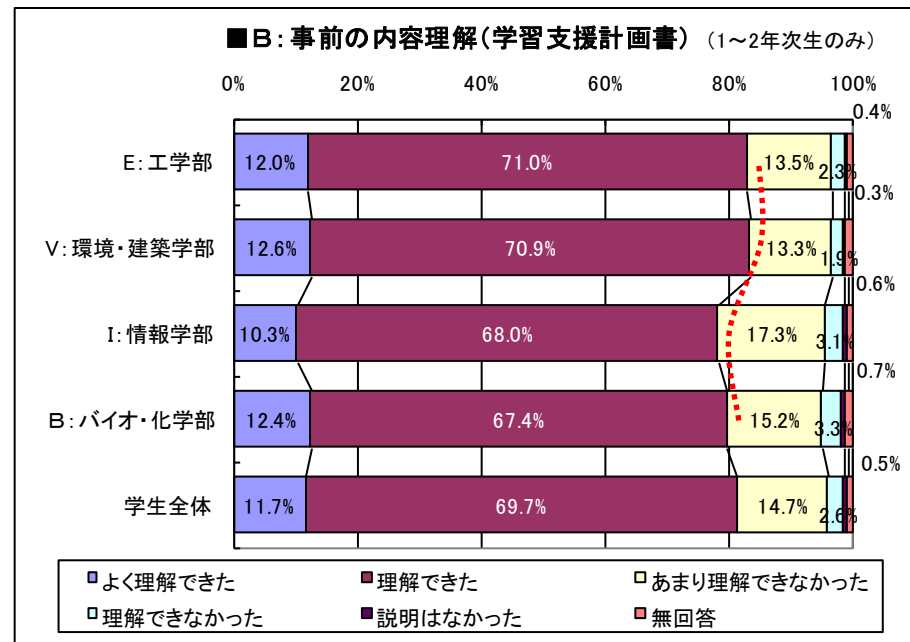


■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	67.3%	80.6%	84.1%	81.4%	85.3%	95.2%	87.5%	85.4%	90.6%	93.1%
2年次生	75.0%	82.2%	85.0%	82.3%	86.5%	94.7%	89.5%	89.6%	91.7%	92.1%
3年次生	84.4%	87.0%	89.2%	83.4%	89.6%	95.8%	91.0%	94.9%	93.5%	93.3%
4年次生	71.4%	84.2%	79.1%	76.9%	83.3%	94.0%	87.2%	93.4%	89.7%	88.0%

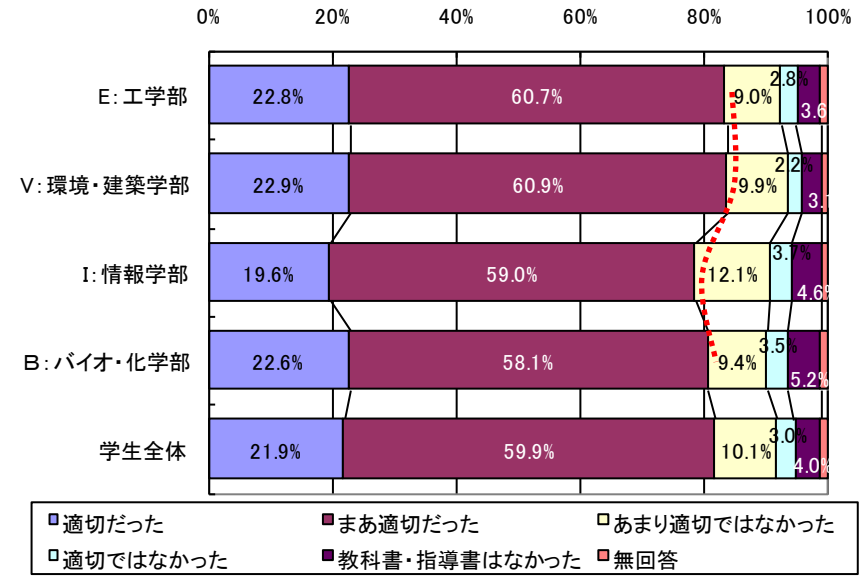
## <4> 学部・学科別の分析

- 学部は新学部体制と旧学部体制があるが、まず、「1年次生」～「2年次生」の新学部体制で学部毎の授業評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計を見ると、「V:環境・建築学部」が興味を持って授業を受けており、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」が続いており、「I:情報学部」はやや興味が高いという傾向が見られた。
- 「B:事前の内容理解」でも「V:環境・建築学部」の理解度が高めであり、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」と徐々に低下し、「I:情報学部」の理解度が最も低かった。
- 「C:自分の熱意と努力」では、「V:環境・建築学部」が最も高い点は他と同様であったが、最も積極性が低かったのは「B:バイオ・化学部」であった。「I:情報学部」では「努力した」が最も少ないが、「どちらかといえば努力した」は最も多く、ある程度は熱意を持って努力しているという学生が多いようであった。

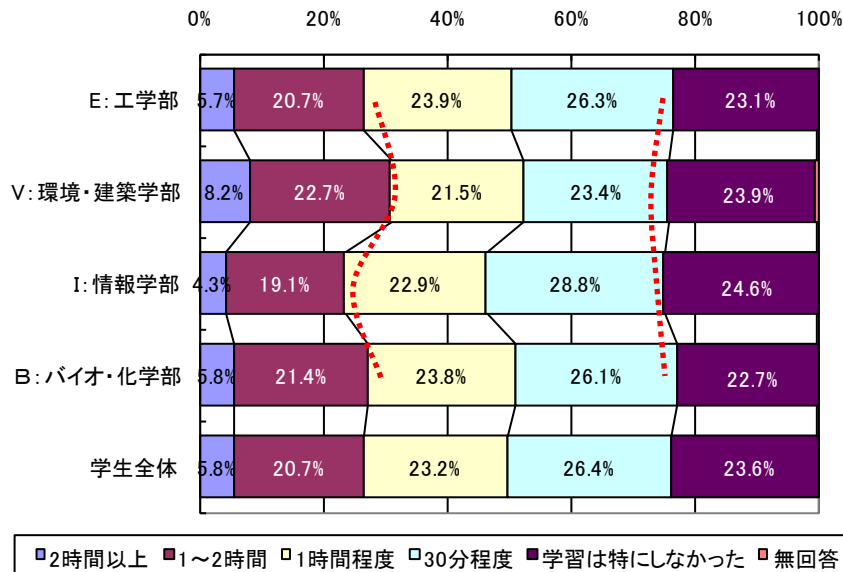


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」と「1～2時間」の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」の学習時間が最も長く、「I:情報学部」が最も短かった。「学習は特にしなかった」を見ても「I:情報学部」が最も多く、学習時間をとっていない学生が多いことが分かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では学部による差が少なかったが、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」が高く評価しており、「I:情報学部」が厳しい評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は差は少ないが「E:工学部」の評価が最も高く、「V:環境・建築学部」が続いており、「B:バイオ・化学部」が最も厳しい評価となっていた。ただし、「B:バイオ・化学部」では「課題またはレポート等はなかった」という回答が6.1%と多く、学部による方針の違いがあるものと思われる。

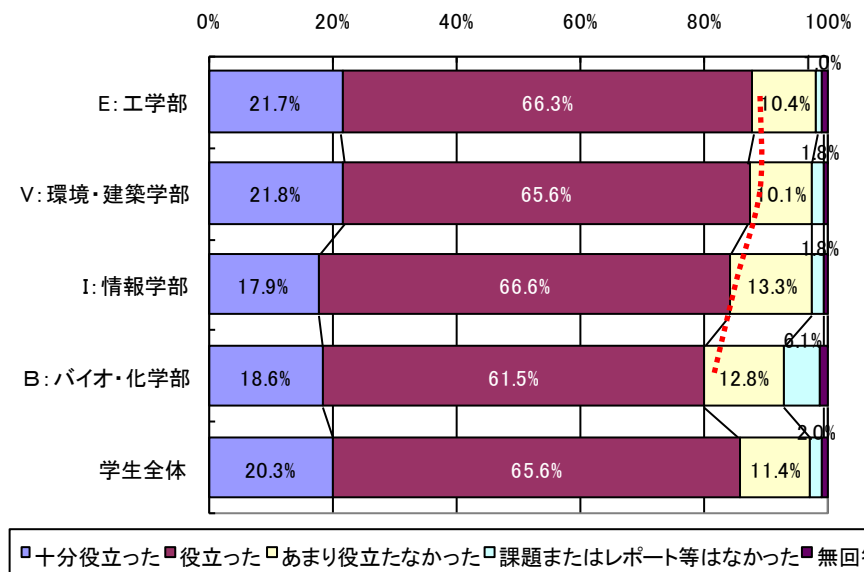
■ E:教科書・指導書の適切さ (1～2年次生のみ)



■ D:予習・復習、課外学習活動 (1～2年次生のみ)



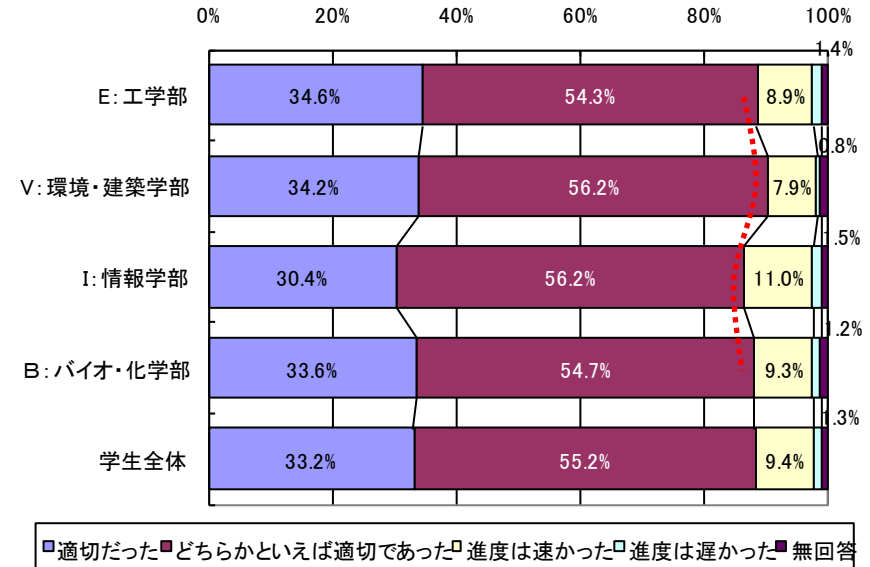
■ F:課題・レポートの適切さ (1～2年次生のみ)



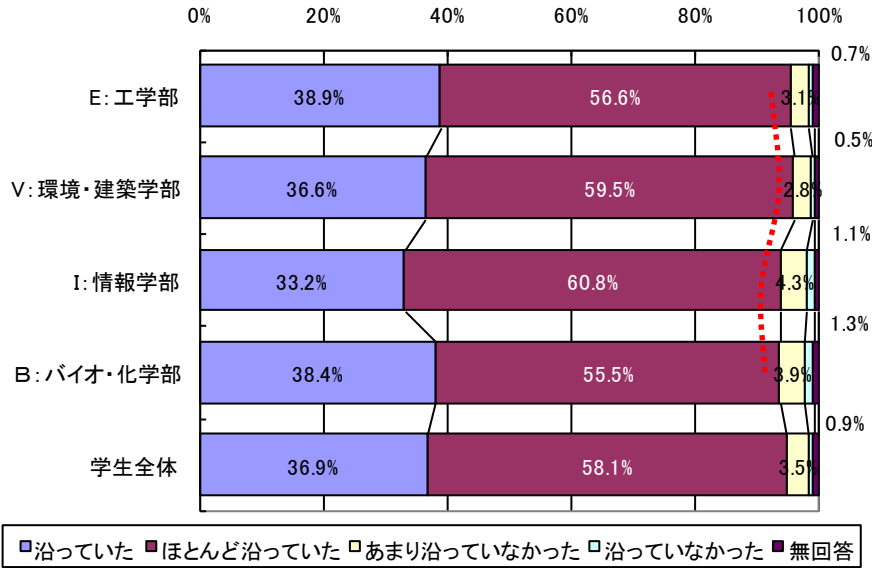


- 「G:学習支援計画書との一致」は全体的に肯定的な意見が多く、学部による差は少なかったが、「沿っていた」だけを見ると「E:工学部」「B:バイオ・化学部」が高く、「I:情報学部」がやや少なかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に評価が高かった。「適切だった」と「どちらかといえば適切だった」の合計を見ると、「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「I:情報学部」で少なかった。また、「I:情報学部」では「進度は速かった」という意見が11.0%あり、見直しのポイントになるのではないかとと思われる。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、「V:環境・建築学部」が56.9%と最も少なく、他学部と比べてよく相談している傾向が見られた。そして、最も多かったのは「B:バイオ・化学部」であり、69.1%が相談していないと答えていた。
- 回答者に限定した学習相談の有効性は比較していないが、「V:環境・建築学部」では12.6%が「有効であった」、24.6%が「まあ有効であった」と答えており、学習相談を高く評価していることが分かる。

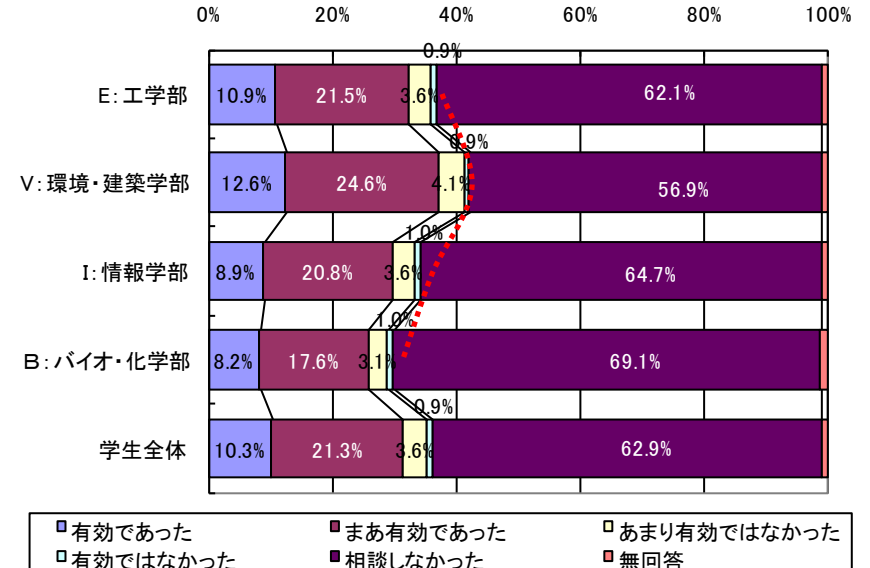
■H: 授業の進度の適切さ (1~2年次生のみ)



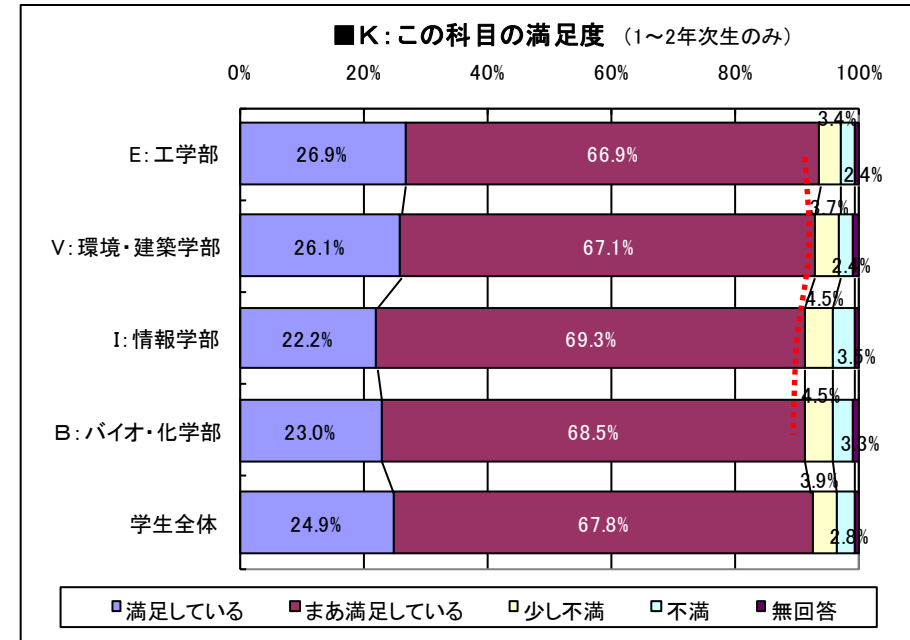
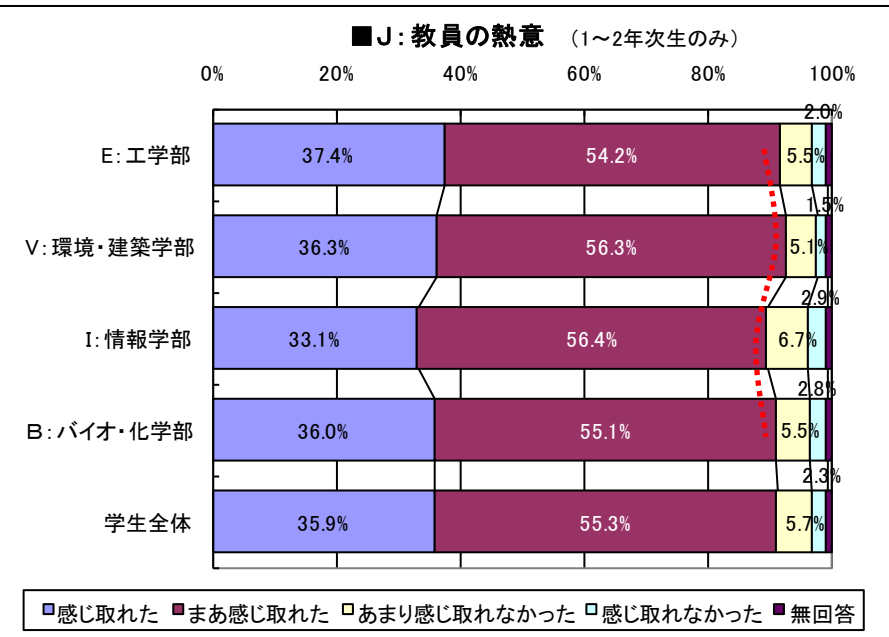
■G: 学習支援計画書との一致 (1~2年次生のみ)



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性 (1~2年次生のみ)

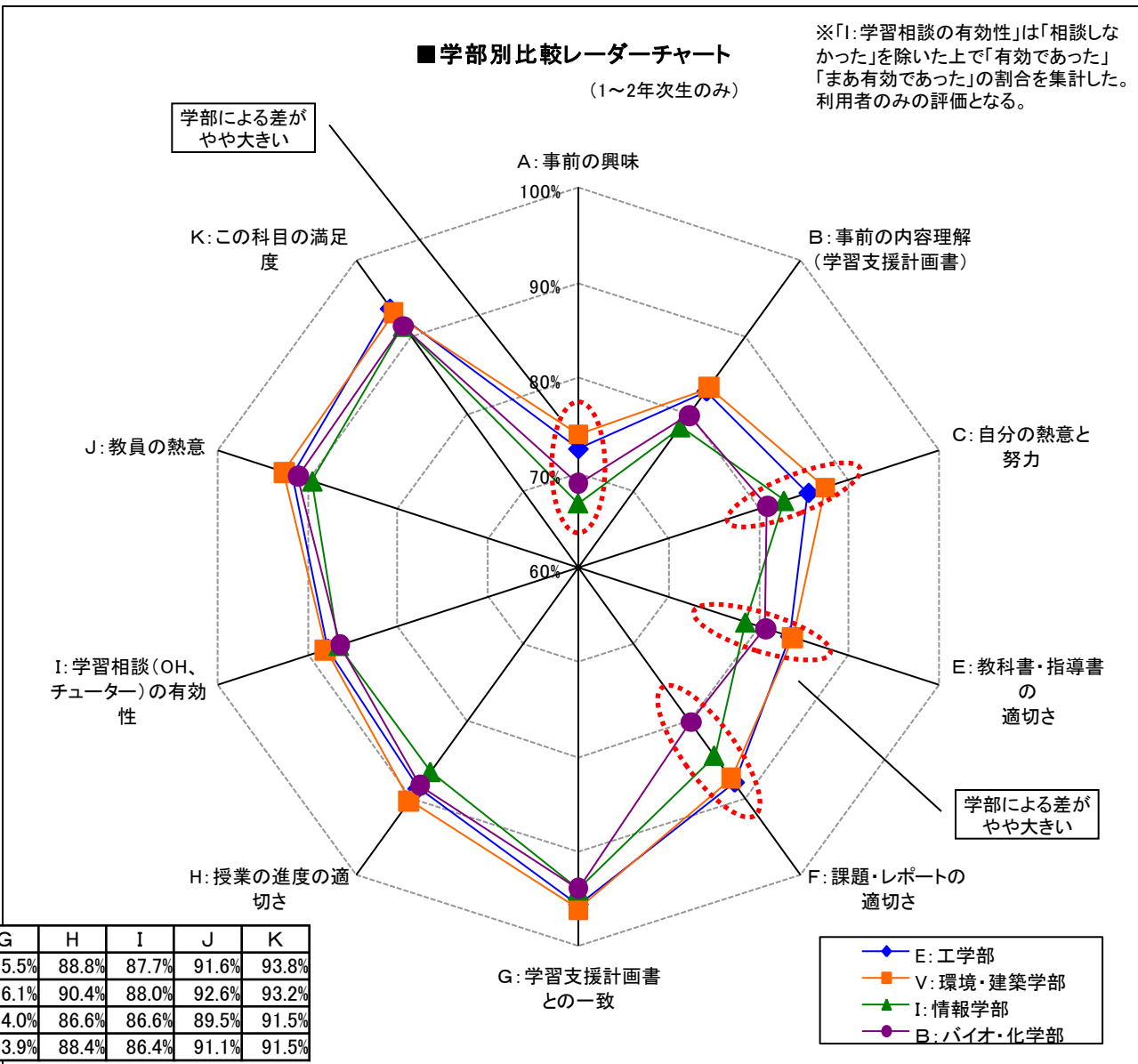


- 「J:教員の熱意」は学部による差が非常に少なく、「I:情報学部」がやや低いものの、他の3学部にはほとんど差が見られず、どの学部でも教員の熱意を強く感じていることが分かった。
- 「K:この科目の満足度」も学部による差が非常に小さかったが、「満足している」だけを見ると「E:工学部」と「V:環境・建築学部」の満足度が高めであり、「I:情報学部」が低めであった。
- 満足度を見ても学部の差は小さく、大きな課題がある学部はないものと思われた。



# <4-2>新学部での肯定的な意見の比較

- 新学部体制の学部別に肯定的な意見の割合を比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- ここまでに見てきたように、全体的に「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「I:情報学部」で少ないという傾向が確認できた。
- 特に「I:情報学部」は「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」が低く、授業を受ける前の姿勢に課題があるのではないかと思われた。
- 学部による差が大きかったのは「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」といった項目であった。
- 一方、「K:この科目の満足度」「J:教員の熱意」などは学部による差が少なかった。



■ 学部別比較

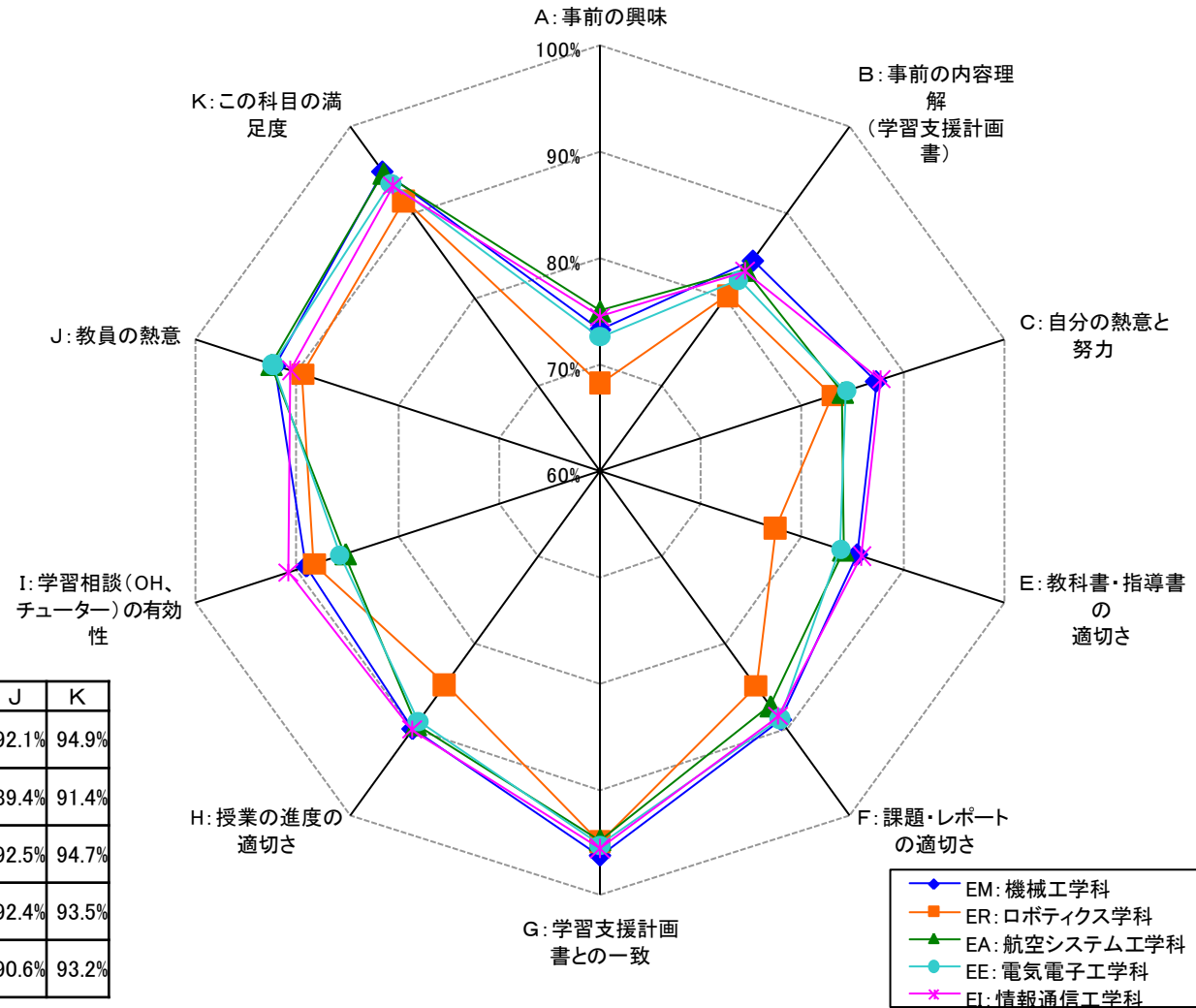
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	72.5%	83.0%	85.5%	83.5%	88.0%	95.5%	88.8%	87.7%	91.6%	93.8%
V: 環境・建築学部	74.0%	83.5%	87.4%	83.8%	87.4%	96.1%	90.4%	88.0%	92.6%	93.2%
I: 情報学部	66.8%	78.3%	82.9%	78.6%	84.5%	94.0%	86.6%	86.6%	89.5%	91.5%
B: バイオ・化学部	68.9%	79.8%	80.9%	80.8%	80.1%	93.9%	88.4%	86.4%	91.1%	91.5%

# <4-3>新学科での肯定的な意見の比較

- 学科別に比較を行うには学科の数が多いため、全体の比較を行わず、学部毎に分けて学科の比較を行った。
- 工学部の5学科の差を見ると、「EM:機械工学科」と「EI:情報通信工学科」が一般的に肯定的な意見が多く、次いで「EA:航空システム工学科」「EE:電気電子工学科」が似たような傾向で続いていた。
- 全体的に肯定的な意見が少なかったのは「ER:ロボティクス学科」であり、ほとんどの質問で最も低かった。特に「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「H:授業の進度の適切さ」の低さが目立っていた。
- 学科間の差は大きめであったが、「G:学習支援計画書との一致」だけは学科間の差がほとんどなく、この点は全学科で徹底されているようであった。

### ■工学部 学科別比較レーダーチャート

(1~2年次生のみ)



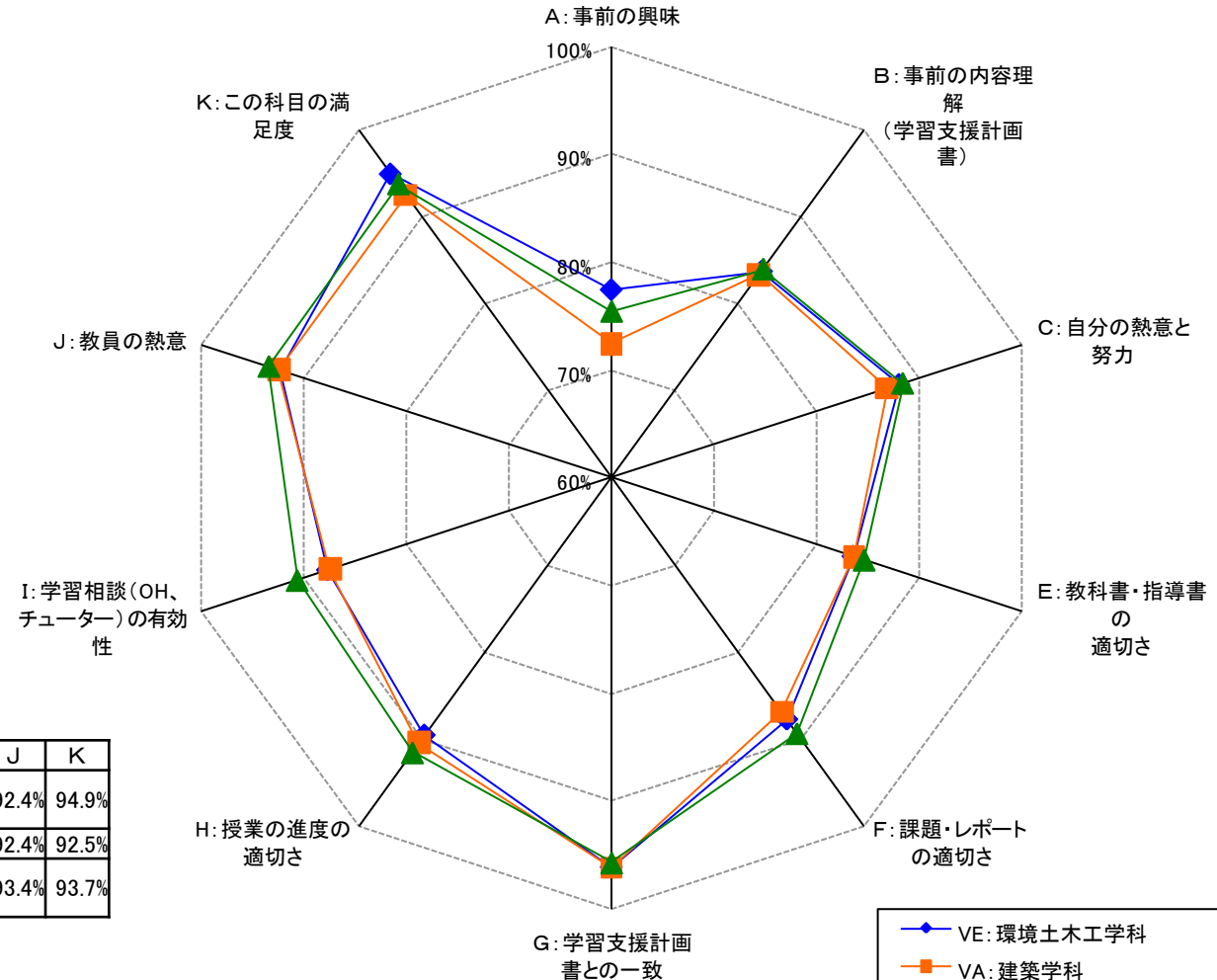
### ■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	73.3%	84.5%	87.3%	85.4%	89.0%	96.2%	90.0%	89.1%	92.1%	94.9%
ER: ロボティクス学科	68.3%	80.4%	83.1%	77.4%	85.0%	94.9%	84.9%	88.3%	89.4%	91.4%
EA: 航空システム工学科	75.1%	83.4%	84.0%	84.1%	87.3%	94.7%	89.5%	85.2%	92.5%	94.7%
EE: 電気電子工学科	72.6%	82.2%	84.4%	83.8%	88.8%	95.2%	89.2%	85.7%	92.4%	93.5%
EI: 情報通信工学科	74.5%	83.3%	87.9%	85.9%	88.5%	95.5%	90.1%	90.9%	90.6%	93.2%

- 環境・建築学部は3学科の比較であるが、学科間の差があまりなかった。
- わずかな差ではあるが、全体的に「VD: 建築都市デザイン学科」が肯定的な意見が多めであった。しかし、「A: 事前の興味」と「K: この科目の満足度」だけは「VE: 環境土木工学科」が最も高く、充実している様子がうかがえた。
- 「VA: 建築学科」は全体的にやや低めであり、特に「A: 事前の興味」が低い点が目立っており、このあたりが課題になると思われる。

■ 環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

(1~2年次生のみ)



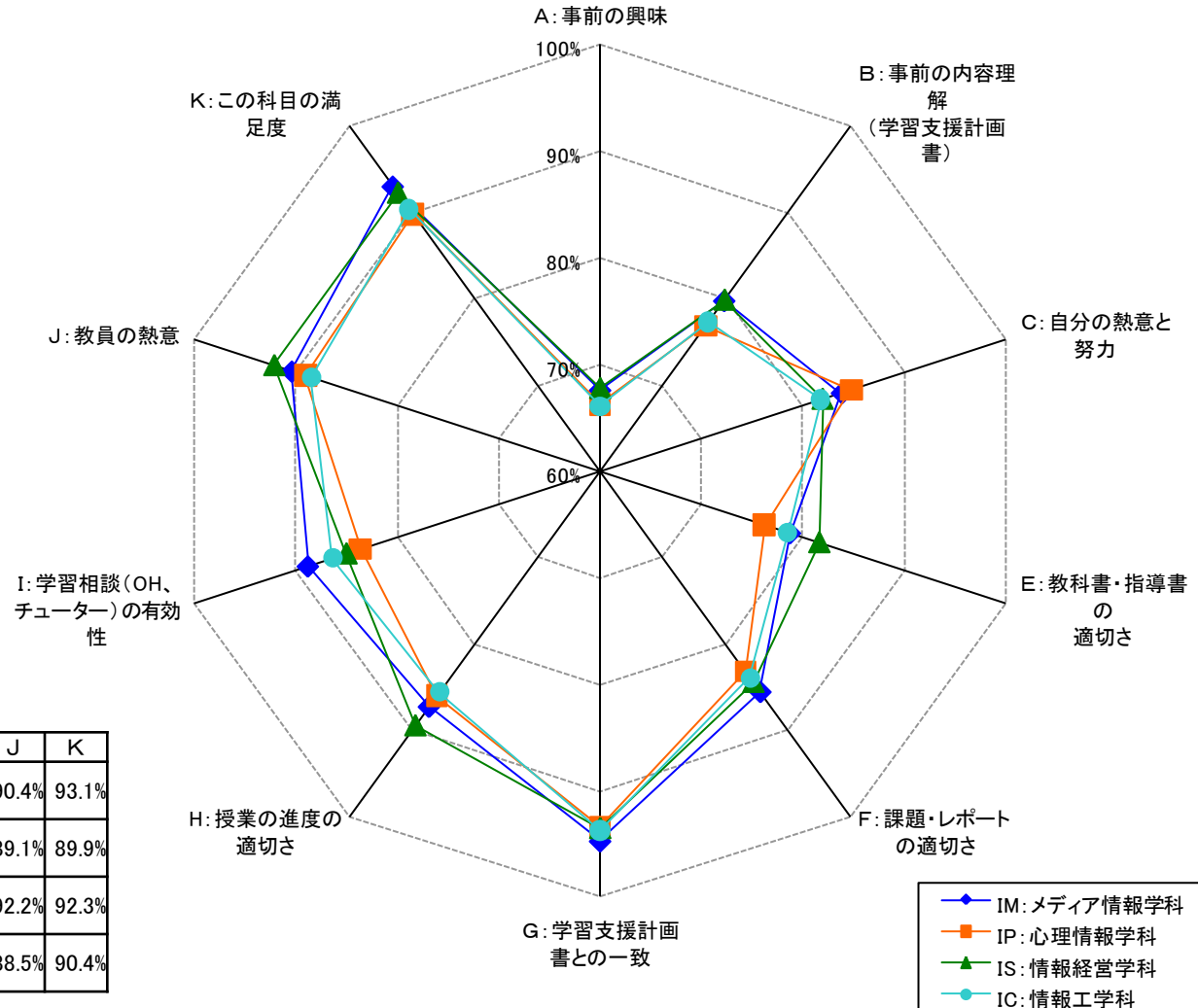
■ 環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE: 環境土木工学科	77.5%	83.7%	88.0%	83.6%	87.7%	96.1%	89.5%	87.7%	92.4%	94.9%
VA: 建築学科	72.4%	83.3%	86.8%	83.6%	86.8%	96.2%	90.4%	87.4%	92.4%	92.5%
VD: 建築都市デザイン学科	75.4%	83.9%	88.4%	84.6%	89.2%	95.6%	91.5%	90.7%	93.4%	93.7%

- 情報学部は全体的に低かったが、学科毎に比較すると特定の学科が目立つということではなく、全体的に似た傾向であった。
- 差は少ないが、「IM:メディア情報学科」「IS:情報経営学科」がやや高めであり、「IP:心理情報学科」がやや低めであった。ただし、「IP:心理情報学科」は「C:自分の熱意と努力」だけは最も高く、努力はしているがあまり充実していないという状況にあるようであった。
- 「A:事前の興味」「G:学習支援計画書との一致」は学科による差が少なく、ここでもしっかりと学習支援計画書に沿って授業が進められていることが確認できた。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

(1~2年次生のみ)



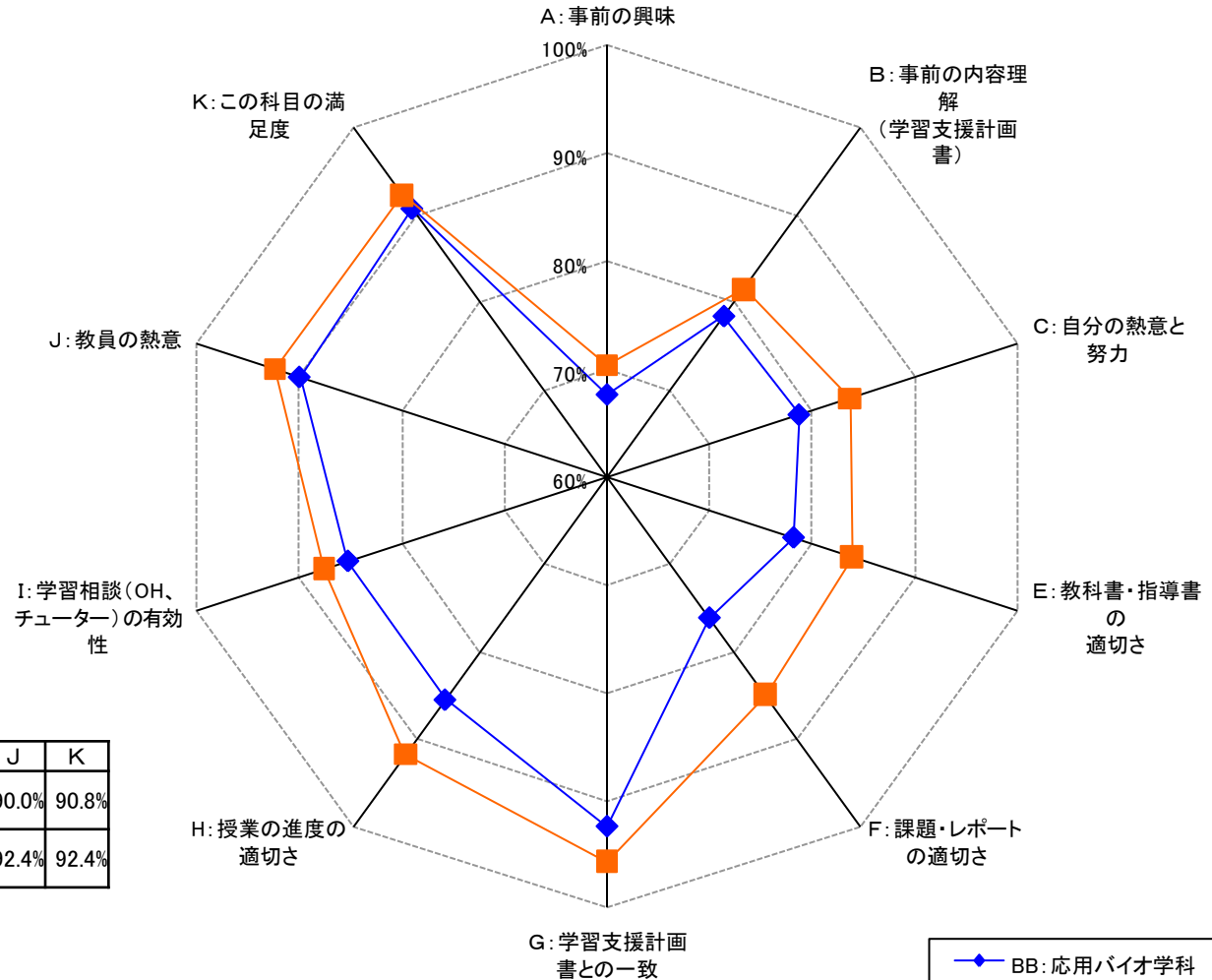
■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM:メディア情報学科	67.6%	79.8%	83.8%	78.7%	85.6%	94.7%	87.3%	88.8%	90.4%	93.1%
IP:心理情報学科	66.3%	76.9%	84.8%	76.2%	83.2%	93.4%	86.1%	83.6%	89.1%	89.9%
IS:情報経営学科	67.8%	79.9%	82.0%	81.6%	84.5%	93.5%	89.5%	85.1%	92.2%	92.3%
IC:情報工学科	66.1%	77.3%	81.8%	78.5%	83.9%	93.7%	85.6%	86.4%	88.5%	90.4%

- バイオ・化学部は2学科であるが、特徴がハッキリしており、「BB:応用バイオ学科」が全体的に低く、「BC:応用化学科」が高いという結果となっていた。
- 2学科の差を見ると、「F:課題・レポートの適切さ」の差がやや大きく、「K:この科目の満足度」にはほとんど差が見られなかった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

(1~2年次生のみ)

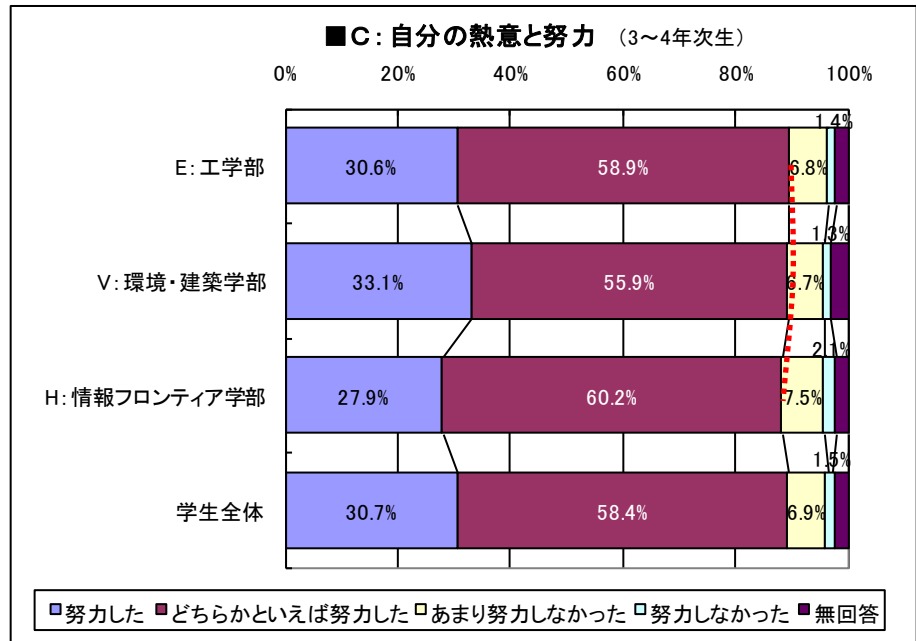
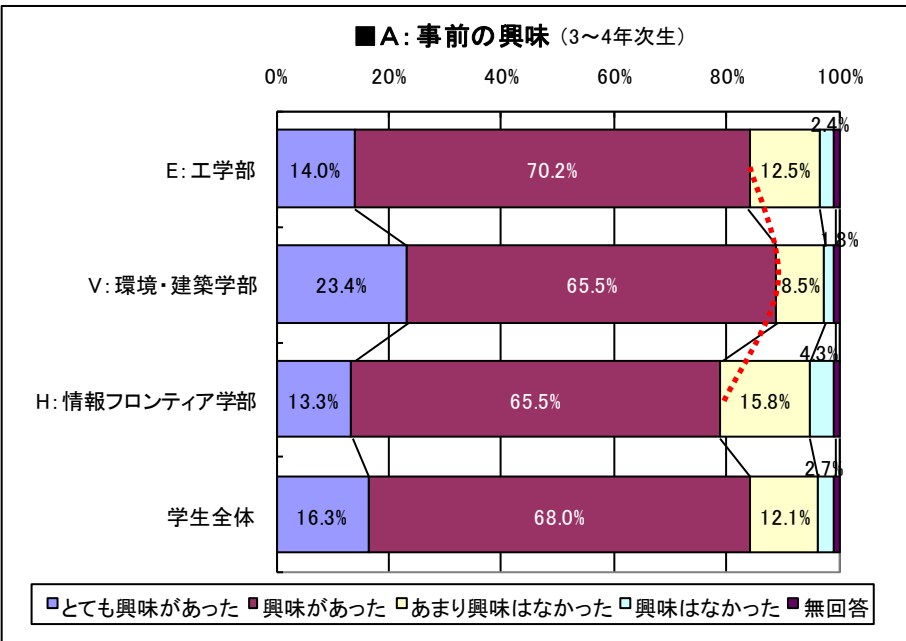
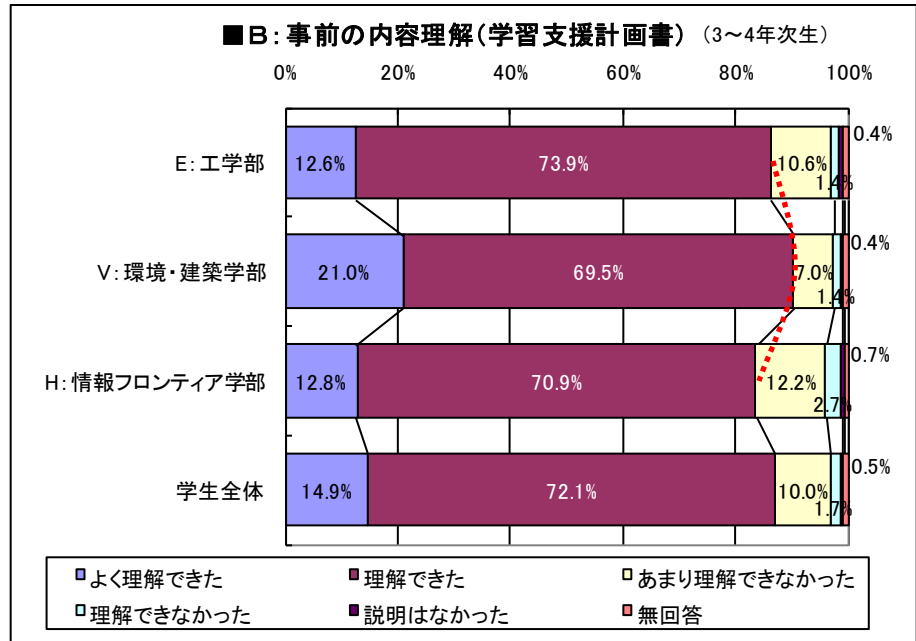


■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	67.6%	78.4%	78.7%	78.2%	76.1%	92.4%	85.6%	85.2%	90.0%	90.8%
BC: 応用化学科	70.4%	81.6%	83.7%	83.9%	85.0%	95.6%	91.8%	87.6%	92.4%	92.4%



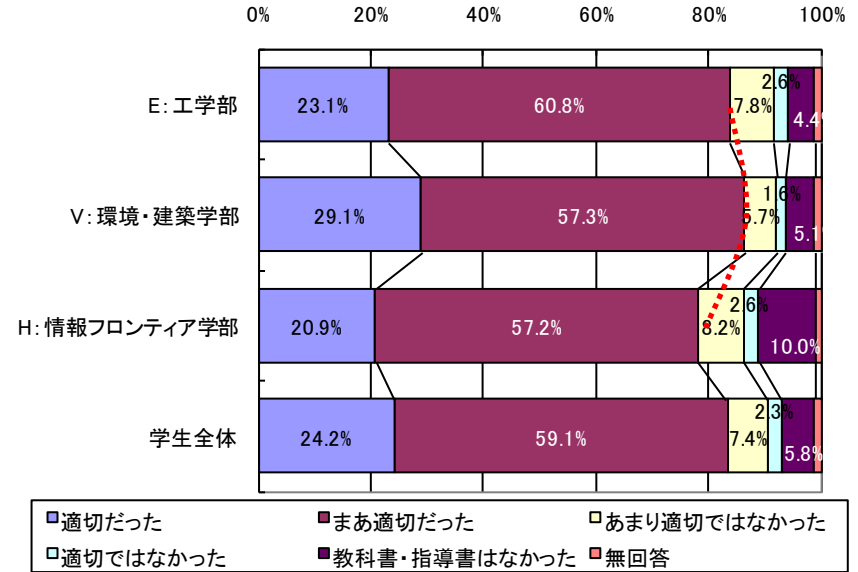
- 「3年次生」から「4年次生」は3つの旧学部体制で集計を行った。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計を見ると、「V:環境・建築学部」が最も強く興味を持っており、次いで、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順に低下していた。
- 「B:事前の内容理解」についても「V:環境・建築学部」の理解度が最も高く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いていた。
- 「C:自分の熱意と努力」では学科による差がそれほど大きくなく、各学部ともに熱意を持って努力しているようであったが、「努力した」だけを見ると「V:環境・建築学部」が最も多く、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いていた。
- この項で見た三つの指標はいずれも同じ傾向であり、「V:環境・建築学部」が良い状態で授業に望んでいる様子が見え始める結果となっていた。



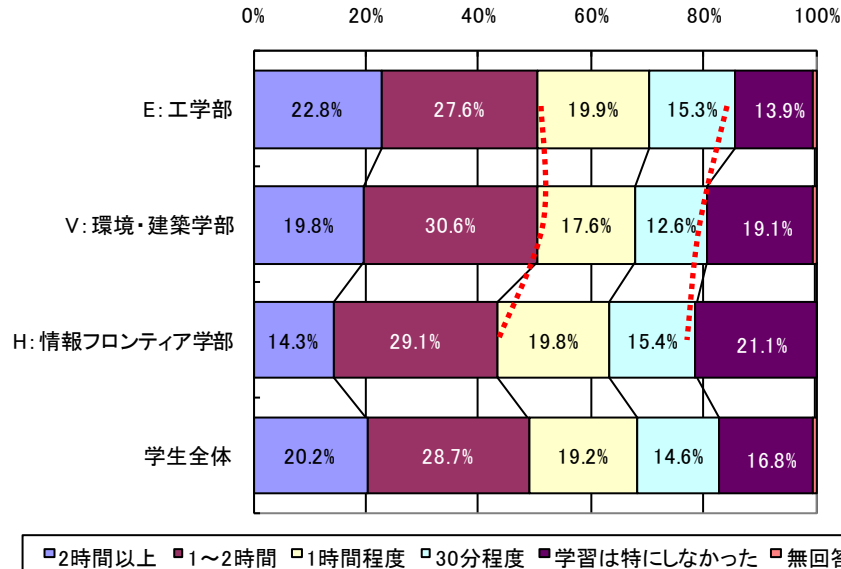


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」を比較すると「E:工学部」が22.8%と最も多く、次いで「V:環境・建築学部」「H:情報フロンティア学部」の順となっていた。逆に「学習は特にしなかった」を比較すると、「H:情報フロンティア学部」が最も多く、「V:環境・建築学部」「E:工学部」の順となっており、学部の特徴が見られた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」も前項と似た傾向であり、「V:環境・建築学部」では適切だと評価する意見が多く、「H:情報フロンティア学部」では評価する意見が最も少なかった。ただし、「H:情報フロンティア学部」では「教科書・指導書はなかった」という意見も10.0%あり、その影響もあるのではないと思われる。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は学部による差が少ないが、「十分役立った」だけを比較すると、やはり「V:環境・建築学部」の評価が高く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順になっていた。
- この項では、「予習・復習、課外活動時間」は「E:工学部」が最も多くとっているが、「教科書・指導書」「課題・レポート」に対する評価は「V:環境・建築学部」が最も高いことが分かった。

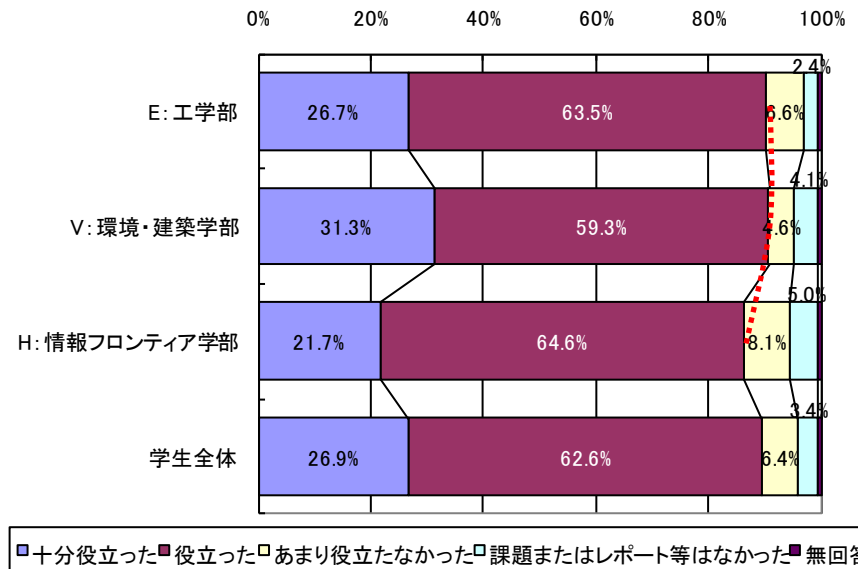
■ E:教科書・指導書の適切さ (3~4年次生)



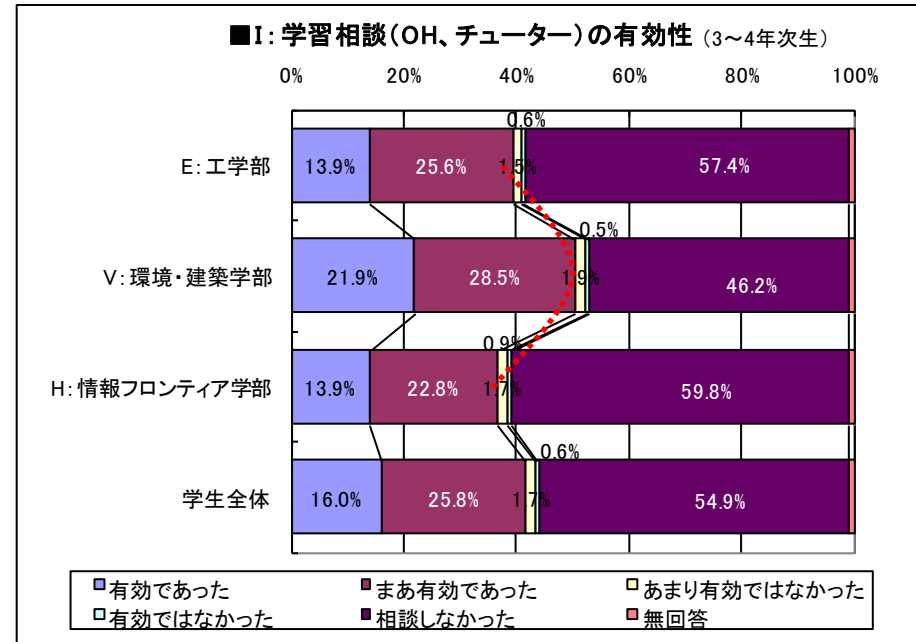
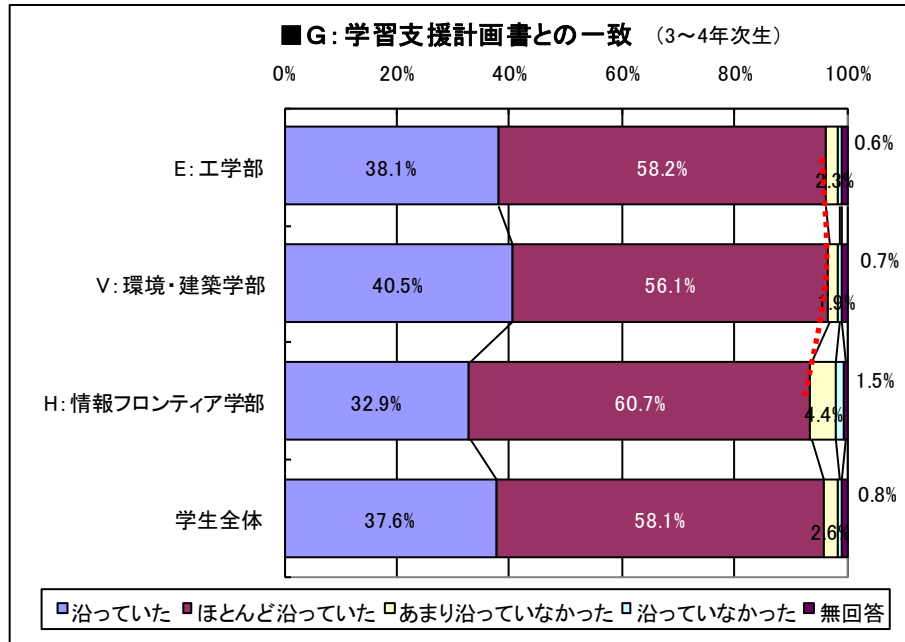
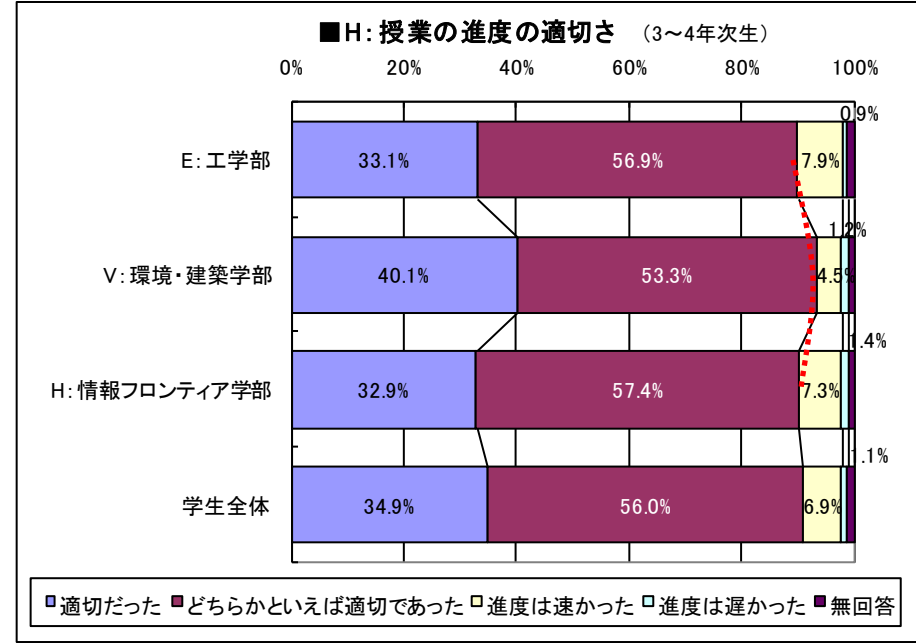
■ D:予習・復習、課外学習活動 (3~4年次生)



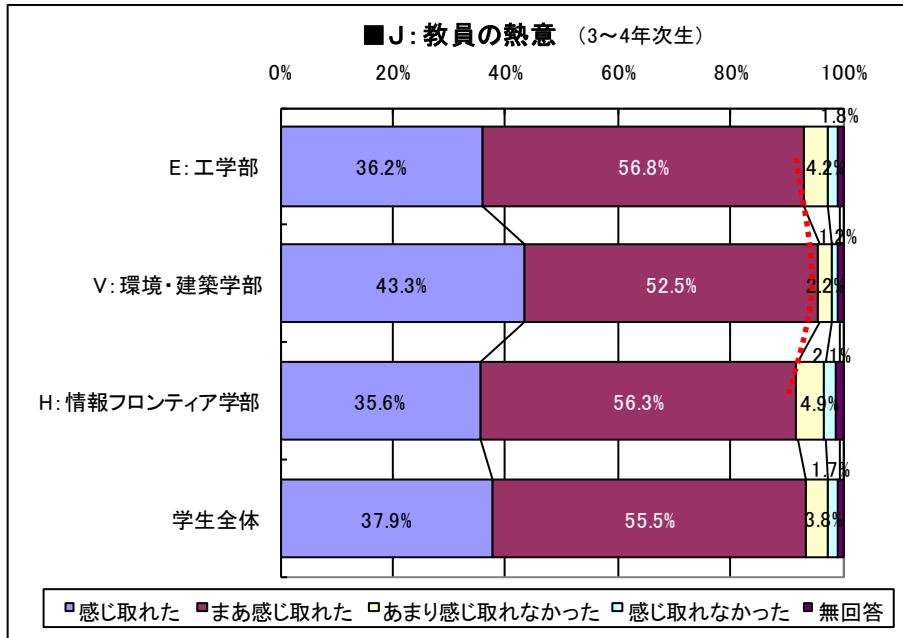
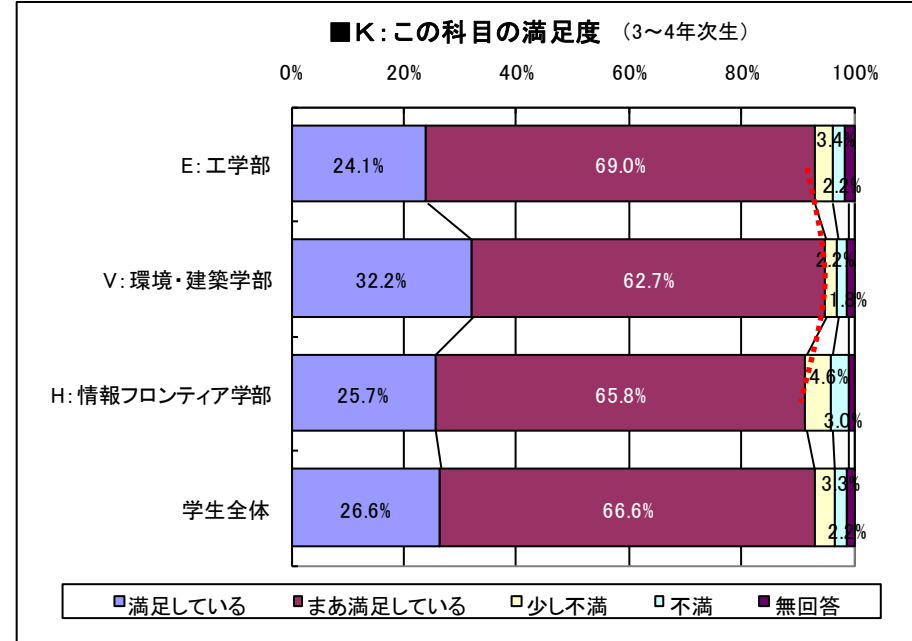
■ F:課題・レポートの適切さ (3~4年次生)



- 「G:学習支援計画書との一致」も学部による差が小さかったが、「沿っていた」だけを見ると「V:環境・建築学部」の評価が高く、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順に厳しい評価となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も「V:環境・建築学部」で進度が適切であったという意見が多く見られたが、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」の差はほとんど見られなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」でも「V:環境・建築学部」の評価が非常に高く、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」の差はほとんど見られなかった。また、「相談しなかった」割合も「V:環境・建築学部」が最も少なく、46.2%と5割を下回っており、学部全体に「学習相談」を有効活用する指導があるなどの工夫がされており、活用に抵抗がないものと思われる。



- 「J:教員の熱意」では「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計では3学部ともに9割以上が肯定的な意見であり、教員の熱意はよく伝わっていると言えるが、「感じ取れた」だけを見ると「V:環境・建築学部」が43.3%であり、「E:工学部」の36.2%、「H:情報フロンティア学部」の35.6%を8ポイント前後上回っていた。
- 「K:この科目の満足度」も「満足している」と「まあ満足している」の合計で見るといずれの学部の満足度も高く、学部による差はそれほど大きくなかったが、「満足している」だけを比べると、「V:環境・建築学部」では32.2%、「H:情報フロンティア学部」では25.7%、「E:工学部」では24.1%であり、全体の満足度でも「V:環境・建築学部」が最も高いことが分かった。



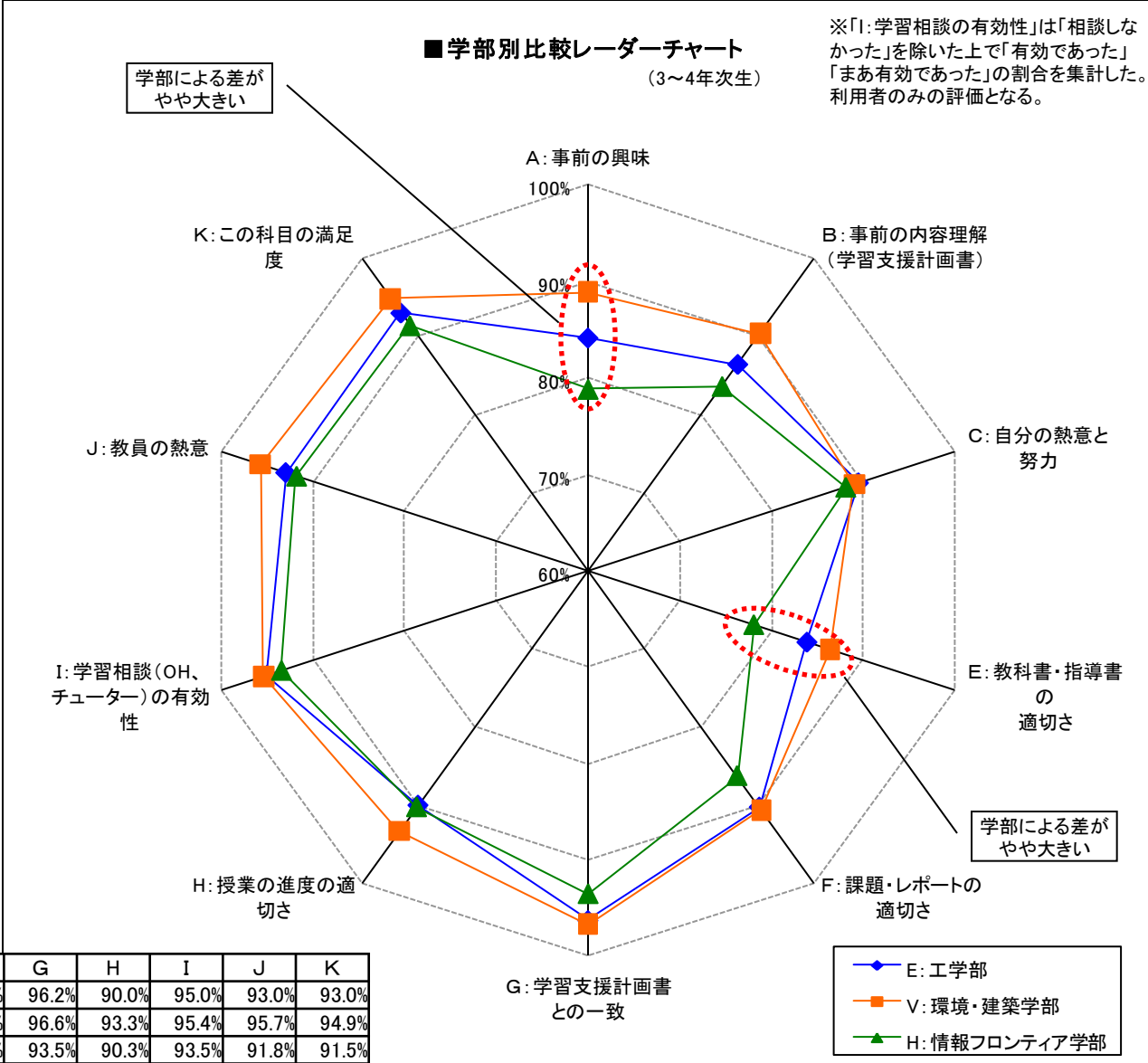
# <4-5>旧学部での肯定的な意見の比較

- 旧学部構成の3学部の比較をレーダーチャートで見ると右記ようになる。
- ここまでに見てきたように全体を通してみると、全体的に「V:環境・建築学部」に肯定的な意見が多く、「H:情報フロンティア学部」で少なくなっており、「V:環境・建築学部」は授業に満足している様子がうかがえる。
- 学部間の差を見ると、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」は学部による差がやや大きい。特に「H:情報フロンティア学部」は授業に対する事前の興味が弱く、これが全体的な低さにつながっているのではないかとと思われる。
- 「K:この科目の満足度」や「C:自分の熱意と努力」などは学部による差が小さく、学部によって授業の進め方や教材の評価はあるものの、根本的な部分では一定の評価をし、学生も熱意を持って努力をしていることが分かった。

■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	84.1%	86.4%	89.5%	83.9%	90.2%	96.2%	90.0%	95.0%	93.0%	93.0%
V:環境・建築学部	88.9%	90.4%	89.0%	86.4%	90.6%	96.6%	93.3%	95.4%	95.7%	94.9%
H:情報フロンティア学部	78.9%	83.7%	88.1%	78.1%	86.3%	93.5%	90.3%	93.5%	91.8%	91.5%

■学部別比較レーダーチャート (3~4年次生)

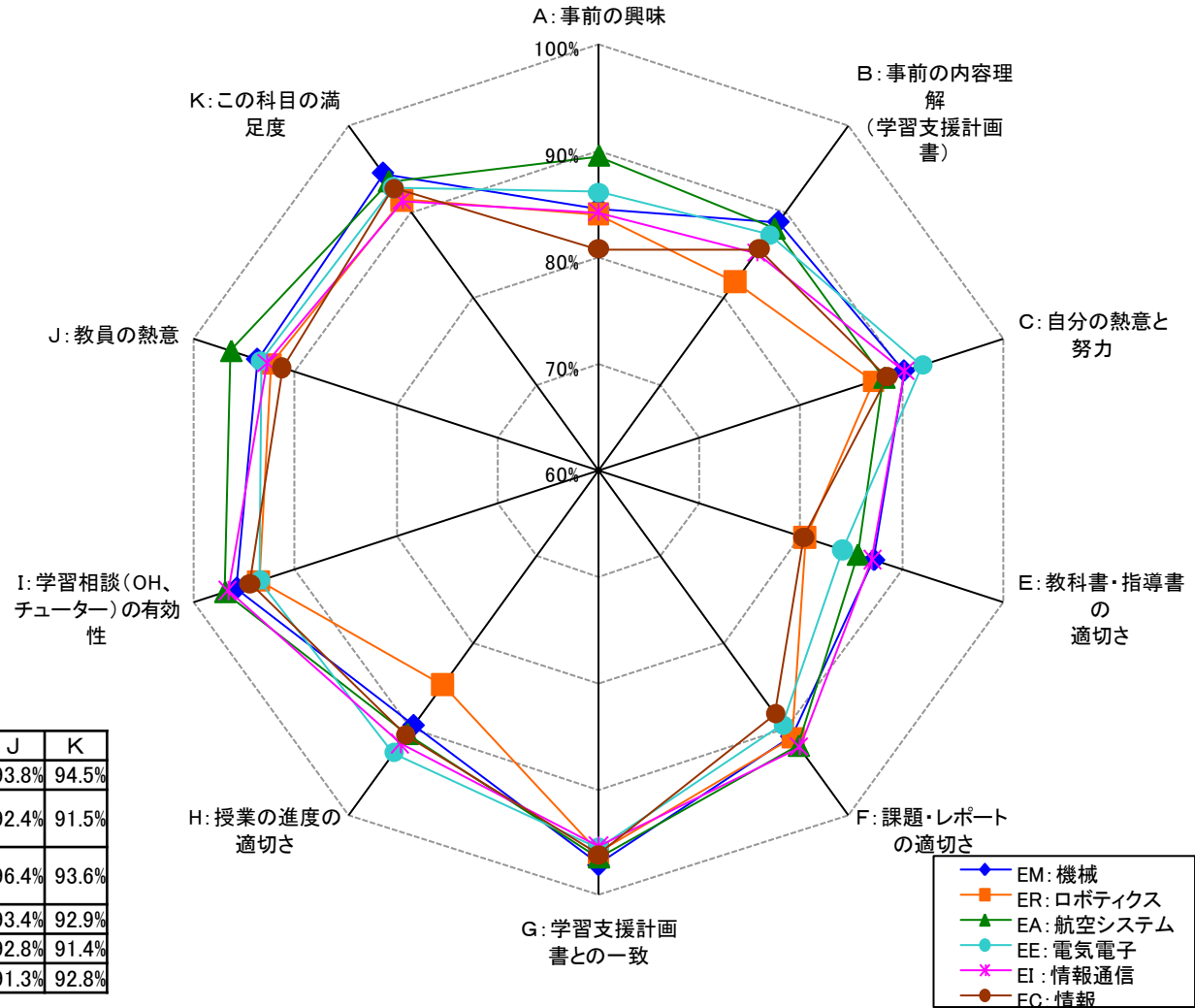


G: 学習支援計画書との一致

# <4-6>旧学科での肯定的な意見の比較

- 旧学部は3つの学部に分け、その中の学科毎に比較を行った。
- 工学部は6つの学科の比較となるが、「EA:航空システム」「EE:電気電子」「EM:機械」がやや高めであり、「ER:ロボティクス」「EC:情報」がやや低めという傾向が見られた。
- 「ER:ロボティクス」では「H:授業の進度の適切さ」「B:事前の内容理解」の2項目の低さが目立っていた。一方、「EA:航空システム」では「A:事前の興味」「J:教員の熱意」の高さが目立っており、このあたりに学科の特徴があるものと思われる。
- 「K:この科目の満足度」は学科による差が少なかった。また、「G:学習支援計画書との一致」も学科による差が小さく、どの学科においても授業内容は、計画書に沿ってしっかりと進められているものと思われる。

■工学部 学科別比較レーダーチャート  
(3~4年次生)

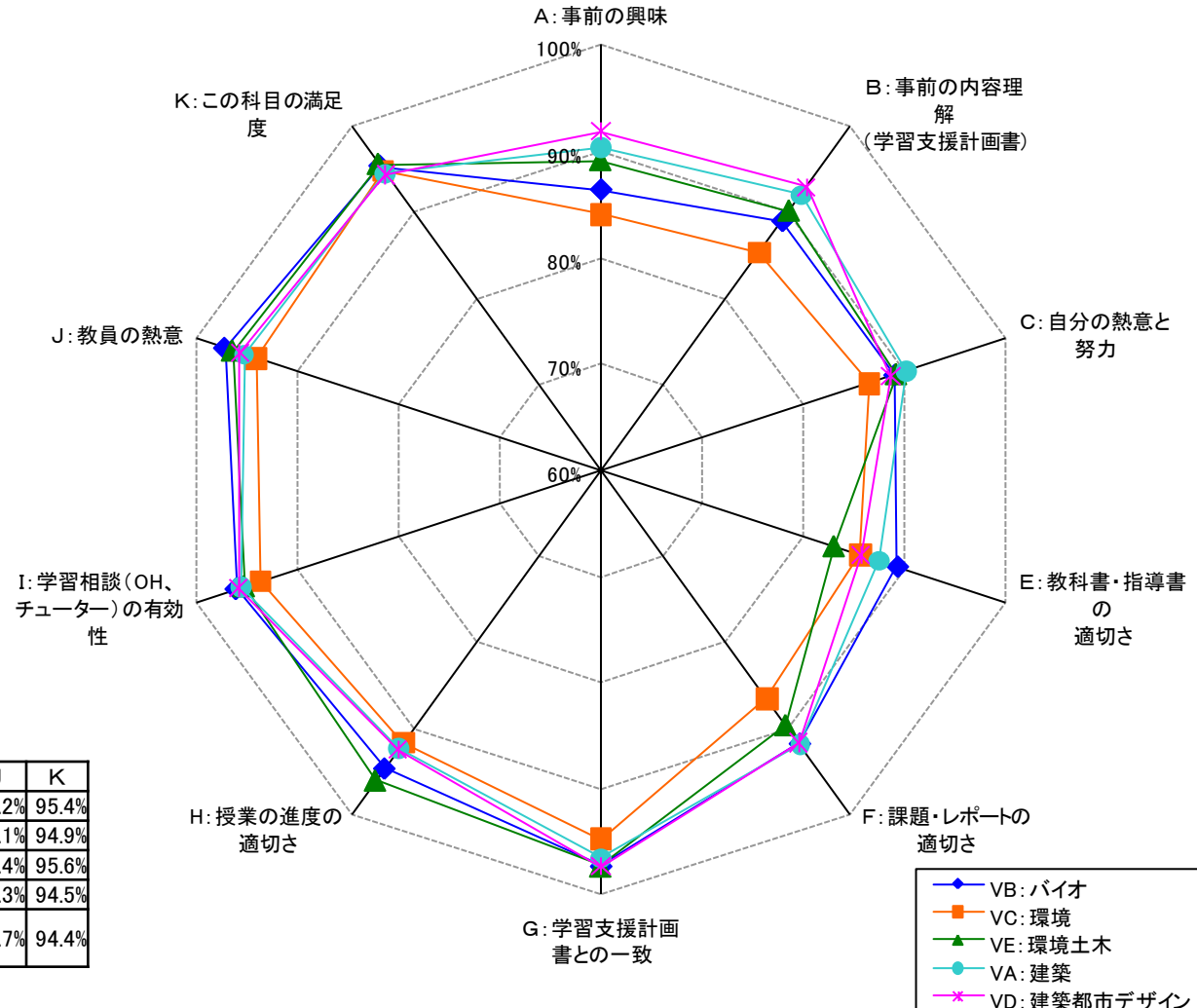


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械	84.7%	88.8%	90.2%	87.3%	90.9%	97.1%	89.6%	95.8%	93.8%	94.5%
ER: ロボティクス	84.1%	81.9%	87.2%	80.4%	91.1%	96.0%	84.9%	93.6%	92.4%	91.5%
EA: 航空システム	89.6%	88.1%	88.2%	85.6%	92.0%	96.4%	90.6%	97.0%	96.4%	93.6%
EE: 電気電子	86.2%	87.4%	92.1%	84.2%	89.6%	95.5%	92.8%	93.5%	93.4%	92.9%
EI: 情報通信	84.3%	85.3%	90.3%	87.1%	92.1%	95.4%	91.8%	96.6%	92.8%	91.4%
EC: 情報	80.8%	85.8%	88.5%	80.3%	88.3%	96.2%	90.8%	94.5%	91.3%	92.8%

- 「環境・建築学部」は5つの学科の比較となる。
- 全体を見ると「VC:環境」がやや低めであるが、他の学科にはそれほど目立った特徴はなく、学科による差が小さいと言える。
- 「VC:環境」は「E:教科書・指導書の適切さ」「K:この科目の満足度」の2つを除くと全てが最も低く、何らかの課題があるのではないかと考えられた。
- 「K:この科目の満足度」に関しては学科による差がほとんど見られなかった。このように満足度の評価に差がないという状況は他の学部では見られず、「環境・建築学部」特有のものである。
- 学部別に見ても「環境・建築学部」の満足度は高かったが、このような特徴がその結果に関係しているのではないかとと思われる。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート  
(3～4年生)



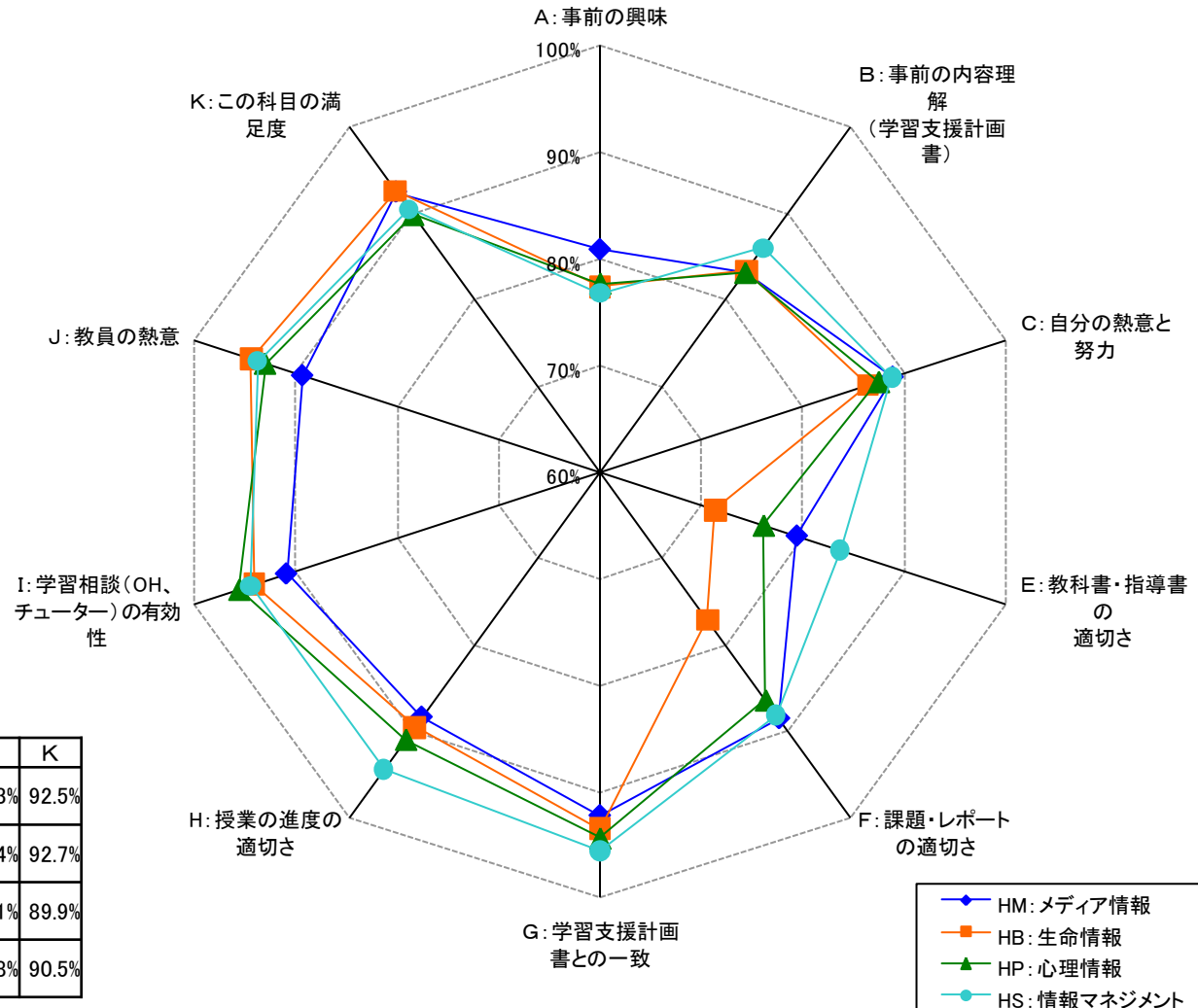
■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VB: バイオ	86.4%	89.0%	89.0%	89.3%	91.8%	97.2%	94.6%	96.1%	97.2%	95.4%
VC: 環境	84.1%	85.3%	86.6%	85.7%	86.6%	94.7%	91.7%	93.7%	94.1%	94.9%
VE: 環境土木	89.2%	90.2%	89.2%	83.1%	89.6%	97.2%	96.0%	95.3%	96.4%	95.6%
VA: 建築	90.4%	92.1%	90.2%	87.5%	91.9%	96.5%	92.3%	95.6%	95.3%	94.5%
VD: 建築都市デザイン	91.9%	92.9%	88.7%	85.7%	91.6%	97.3%	92.5%	95.8%	95.7%	94.4%



- 「情報フロンティア学部」は4学科の比較であるが、前出の2学部と比較すると学科間の差が大きいようであった。
- 全体を見ると「HS:情報マネジメント」で肯定的な意見が多めであり、「HM:メディア情報」と「HB:生命情報」の2学科が一部の項目で評価が低い傾向が見られた。
- 「HM:メディア情報」は特に「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」が低く、人によるサポートに不満がありそうであり、「HB:生命情報」は「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」が低く、教材に不満を持っているように思われる。
- 学科間の差は「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」で非常に大きく開いていた。
- 「K:この科目の満足度」は学科による差が小さく、他の学部と同じような傾向であった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート  
(3～4年次生)



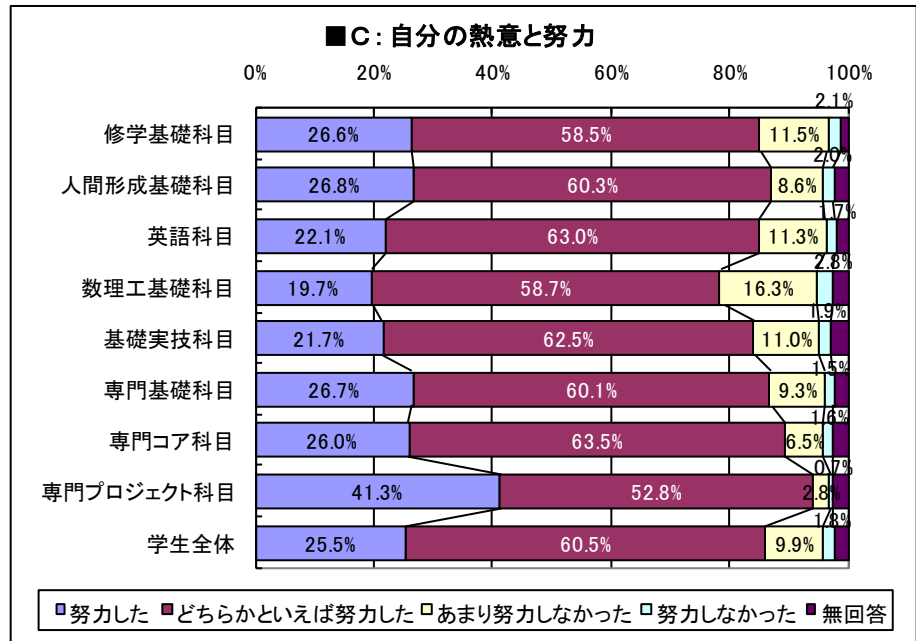
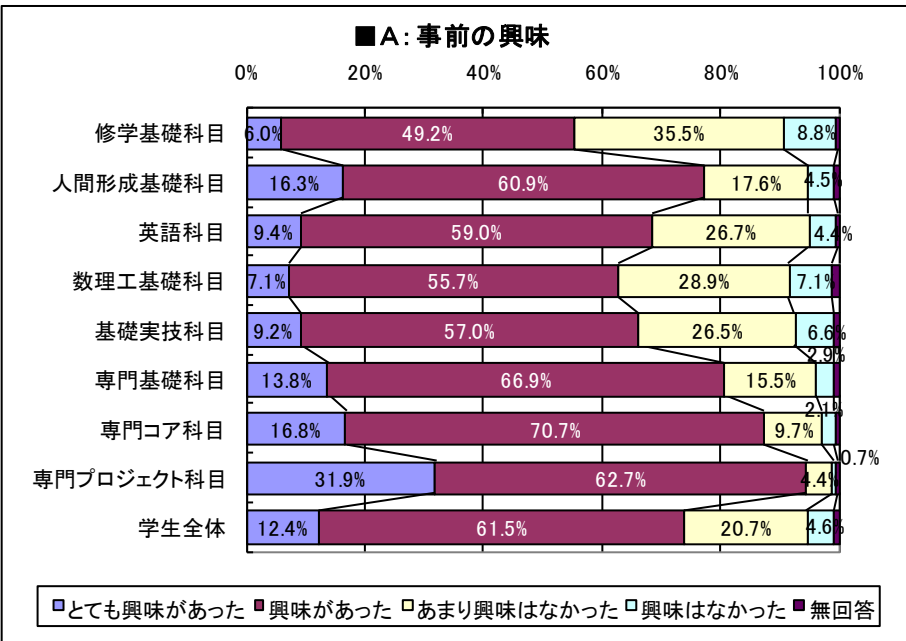
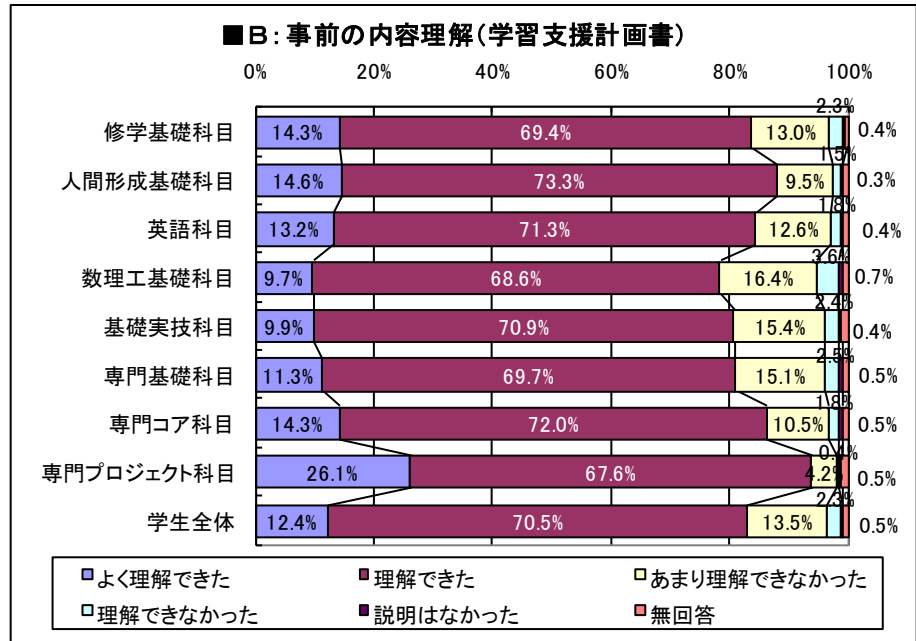
■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
HM:メディア情報	80.9%	83.2%	88.9%	79.4%	88.6%	92.3%	88.4%	90.9%	89.3%	92.5%
HB:生命情報	77.4%	83.4%	86.5%	71.4%	77.1%	93.5%	89.6%	94.1%	94.4%	92.7%
HP:心理情報	77.7%	83.1%	87.5%	76.1%	86.4%	94.3%	91.0%	95.6%	93.1%	89.9%
HS:情報マネジメント	76.8%	86.1%	88.8%	83.7%	88.2%	95.5%	94.5%	94.5%	93.8%	90.5%

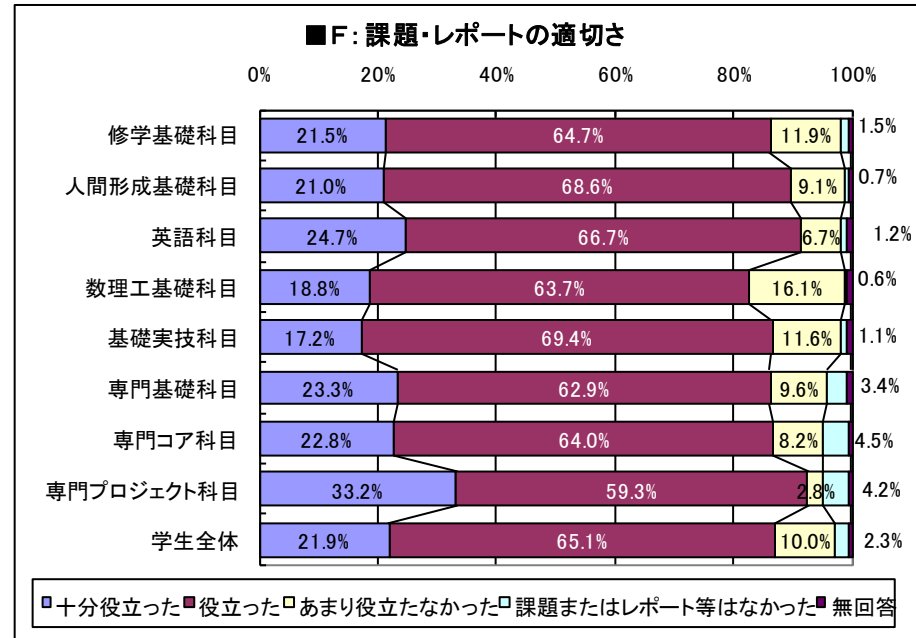
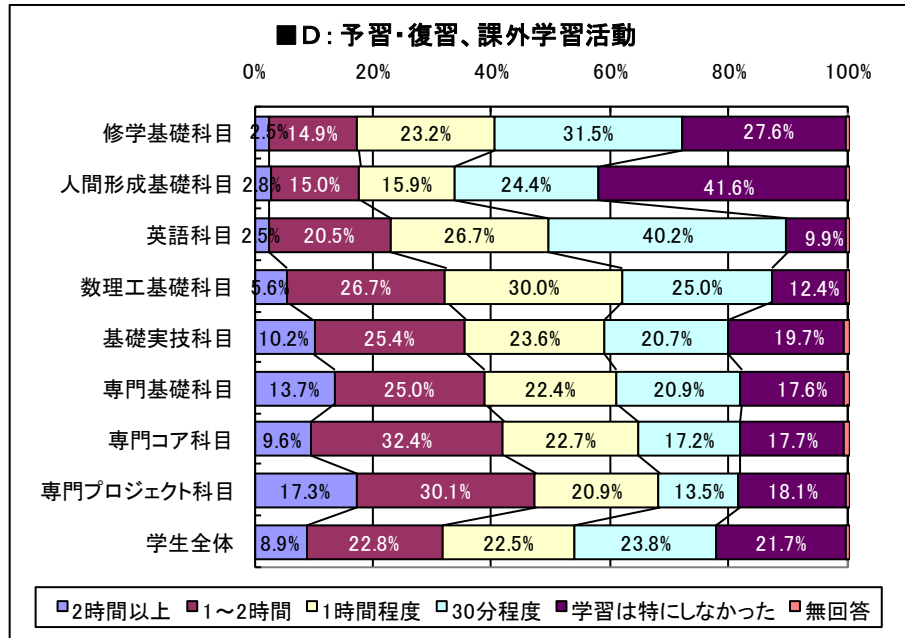
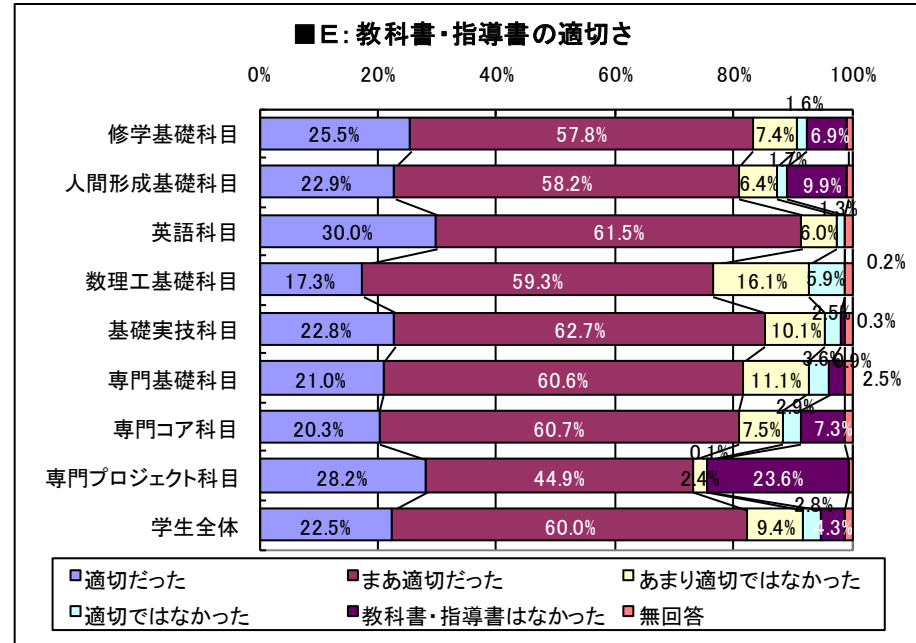
## <5>科目区分別の分析



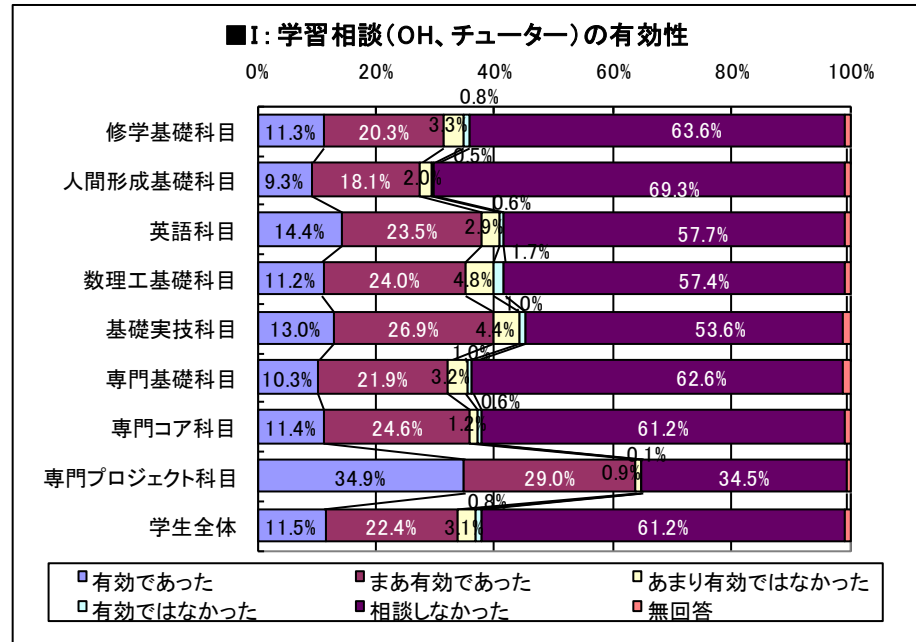
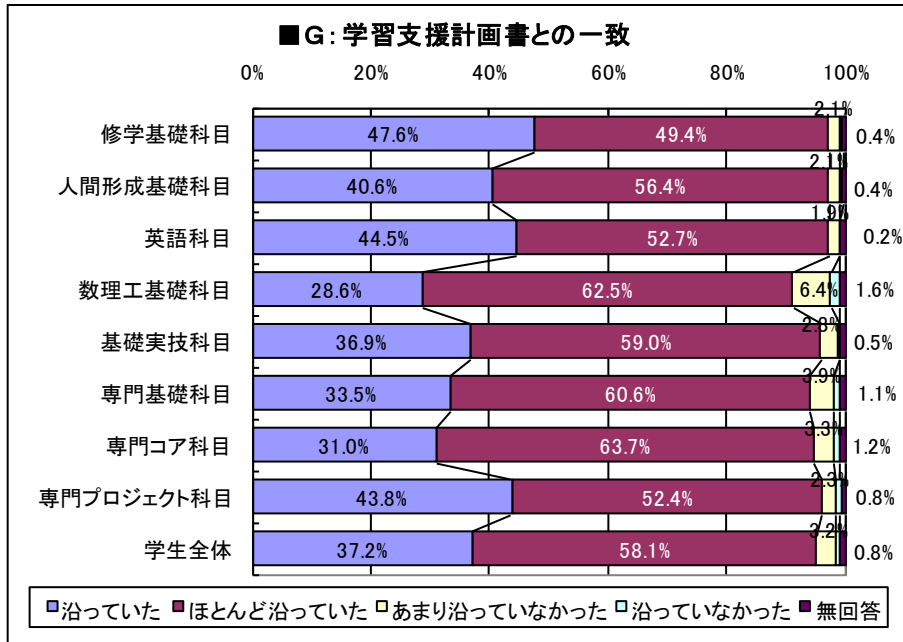
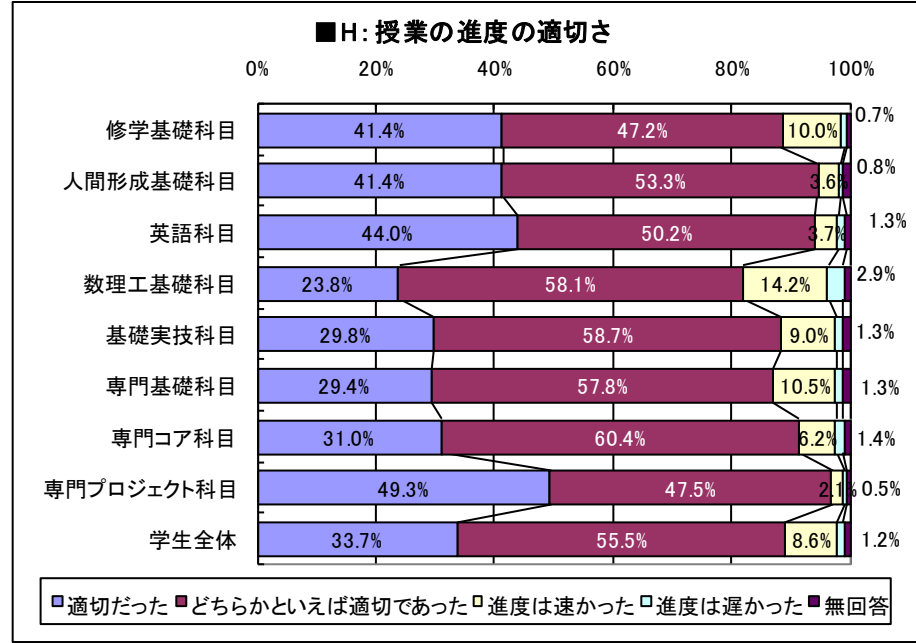
- 科目区分毎に評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」では「専門プロジェクト科目」に対する興味が最も強く、「とても興味があった」と「興味があった」の合計は94.6%であった。次いで「専門コア科目」「専門基礎科目」「人間形成基礎科目」と続いており、専門系の科目に興味を持っていることが分かった。
- 一方、最も興味が弱かったのは「修学基礎科目」であり、興味を持っている学生は55.2%であった。
- 「B:事前の内容理解」は科目区分による差が少なかったが、最も事前の理解が進んでいたのは「専門プロジェクト科目」であり、「人間形成基礎科目」「専門コア科目」が続いていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目区分による差が少な目であったが、「専門プロジェクト科目」では「努力した」という意見が多く、積極的に取り組んでいる様子が見えてくる。次いで「専門コア科目」「人間形成基礎科目」「専門基礎科目」が高めであり、「数理工基礎科目」の低さが目立っていた。



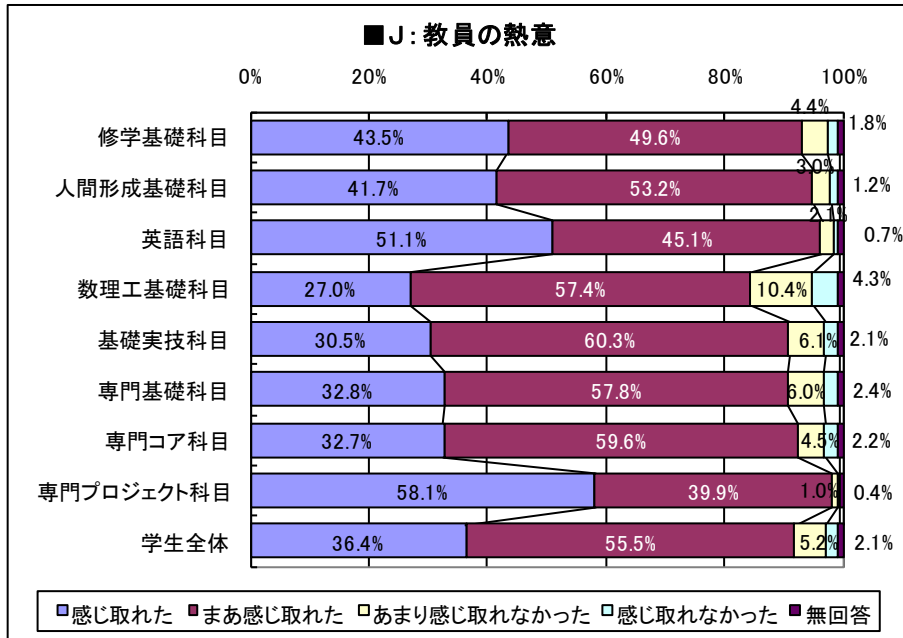
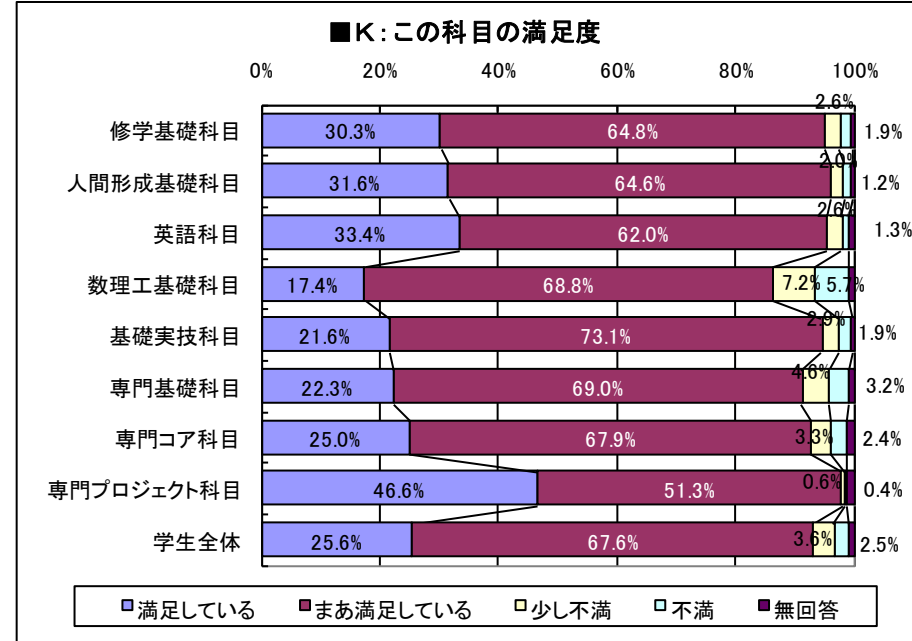
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分による差が非常に大きく、「2時間以上」と「1～2時間程度」を合わせた割合で見ると「専門プロジェクト科目」に最も学習時間を充てており、「専門コア科目」「専門基礎科目」などの専門系の科目が続いていた。一方、「学習は特にしなかった」を見ると「人間形成基礎科目」が突出していた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「英語科目」「基礎実技科目」「修学基礎科目」で肯定的な意見が多く、「専門プロジェクト科目」「数理工基礎科目」で少なかった。ただし、「専門プロジェクト科目」は「教科書・指導書はなかった」という意見が23.6%と非常に多く、他の科目と比べることはできないと言える。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なかったが、「専門プロジェクト科目」「英語科目」「人間形成基礎科目」で評価が高く、「数理工基礎科目」で厳しい評価となっていた。「数理工基礎科目」は教科書・指導書の評価も低く、教材類に課題があるのではないかと思われた。



- 「G:学習支援計画書との一致」は、「沿っていた」と「ほぼ沿っていた」の合計では科目区分による差はほとんどなく、大きな問題はなさそうであったが、「沿っていた」だけを見ると「修学基礎科目」「英語科目」「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「数理工基礎科目」の低さが目立っていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」で肯定的な意見が多く、「数理工基礎科目」「専門基礎科目」「基礎実技科目」の評価が厳しかった。特に「数理工基礎科目」では「進度は速かった」という意見が14.2%であった。
- 「I:学習相談の有効性」では、「専門プロジェクト科目」で「有効であった」という意見が非常に多く、学習相談を頼りにしている様子が見ええる。他の科目では「相談しなかった」が6割前後を占めていた。



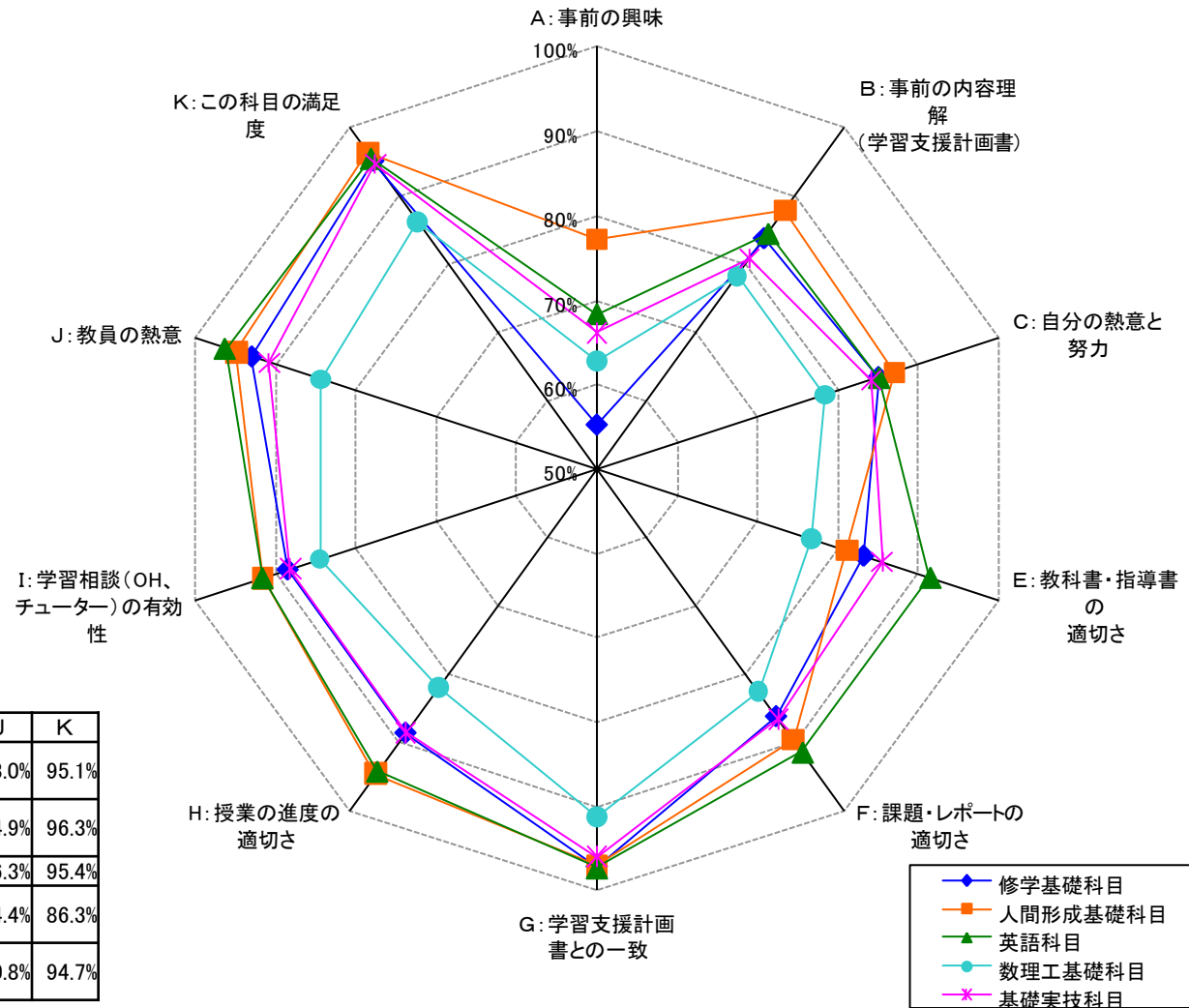
- 「J:教員の熱意」で「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせたものを比較すると、「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「数理工基礎科目」がやや少な目であった。全体を見ると「数理工基礎科目」以外の科目では肯定的な意見は決して少ないわけではなく、学生は教員の熱意をしっかりと感じているものと思われる。
- 「K:この科目の満足度」も「数理工基礎科目」で肯定的な意見がやや少ないものの、他の科目区分の満足度は全体的に高く、9割以上が満足していた。中でも「専門プロジェクト科目」の満足度は高く、「満足している」だけでも46.6%、「まあ満足している」を合わせると97.9%が満足と答えていた。



# <5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- すべての科目区分を比べると数が多いため、一般系の5科目と専門系の3科目に分けて学科同士の比較を行った。
- 一般系の5科目は下記の通りであるが、全体的に「人間形成基礎科目」と「英語科目」に肯定的な意見が多かった。「人間形成基礎科目」は特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」の高さが目立っており、受講前の期待の高さがうかがえる。
- 「英語科目」も全体的に肯定的な意見が多いが、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」の評価が高く、教材が充実している様子が見られる。
- 一方、全体的に評価が低かったのは「数理工基礎科目」で、ほとんどの項目で最も低い評価であり、満足度の低さも目立っていた。
- 「修学基礎科目」と「基礎実技科目」は全体的に中庸な評価であったが、「修学基礎科目」は「A:事前の興味」が非常に低いという特徴が見られた。

### ■ 科目区分別比較レーダーチャート①(一般系科目)

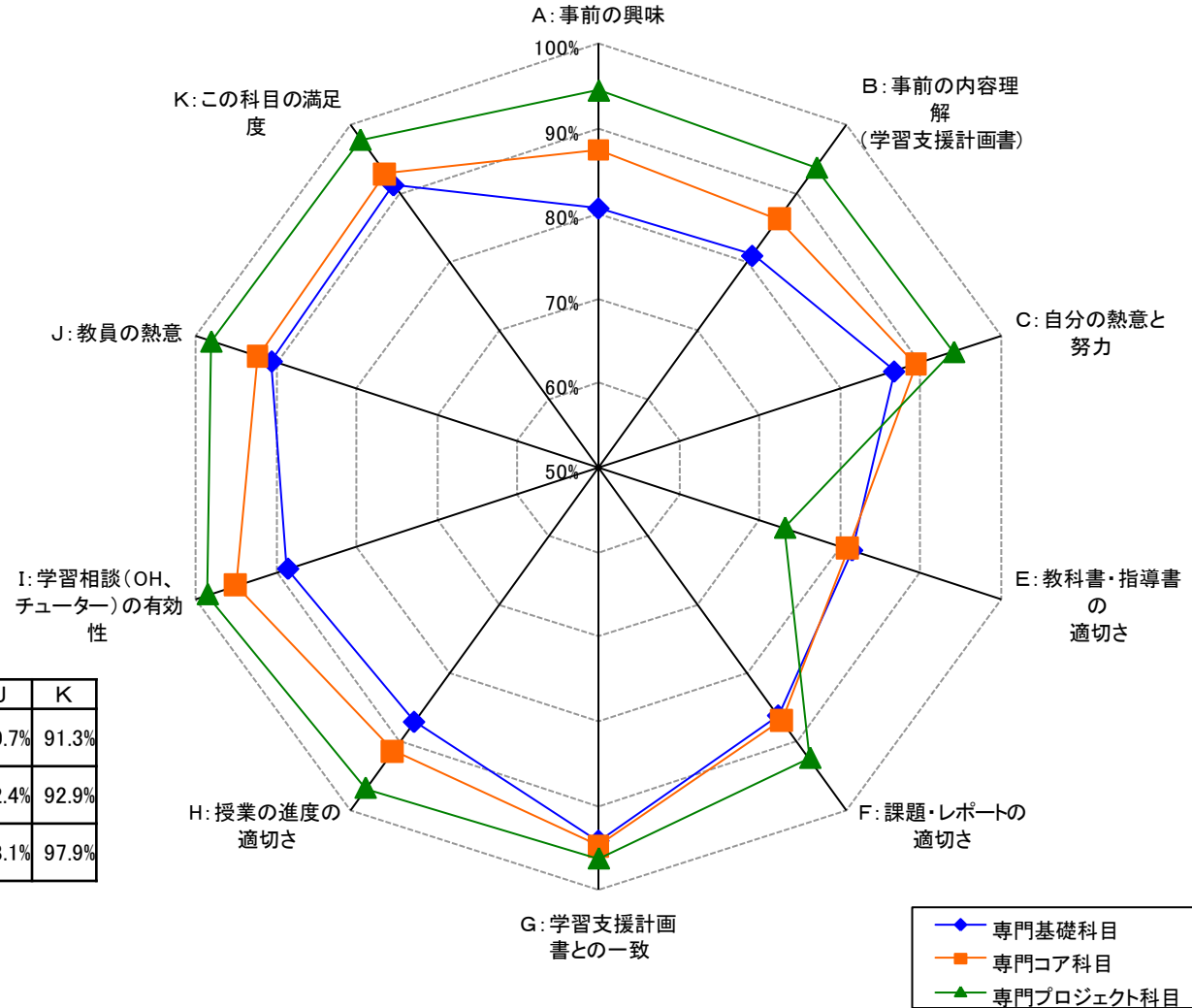


### ■ 一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	55.2%	83.7%	85.1%	83.3%	86.2%	97.1%	88.6%	88.6%	93.0%	95.1%
人間形成基礎科目	77.2%	87.9%	87.1%	81.1%	89.6%	97.0%	94.6%	91.6%	94.9%	96.3%
英語科目	68.4%	84.5%	85.1%	91.5%	91.4%	97.2%	94.2%	91.6%	96.3%	95.4%
数理工基礎科目	62.8%	78.3%	78.4%	76.7%	82.5%	91.2%	81.9%	84.4%	84.4%	86.3%
基礎実技科目	66.2%	80.8%	84.1%	85.5%	86.6%	96.0%	88.5%	88.1%	90.8%	94.7%

- 「専門系」は3つの科目で比較しているが、科目区分による特徴がハッキリとしていた。
- 「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多かった。「E:教科書・指導書の適切さ」だけは評価が低かったが、これは「教科書・指導書はなかった」という意見が多かったためであり、それを除外すると非常に充実した授業になっていると言える。
- 一方、「専門基礎科目」は全体的に低い評価であった。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」といった授業の前段階の評価が低く、「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」といった授業の中身の評価もやや低めであった。
- 「専門コア科目」は全体的に中庸な評価であり、これといった特徴は見られなかった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート②(専門系科目)



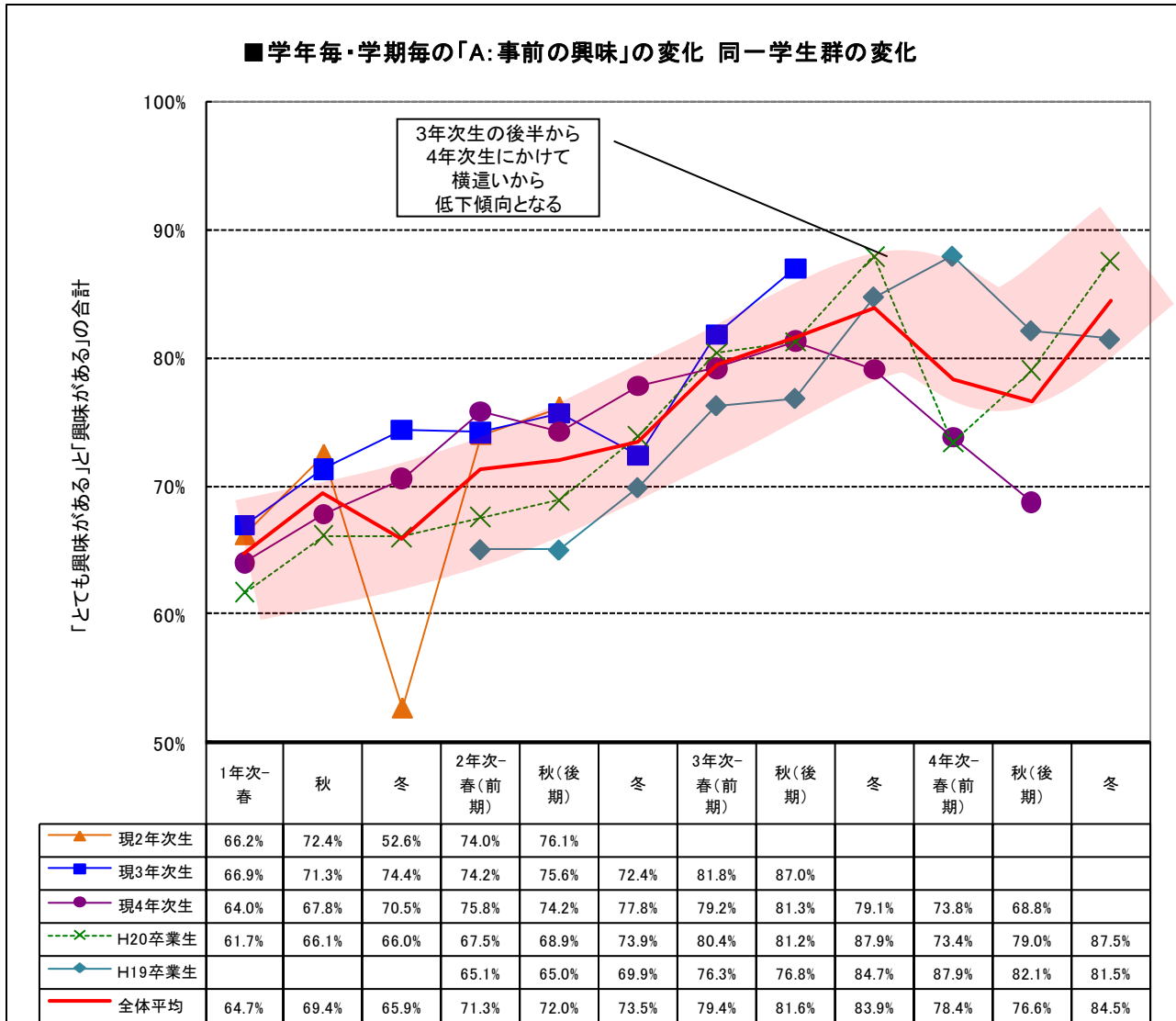
■ 専門系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
専門基礎科目	80.7%	81.0%	86.8%	81.6%	86.2%	94.1%	87.2%	88.6%	90.7%	91.3%
専門コア科目	87.5%	86.3%	89.4%	80.9%	86.8%	94.7%	91.4%	95.0%	92.4%	92.9%
専門プロジェクト科目	94.5%	93.8%	94.1%	73.1%	92.4%	96.2%	96.8%	98.5%	98.1%	97.9%

## <6> 同一学生群の分析

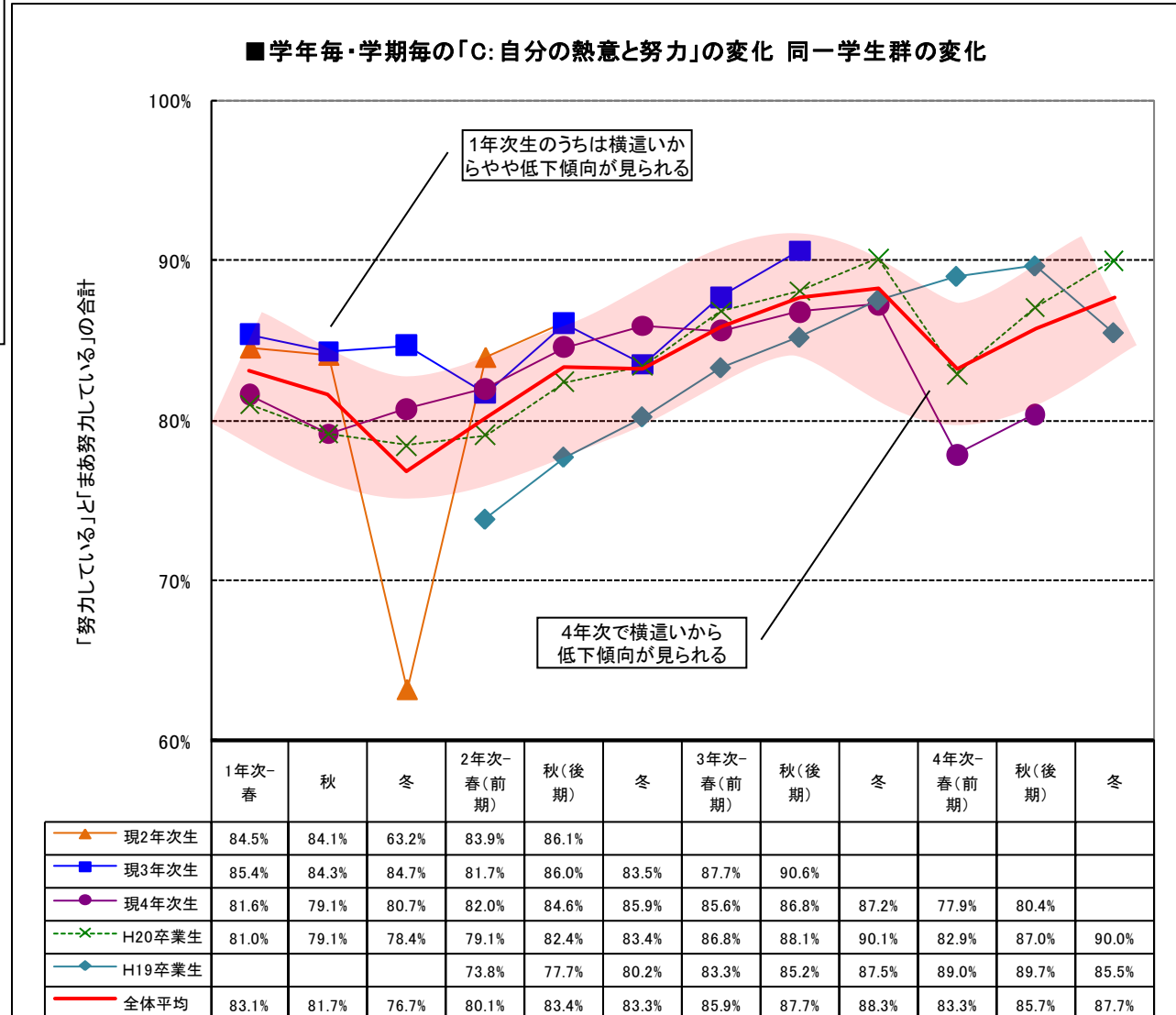


- ここまでに学年毎、学部毎などの差や特徴などを見てきたが、ここでは同一学生群ではどのような変化をしているのか、主な指標に関して確認した。
- 3学期制と2学期制の学生が混在しているが、2学期制の「後期」は3学期制の「秋学期」と一緒にプロットしている。
- 「A:事前の興味」に関しては、やや例外があるものの、ほとんどの学生群で「1年次生」から「3年次生」にかけて興味が強くなっており、「4年次生」の段階で低下したり横這いになる傾向が見られた。
- 「現2年次生」は「1年次生」の「冬学期」で興味が一気に下がっており、「現4年次生」は「4年次生」の「前期」から「後期」にかけて興味が低下するといった特徴が見られた。
- 全体を見ると「4年次生」の段階での興味の低下が課題だと思われるが、授業アンケートに回答している「4年次生」は全回答の1%以下であるため、それほど緊急性の高い課題とは言えない。

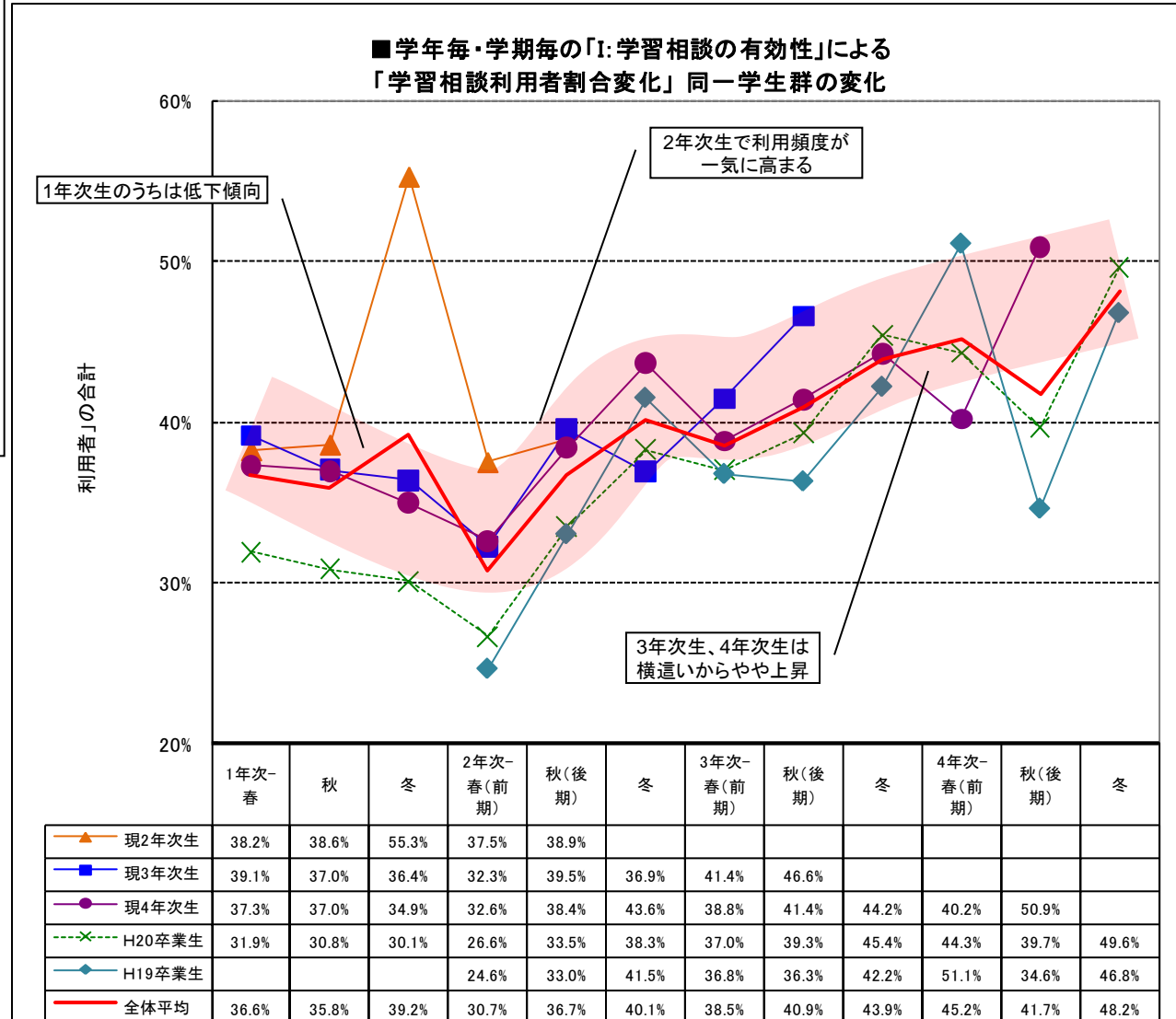




- 次に代表的な指標である「C:自分の熱意と努力」を見ると、変化は穏やかであるが、入学後から「2年次生」にかけて「熱意と努力」が低下し、「2年次生」から「3年次生」にかけては上昇傾向が見られた。
- 前項でも見たように「4年次生」は対象者が少ないため、それほど重視する必要はないが、「4年次生」は「熱意と努力」が大きく低下する傾向が見られた。
- 学生群の特徴を見ると、「現2年次生」は前項の「興味」と同様に「1年次生」の「冬学期」に大きく低下していた。また、「現3年次生」は全体的に高めであり、「熱意と積極性」が強い学生群と言えそうであった。

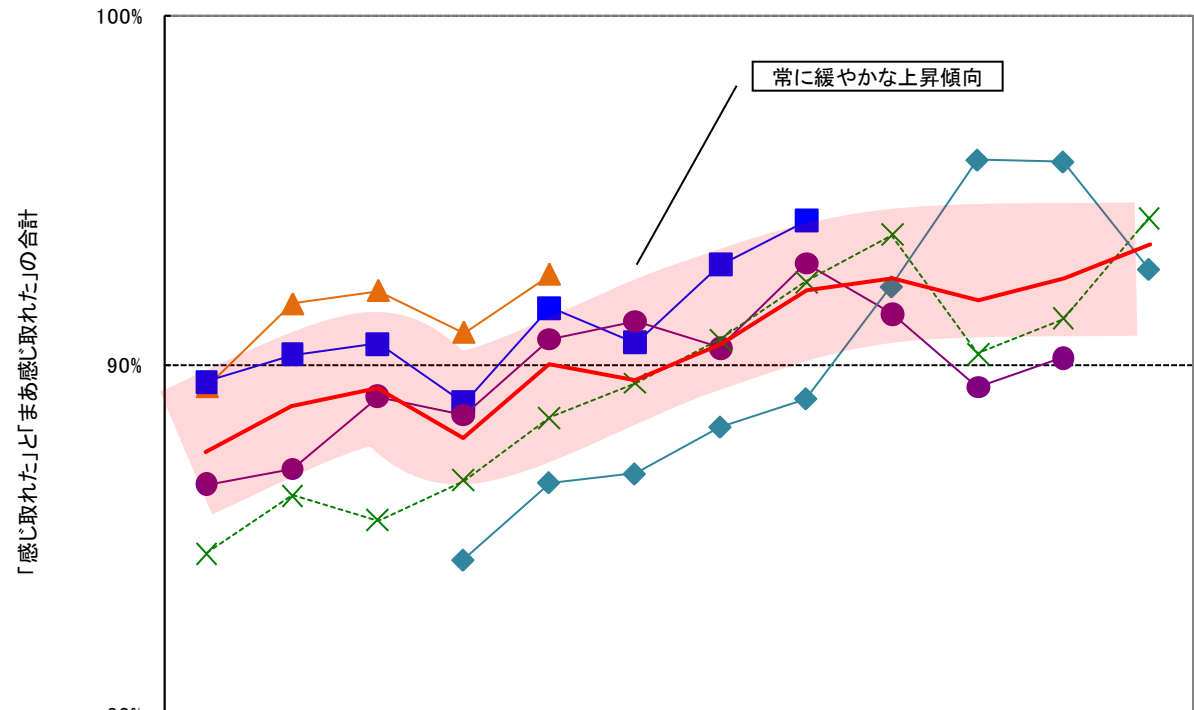


- 「I:学習相談の有効性」に関しては内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 利用者の割合は入学後から「2年次生」の「前期」にかけて減少し、「2年次生」の「後期」から「4年次生」の「前期」にかけて上昇するという変化であった。
- 変化は少ないものの、低学年は「学習相談」をしっかり活用できておらず、このあたりが課題になると思われる。
- 学生群の特徴を見ると、「現2年次生」は「1年次生」の「冬学期」で「学習相談」の利用率が非常に高くなっている。また、「現3年次生」と「現4年次生」はよく似た変化をしており、学生群が変わっても「学習相談」の利用率に大きな違いはないと言えそうであった。



- 「J:教員の熱意」は「1年次生」の後半でやや低下するものの、継続的に肯定的な意見が増加しており、学年が上がるほど教員の熱意を感じるようになってきているようであった。
- 学生群の特徴を見ると、「現2年次生」は「1年次生」の段階から肯定的な意見が多く、教員の熱意を強く感じているようであった。
- 「現3年次生」もやや高めであり、この学生群が「4年次生」になって、どのように変化するか楽しみと言える。
- 学生群によって多少の差はあるものの、教員の熱意はしっかり伝わっているものと思われる。低学年での割合が低いと言っても、9割程度の学生は教員の熱意を感じており、大きな課題はないと言える。

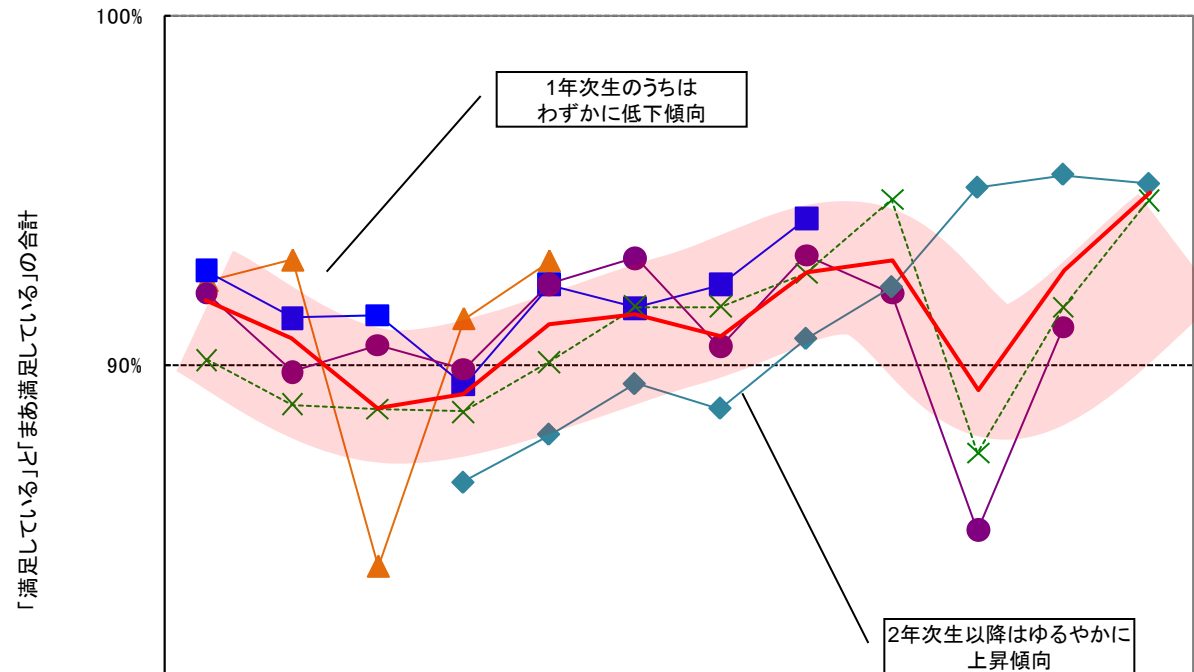
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-春	秋	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
▲ 現2年次生	89.4%	91.7%	92.1%	90.9%	92.6%							
■ 現3年次生	89.5%	90.3%	90.6%	88.9%	91.6%	90.6%	92.9%	94.1%				
● 現4年次生	86.6%	87.0%	89.1%	88.5%	90.7%	91.2%	90.5%	92.9%	91.4%	89.3%	90.2%	
× H20卒業生	84.6%	86.2%	85.5%	86.7%	88.5%	89.5%	90.7%	92.4%	93.7%	90.3%	91.3%	94.2%
◆ H19卒業生				84.4%	86.6%	86.9%	88.2%	89.0%	92.2%	95.9%	95.8%	92.7%
— 全体平均	87.5%	88.8%	89.3%	87.9%	90.0%	89.6%	90.6%	92.1%	92.5%	91.8%	92.4%	93.5%

- 「K:この科目の満足度」も入学後から「2年次生」に至るまではやや低下するものの、「2年次生」から「3年次生」にかけてはゆるやかに上昇していた。
- 回答者の少ない「4年次生」を除くと、満足度は安定しており、どの学年でも9割以上が満足と答えており、学生群が変わっても満足度が高いことが確認できた。
- 学生群による特徴を見ると、「現2年次生」は他の項目と同様に「1年次生」の「冬学期」で大きく低下しているものの、その他は満足度が高めであった。
- 「現3年次生」と「現4年次生」「H20卒業生」の満足度の変化はよく似ており、ここでも学生群が異なっても学年による満足度が一致することが確認できた。
- 「H19卒業生」は「2年次生」以降の結果であるが、「2年次生」「3年次生」の頃の満足度はやや低めであり、「4年次生」の段階で非常に高くなるという特徴が見られた。

■ 学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化

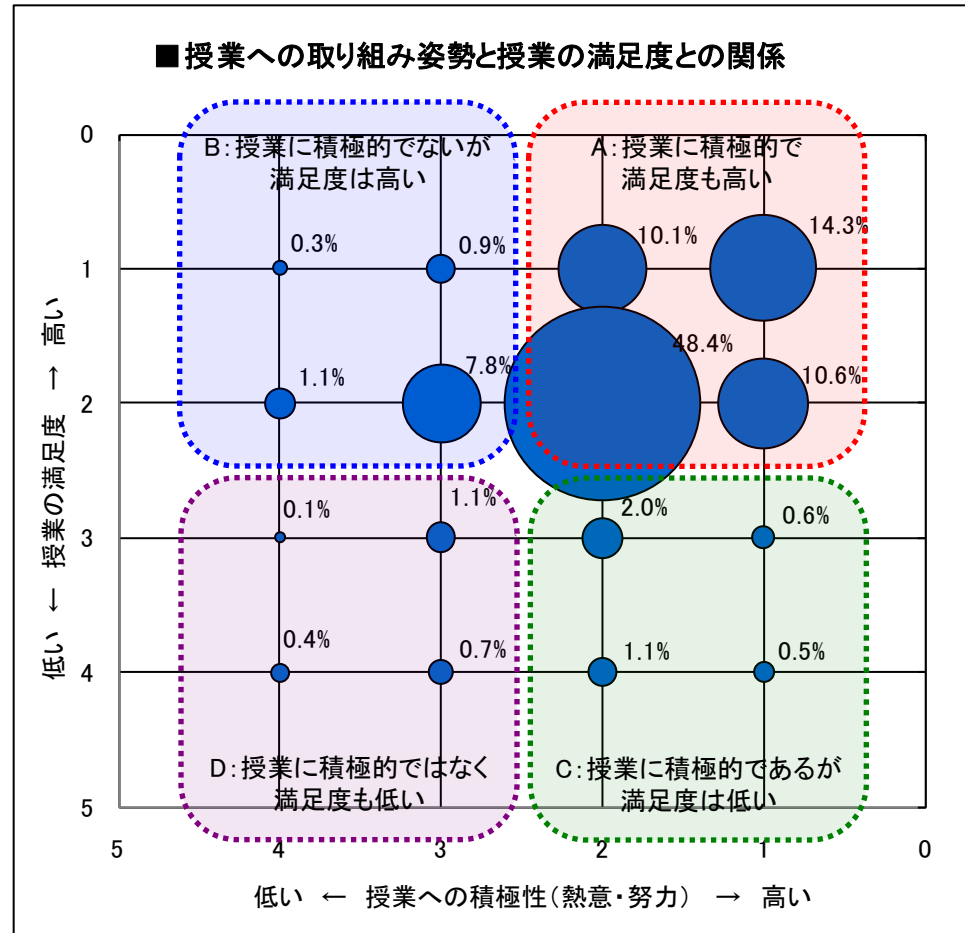


	1年次-春	秋	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
▲ 現2年次生	92.4%	93.0%	84.2%	91.3%	93.0%							
■ 現3年次生	92.7%	91.3%	91.4%	89.4%	92.3%	91.6%	92.3%	94.2%				
● 現4年次生	92.0%	89.8%	90.5%	89.9%	92.3%	93.0%	90.5%	93.1%	92.0%	85.2%	91.1%	
---x--- H20卒業生	90.1%	88.9%	88.7%	88.6%	90.1%	91.7%	91.7%	92.6%	94.7%	87.5%	91.6%	94.7%
◆ H19卒業生				86.6%	88.0%	89.4%	88.7%	90.7%	92.2%	95.1%	95.4%	95.2%
— 全体平均	91.8%	90.7%	88.7%	89.2%	91.1%	91.4%	90.8%	92.7%	93.0%	89.3%	92.7%	94.9%

## <7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

# <7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

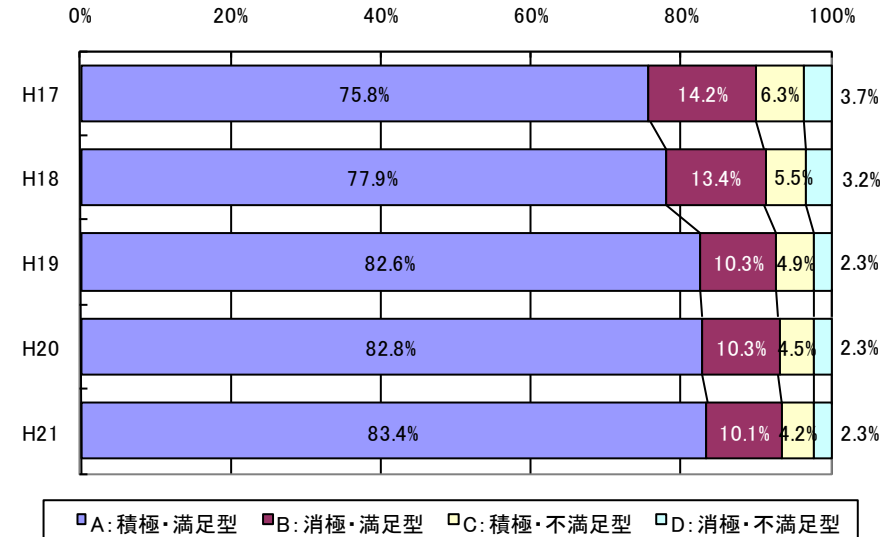
- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という良い状態の学生は全体の83.4%であった。その中でも「満足度」も「積極性」もいずれも最も高い学生は14.3%であった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という学生は10.1%であった。これらの層は積極性を持っていないが授業には満足している学生であり、学問のおもしろさや広がりについで積極性を持つことができるのではないかとと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は4.2%であった。これらの学生は積極的に取り組んだものの満足感を得られていない層であり、「期待はずれ」「授業についていけない」といった原因が考えられる。このままあきらめて積極性まで失うことのないように、しっかりとしたサポートが必要な層であると言える。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の2.3%と非常に少なかったが、最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。これらの学生にはまず、自分の興味ある分野を見つけさせて、そこから積極性を引き出すといった指導が必要になるものと思われる。



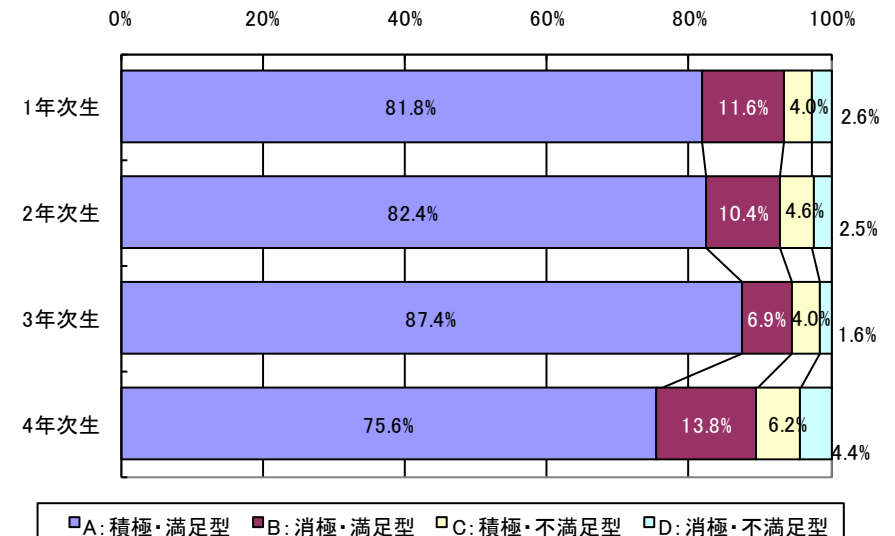
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	83.4%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	10.1%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.2%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	2.3%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 積極性と満足度で分けた4つのグループの割合の経年変化を見ると、今回の「A:積極・満足型」は83.4%であり、前回より0.6ポイントとわずかに増加していた。増加傾向はH17から継続的に続いており、わずかずつではあるが良い状態の学生が増えていると言える。
- 一方、「D:消極・不満足型」は2.3%で、H19より変わっていないかった。また、「B:消極・満足型」「C:積極・不満足型」はいずれもわずかに減少していたが、ほぼ横這い状態であり、全体としては課題を持つ学生は増加していないと言える。
- 学年別に割合を比較すると、「1年次生」と「2年次生」は「A:積極・満足型」はほぼ8割であり、同じような傾向であった。そして、「3年次生」は「A:積極・満足型」が87.4%と多く、良い状態の学生が多いようであった。
- 「4年次生」は「A:積極・満足型」が75.6%とやや少なく、「B:消極・満足型」が13.8%と多い点が特徴的であり、回答者は少ないものの、学生の取り組み状況はやや良くないと言える。

■ 積極性と満足度の経年変化

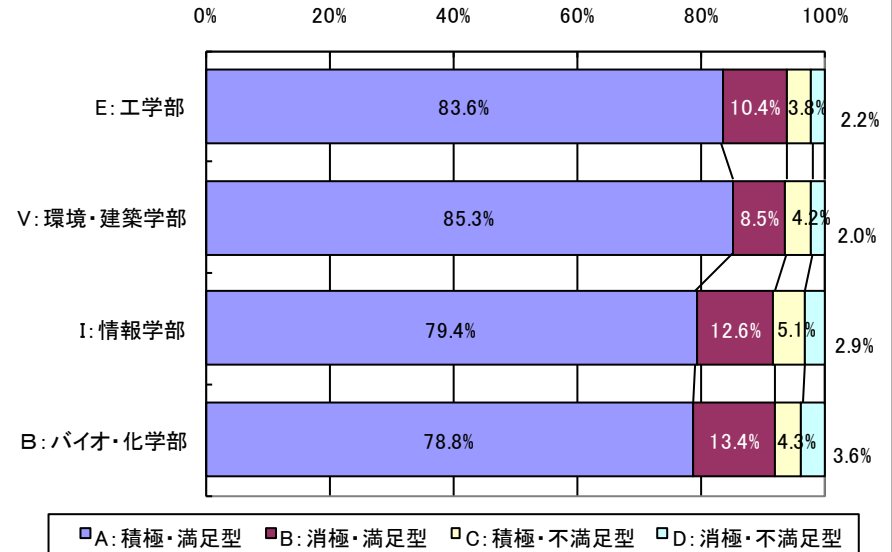


■ 積極性と満足度の学年別比較

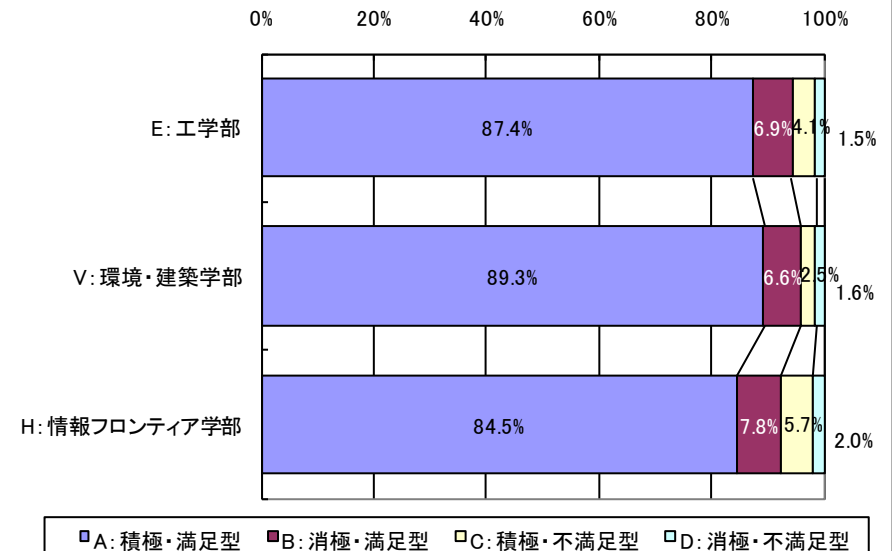


- 新学部体制(1、2年次生)の4学部で比較したところ、それほど差は大きくなかったが、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で85.3%と最も多かった。次いで「E:工学部」「I:情報学部」と続いており、差は少ないものの「B:バイオ・化学部」が最も少なかった。
- 学部間の差を見ると、「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」の割合にはほとんど差がないが「B:消極・満足型」の差が大きく、「V:環境・建築学部」では8.5%であったが、「B:バイオ・化学部」では13.4%であり、4.9ポイントの差があった。
- 旧学部体制(3、4年次生)でも学部間の差はそれほど大きくなく、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で89.3%、「E:工学部」で87.4%、「H:情報フロンティア学部」で84.5%であり、最大と最小の差は4.8ポイントであった。
- 特徴的であったのは「H:情報フロンティア学部」で「C:積極・不満足型」がやや多い点であり、積極的に取り組んでいるにもかかわらず満足が得られていない学生が多いということが分かる。

■ 新学部 積極性と満足度の学部別比較



■ 旧学部 積極性と満足度の学部別比較





## <8> 全体のまとめ

## <8-1>全体の分析で分かったこと

今回の全体傾向、経年変化、学年別比較、同一学生群の分析から分かったことは下記の通り。

### 【全体傾向で確認できた事】

92.8%が授業に満足し、85.6%が熱意を持って取り組んでいた。「学習相談の利用率」と「事前の興味」が低い点は気になるものの、教員の熱意も学生に伝わっており、良い状況にあると言える。

- ◆ 全体の92.8%は授業に満足しており、85.6%は熱意を持って努力していると答えていた。
- ◆ 事前に興味を持っていた学生は74.1%、事前に内容を理解していた学生は82.8%であり、他の指標と比べて事前の興味がやや弱いと言える。
- ◆ 授業を通して教員の熱意を感じていた学生は91.7%と多く、教員が熱意を持って学生に接している様子がうかがえた。
- ◆ 「学習支援計画書」「教科書」「課題・レポート」などには8～9割が満足していたが、「学習相談」の利用者は38.2%と少なかった。

### 【経年変化で確認できた事】

ほとんどの項目が以前から横這いであるが、「授業の満足度」はわずかに上がっており、状態の良さがうかがえる。ただし、「事前の興味」が低下している点には注意する必要がある。

- ◆ 授業に対する満足度は、わずかではあるが前回は上回っており、H15より継続的に上がってきている。
- ◆ 他の設問でもほとんどが以前と比較して横這いか、わずかに上昇している状態であり、肯定的意見が多いものの変化は見られなかった。
- ◆ 唯一、「A:事前の興味」だけは、わずかであるが前回より低下していた。大きな変化ではないため緊急性はないと思われるが、大切な要因である「興味」が下がった点には注意する必要がある。

### 【学年別比較で確認できた事】

「満足度」「教員の熱意」などは学年による差がそれほどなかったが、「事前の興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」などは「1年次生」から「3年次生」にかけて増加する傾向が見られた。

- ◆ 「満足度」は学年による差がそれほど大きくなかったが、「満足している」だけを見ると「2年次生」の値がやや低かった。また、回答数が極端に少ない「4年次生」は全体的に肯定的な意見が少なかった。
- ◆ 「教員の熱意」「教科書・指導書の適切さ」などの評価も学年による差があまりなく、どの学年も高く評価していた。
- ◆ 「事前の興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」などは「1年次生」から「3年次生」にかけて肯定的な意見が増加していた。また、「学習相談の有効性」では「3年次生」の評価が最も高く、「予習・復習などの時間」も「3年次生」が最も積極的であった。

### 【同一学生群で確認できた事】

同一学生群の変化を見ると、「満足度」は入学直後にやや低下して「2年次生」から上昇するが、「事前の興味」は入学後から継続的に上昇しており、興味が低下することはなかった。

- ◆ 同一学生群の意識変化を見ると、「事前の興味」はどの学生群においても「1年次生」から「3年次生」にかけて継続的に強くなることが分かった。
- ◆ 「満足度」はどの学年群でも高いが、入学直後はやや低下して、「2年次生」から「3年次生」にかけて横這いからやや上昇する傾向が見られ、「熱意と努力」でも同じような変化をしていた。
- ◆ 「教員の熱意」に関しては、「2年次生」の段階でやや低下するが、それ以外では高学年ほど熱意を感じるようになっていた。
- ◆ 「学習相談」の利用者は「1年次生」から「2年次生」にかけて大きく減少しており、その後は徐々に多くなっていた。

## 【新学部別比較で確認できた事】

新構成の学部では「環境・建築学部」は良い状態にあるが、「情報学部」では全体的に評価が低く、「満足度」の差は少ないが、「事前の興味」「自分の熱意と努力」などの差がやや大きめであった。

- ◆ 新構成(4学部)では、ほとんどの項目で「環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「事前の興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」などが高く、積極的な姿勢がうかがえた。
- ◆ 「環境・建築学部」に次いで、「工学部」「バイオ・化学部」で肯定的な意見が多かった。特に「工学部」の「授業の満足度」はわずかではあるが「環境・建築学部」を上回っており、充実しているものと思われる。
- ◆ 「情報学部」は全体的に肯定的な意見が少なく、「事前の興味」「事前の内容理解」「満足度」など、主要な指標は最も低かった。

## 【旧学部別比較で確認できた事】

旧構成の学部では学部の差がハッキリしており、ほとんどの項目で「環境・建築学部」の評価が高く、「情報フロンティア学部」が低めであった。

- ◆ 旧構成(3学部)ではほとんどの項目で「環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、非常に良い状態にあるものと思われる。
- ◆ 上記に次いで、「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていたが、この2学部の差はあまり大きくなく、似通った傾向であった。
- ◆ 「満足度」は学部による差がそれほど大きくなかったが、「事前の興味」の差はやや大きく、「工学部」の高さと「情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。

## 【新学科別比較で確認できた事】

各学部の中での学科間の差はそれほど小さくなく、同じ学部であれば同じような傾向になることが分かった。ただし、「ロボティクス学科」と「応用バイオ学科」の低さはやや目立っていた。

- ◆ 「工学部」では、「機械工学科」と「情報通信工学科」が全体的に高く、「ロボティクス学科」が低めであり、「事前の興味」の低さが目立っていた。
- ◆ 「環境・建築学部」は学科による差が非常に少ないが、「建築都市デザイン学科」がやや高めで、「環境土木工学科」の「満足度」が高かった。
- ◆ 「情報学部」は目立つ学科がなく全体的に低かったが、「メディア情報学科」「情報経営学科」がやや高めであった。
- ◆ 「バイオ・化学部」は2学科であるが、学科間の差はハッキリしており、「応用化学科」が全体的に高く、「応用バイオ学科」が低かった。ただし、「満足度」の差はほとんどなかった。

## 【旧学科別比較で確認できた事】

「環境・建築学部」は学部別に見ると満足度が高いが、学科別に見ても学科間の満足度の差が非常に少なく、全ての学科が良い状況にあることが分かった。

- ◆ 「工学部」では「航空システム学科」「電気電子学科」「機械学科」がやや高めであり、「ロボティクス学科」がやや低めであった。「ロボティクス学科」は特に「授業の進度の適切さ」「事前の内容理解」が低めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」では「環境学科」がやや低めであるが、他の学科には目立つ特徴はなく、「満足度」は全ての学科でほぼ一致していた。
- ◆ 「情報フロンティア学部」は学科間の差がやや大きく、「情報マネジメント学科」で肯定的な意見が多く、「メディア情報学科」と「生命情報学科」がやや低めであった。特に「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」の差は大きく、教材類に差があるのではないかと思われる。

### 【科目区分別比較で確認できた事】

「専門プロジェクト科目」の評価は全般的に高く、専門系の科目に興味を持っている様子がうかがえた。また、「満足度」は「英語」「人間形成基礎」「修学基礎」などの一般科目で高めであった。

- ◆ 科目区分別に比較すると「専門プロジェクト科目」がほとんどの項目で高い評価であり、特に「満足度」「教員の熱意」「事前の興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」の高さが目立っていた。
- ◆ 「事前の興味」と「事前の内容理解」では上記に次いで「専門コア科目」「専門基礎科目」「人間形成基礎科目」が高く、学生が専門系の科目に興味を持っている様子がうかがえた。
- ◆ 「満足度」は「英語科目」「人間形成基礎科目」「修学基礎科目」が高めであり、「数理工基礎科目」の低さが目立っていた。
- ◆ 「教員の熱意」での「英語科目」が高い点も目立っていた。

### 【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「A: 積極・満足型」は83.4%と多く、H17から継続的に増加していた。また、「A: 積極・満足型」は「1年次生」から「3年次生」にかけて徐々に増加しており、学部では「環境・建築学部」で多かった。

- ◆ 積極性と満足度の指標で見ると、最も良い状態である「A: 積極・満足型」が83.4%で、H17から継続的に増加していた。
- ◆ 「A: 積極・満足型」は「1年次生」から「3年次生」にかけて増加しており、回答者が少ない「4年次生」で最も少なかった。
- ◆ 新学部、旧学部ともに「環境・建築学部」で「A: 積極・満足型」が最も多く、充実している様子がうかがえた。
- ◆ 新学部では「情報学部」「バイオ・化学部」で「B: 消極・満足型」の多い点が目立っており、旧学部では「情報フロンティア学部」で「C: 積極・不満型」がやや多めであった。

## <8-2>全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 92.8%が授業に満足し、85.6%が熱意を持って取り組んでいた。「学習相談の利用率」と「事前の興味」が低い点は気になるものの、教員の熱意も学生に伝わっており、良い状況にあると言える。
- ほとんどの項目が以前から横這いであるが、「授業の満足度」はわずかに上がっており、状態の良さがうかがえる。ただし、「事前の興味」が低下している点には注意する必要がある。
- 「満足度」「教員の熱意」などは学年による差がそれほどなかったが、「事前の興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」などは「1年次生」から「3年次生」にかけて増加する傾向が見られた。
- 同一学生群の変化を見ると、「満足度」は入学直後にやや低下して「2年次生」から上昇するが、「事前の興味」は入学後から継続的に上昇しており、興味が低下することはなかった。
- 新構成の学部では「環境・建築学部」は良い状態にあるが、「情報学部」では全体的に評価が低く、「満足度」の差は少ないが、「事前の興味」「自分の熱意と努力」などの差がやや大きめであった。
- 旧構成の学部では学部の差がハッキリしており、ほとんどの項目で「環境・建築学部」の評価が高く、「情報フロンティア学部」が低めであった。
- 「専門プロジェクト科目」の評価は全般的に高く、専門系の科目に興味を持っている様子が見えた。また、「満足度」は「英語」「人間形成基礎」「修学基礎」などの一般科目で高めであった。
- 「A:積極・満足型」は83.4%と多く、H17から継続的に増加していた。また、「A:積極・満足型」は「1年次生」から「3年次生」にかけて徐々に増加しており、学部では「環境・建築学部」が多かった。



- ❖ 各指標はほぼ横這いであるが、授業に満足している学生はわずかに増加して92.8%となり、85.6%の学生が熱意を持って取り組んでいた。全体を見て緊急性の高い課題は見あたらないが、「事前の興味」がわずかに低下している点が気になった。
- ❖ 「事前の興味、内容理解」「自分の熱意と努力」などは「1年次生」から「3年次生」にかけて強くなり、「満足度」などは入学後に少し低下して「2年次生」から上がる傾向が見られ、「1年次生」の受講姿勢にやや課題があるように思われる。「1年次生」に対するオリエンテーションや事前の内容説明に関して、改善の余地がないか探る必要があると思われる。
- ❖ 「環境・建築学部」が良い状態であり、特に「事前の興味、内容理解」が高い点が特徴であった。また、科目区分では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。これらの高さの要因を探ることで、学生の志向が見えてくるのではないと思われる。